

史 跡

上之國勝山館跡 XXVI

—平成16年度発掘調査環境整備事業概報—

2005・3

上ノ国町教育委員会

序

昭和54年から開始された勝山館跡の環境整備事業は、今年で26年を経過し、この間の調査によってさまざまな新しい知見を得ることができました。

今年度は、勝山館跡後方部分の調査を行ないました。ここは、勝山館跡の発掘を始めた頃にも調査を行なった場所です。当時は、勝山館跡という遺跡の性格や構造などをどのように解明すべきか、全く手探りの状態にあったのですが、陶磁器や木製品など、種々の遺物が大量に見つかり、垣間見られた勝山館跡の人たちの暮らし振りに、大きな驚きと感動が広がったと聞いております。

それから約四半世紀を経過した現在、平成12年度から行なわれた「史跡等活用特別事業－ふるさと歴史の広場」の中で計画された展示施設「勝山館跡ガイダンス施設」が今年の4月23日にオープンします。当施設では、勝山館跡の200分の1の模型や夷王山墳墓群で見つかった土葬墓や火葬墓、またアイヌ墓のレプリカなどを展示しております。さらに、主郭部分の地割や建物などの平面表示を行なうことで、少しずつですが当時の暮らしぶりや景観をイメージできるようになってきました。このような施設の建設や整備を行なうことができたのも諸先生方のご指導ご助言のもと、発掘調査を継続して行なうことができた結果であると信じております。

今年度も文化庁記念物課を始めとする関係各機関、史跡整備検討委員会や勝山館跡調査研究専門員の諸先生など多くの方々のご指導ご助言を頂戴し事業を進めることができました。心より感謝申し上げる次第であります。

今後とも更に努力を重ね、本事業の円滑な推進を図る所存であります。関係各機関、諸先生には一層のご指導ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年3月

北海道檜山郡上ノ国町教育委員会

教育長 上野 秀勝

本文目次

序

本文目次／挿図目次／表目次／写真図版目次

例言／引用参考文献

I. 勝山館跡の調査	1
1. 調査にいたる経緯	1
2. 調査位置	1
3. 調査方法	1
4. 調査経過	1
5. 基本層序	1
II. 遺構確認調査	5
1. 検出遺構	5
2. 出土遺物	36
III. 小 括	47
IV. 上ノ国町内の遺跡（勝山館跡ほか）	
出土ガラス玉の非破壊分析	49
1. はじめに	49
2. 勝山館跡及びその周辺の遺跡と ガラス玉の出土状況	49
3. 試料の観察と分析方法	49
4. 結果と考察	51
5. おわりに	56
V. 上之国勝山館跡から出土した花粉・孢子、 種子、寄生虫卵について	58
1. 試料について	58
2. 試料の処理方法	58
3. 花粉分析結果について	58
4. 寄生虫卵について	59
5. 種子について	59
6. 沢1、沢2周辺の古環境について	62
VI. まとめ	65
報告書抄録	97

挿図目次

第1図 遺跡地形図・調査区位置	2
第2図 年次別調査範囲図	3
第3図 調査区遺構配置図	4
第4図 トレンチ1（整地盛土、沢2）、 トレンチ2 平面図他	7
第5図 トレンチ1（沢1、溝3）平面図他	10
第6図 トレンチ1（沢1、第144号墓、 土壌2・3、溝3）平面図他	11
第7図 沢1 遺物分布図	18
第8図 トレンチ1（第132～144号墓、 土壌1、溝2）平面図他	19
第9図 トレンチ1 柱列想定図他	23
第10図 第132号墓 平面図他、出土遺物	27
第11図 第133号墓 平面図他、出土遺物	28
第12図 第133号墓 出土遺物	29
第13図 第134号墓 平面図、遺物分布図	30
第14図 第134号墓 出土遺物	31
第15図 第137号墓 平面図他、出土遺物	32
第16図 第138号墓 平面図他、出土遺物	33
第17図 第135号墓・土壌1 平面図、遺物分布図	34
第18図 第135号墓他 出土遺物	35
第19図 トレンチ3・4 平面図他	37
第20図 調査区出土遺物1（陶磁器）	38
第21図 調査区出土遺物2（陶磁器・木製品）	39
第22図 調査区出土遺物3（木製品）	40

表目次

表1（第4図）トレンチ1南北セクション 東壁土層観察表	13
表2（第4・5図）トレンチ1東西セクション 南壁土層観察表	14
表3（第4図）トレンチ1東西セクション 南壁土層観察表	15
表4（第4図）トレンチ2東西セクション 南壁土層観察表	15
表5（第5図）溝3土層観察表	16
表6（第6図）トレンチ1東西セクション 北壁土層観察表	16

表7	(第8図)トレンチ1東西セクション 南壁土層観察表	21
表8	(第8図)トレンチ1南北セクション 東壁土層観察表	21
表9	(第8図)トレンチ1南北セクション 西壁土層観察表	22
表10	第133号墓土層観察表	29
表11	第134号墓土層観察表	31
表12	トレンチ3南北セクション 西壁土層観察表	37
表13	トレンチ4東西セクション 北壁土層観察表	37
表14	出土遺物観察表	41
表15	出土遺物観察表	42
表16	出土遺物観察表	43
表17	中世土器・陶磁器 種類・器種別 組成表(全体)	45
表18	中世土器・陶磁器 種類・器種別 組成表(整地盛土)	45
表19	中世土器・陶磁器 種類・器種別 組成表(沢1)	45
表20	中世土器・陶磁器 種類・器種別 組成表(沢2)	45
表21	フローテーション出土種子集計表	46
IV		
表1	上ノ国遺跡(勝山館跡・比石館跡・ 宮ノ沢右岸)出土のガラス玉試料	50
表2	ガラス玉試料のEPMAによる 化学成分分析値(単位%)	52
表3	ガラス玉試料の成分比率(単位%) と化学的分類によるガラス種別	53
V		
第1表	沢1堆積物から検出された花粉・孢子	60
第2表	沢1堆積物から検出された寄生虫卵	60
第3表	勝山館跡から出土した植物遺体(1)	63
図目次		
図1	中世土器・陶磁器 種類別組成比(破片数)	45
図2	中世土器・陶磁器 種類別組成比(個体数)	45
図3	推定頭位	46
図4	第I地区棺推定規模	46

IV		
図1	北海道および本州に出土する ガラス玉の材質の変遷	54
図2	上ノ国遺跡から出土した ガラス玉組成の三角相関図	55

写真図版目次

PL1	整備状況
PL2	整備状況
PL3	整備状況
PL4	整備状況
PL5	整備状況
PL6	遺構検出状況
PL7	遺構検出状況・出土遺物
PL8	上ノ国遺跡出土ガラス玉試料の実体顕微鏡 写真
PL9	遺構検出状況
PL10	遺構検出状況
PL11	遺構検出状況
PL12	遺構検出状況
PL13	遺構検出状況
PL14	遺構検出状況
PL15	遺構検出状況
PL16	遺構検出状況
PL17	遺構検出状況
PL18	遺構検出状況
PL19	遺構検出状況
PL20	遺構検出状況
PL21	出土遺物(陶磁器)
PL22	出土遺物(陶磁器・かわらけ・木製品)
PL23	出土遺物(木製品)
PL24	出土遺物(鉄製品・鍛冶関連遺物)
PL25	出土遺物(銅銭)
PL26	検出された花粉・孢子
PL27	出土した植物種子1
PL28	出土した植物種子2

例 言

1. 本書は史跡上之国勝山館跡の史跡等総合整備活用推進事業に伴う平成16年度の遺構確認発掘調査・整備事業の概要をまとめたものである。

2. 事業の体制は次のとおりである。

事業主体者 上ノ国町教育委員会

教育長 上野秀勝

指導 史跡上之国勝山館跡調査研究専門員

朝尾直弘 京都橘女子大学教授

榎森 進 東北学院大学教授

仲野 浩 東北芸術工科大学名誉教授

上ノ国町史跡整備検討委員会

仲野 浩 東北芸術工科大学名誉教授

榎森 進 東北学院大学教授

鈴木 亘 鶴見大学講師

田中哲雄 東北芸術工科大学教授

宮本長二郎 東北芸術工科大学教授

渡辺定夫 東京大学名誉教授

主管 上ノ国町教育委員会文化財課

課長 渡部孝之

主任学芸員 松崎水穂

文化財係長・学芸員 斎藤邦典

博物館整備係 瀧田俊一郎

嘱託発掘調査員 塚田直哉

高橋 昇

郷土資料調査専門員 久末久義

臨時事務補 京谷佳子

調査担当者 松崎水穂

発掘調査員 塚田直哉

調査補助員 笠谷奈智子 竹内江美子

作業員 池田泰子 井越祥子 大谷弓子

奥寺京子 勝田百香 小滝あけみ

笹浪竹志 鈴木真澄 田畑亜紀

目黒加奈子

3. 本書の編集は、松崎・塚田が協議の上、塚田が行なった。執筆は、松崎・塚田が行ない文末に分担者名を記した。また、遺構・遺物の実測図と図版等の作成は、調査補助員・作業員が行なった。

4. 本書に掲載の写真撮影は、塚田が行なった。写真撮影は、35mm カラーリバーサル及び、カラーネガの2種類のフィルムを使用した。

5. 挿図の縮尺は、各図ごとにスケールを付しているが陶磁器・木製品は縮尺3分の1、鉄製品・そ

の他は縮尺2分の1、銅銭は原寸で掲載した。遺物写真の縮尺は不統一であるが、P L 21~22・24・23-1~3・5は縮尺2分の1、P L 23-6~7は縮尺3分の1、P L 23-4は縮尺6分の1、P L 25は原寸で掲載した。

6. 遺物の点数については、現場での取り上げ点数を表す。

7. 土層の色調観察には、「新版標準土色帳」(農林水産技術会議事務局1993)を使用した。

8. 本書に掲載している遺物には観察表を付し、法量及び諸特徴を一覧できるようにした。また、表中の()については、欠損などして残存している現存値を示し、[]は鉄釘などに棺の板材が付着したり、錆のために正確な長さが計測できないための推定値として示した。

9. 鉄釘の分類については、「近世の釘」(金箱1984)を参考にした。銅銭の分類については、「新版 中世出土銭の分類図版」(永井2002)を参考にした。また陶磁器の分類については、「14~16世紀の青磁碗の分類について」(上田1982)、「14~16世紀の白磁の型式分類と編年」(森田1982)、「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」(小野1982)、「瀬戸・美濃大窯製品の生産と流通」(藤原2001)、「県道鯖江・美山線改良工事に伴う発掘調査報告書」(朝倉氏遺跡資料館1983)を参考にした。

10. 出土遺物、調査写真・図面等は、上ノ国町教育委員会で管理・保管している。

11. 調査ならびに本書の作成にあたり、次の関係機関と各位からご指導、ご助言を頂戴した。記して感謝申し上げたい(敬称略)。

文化庁記念物課 本中眞 小野健吉 磯村幸男

伊藤正義 市原富士夫 坂井秀弥 岡田康博 玉

田芳英 建造物課 刈谷勇雅 上野勝久 大和智

美術学芸課 佐々木利和 北海道教育庁文化課

畑宏明 大沼忠春 種市幸生 田才雅彦 長沼孝

北海道大学 天野哲也 野田真人 北海道教育大

学 谷本亜晃久 札幌学院大学 白杵勲 北海学

園大学 澤井玄 藤女子大学 小野裕子 駒沢大

学 葦島栄紀 函館工業高等専門学校 水上正勝

中村和之 弘前大学 藤沼邦彦 関根達人 東京

大学史料編纂所 黒嶋敏 中央大学 前川要 法

政大学 中野栄夫 澤登寛聡 和氣俊行 和光大

学 綿引弘 名古屋大学 小田寛貴 兵庫大学
金子哲 北海道開拓記念館 赤松守雄 山田悟郎
右代啓視 鈴木琢也 国立歴史民俗博物館 小野
正敏 千田嘉博 村木二郎 北海道埋蔵文化財セ
ンター 千葉英一 越田賢一郎 阿部明義 大泰
司統 坂本尚史 函館市教育委員会 長谷部一弘
阿部千春 福田祐二 野村祐一 上磯町教育委員
会 森靖裕 大野町教育委員会 熊谷航 松前町
教育委員会 久保泰 前田正憲 今金町教育委員

会 寺崎康史 宮本雅通 厚真町教育委員会 小
野哲也 厚沢部町教育委員会 石井淳平 市浦村
教育委員会 榊原滋高 浪岡町史編纂室 工藤清
泰 秋田県教育庁弘田柵跡調査事務所 船木義勝
高橋学 男鹿市教育委員会 同 泉 明 工藤直
子 能代市教育委員会 同 播摩芳紀 水沢市埋
蔵文化財センター 伊藤博幸 山形県埋蔵文化セ
ンター 山口博之 富岡一郎

引用参考文献

- 網野善彦・石井進編 2001 「上之国勝山館跡と夷王
山墳墓群から見えるもの」『北から見直
す日本史』大和書房
- 石井 進 2002 「中世のかたち」『日本の中世1』
中央公論新社
- 上田秀夫 1982 「14～16世紀の青磁碗の分類につ
いて」貿易陶磁研究第2号
- 小野正敏 1982 「15、16世紀の染付碗、皿の分類と
その年代」貿易陶磁研究第2号
- 金箱文夫 1984 「近世の釘」『物質文化43』物質文
化研究会
- 谷畑美穂・鈴木隆雄 2004 「考古学のための古人骨
調査マニュアル」学生社
- 永井久美男 2002 「新版 中世出土銭の分類図版」
兵庫埋蔵銭調査会
- 永井久美男 1998 「近世の出土銭Ⅱ－分類図版篇－」
兵庫埋蔵銭調査会
- 藤澤良祐 2001 「瀬戸・美濃大窯製品の生産と流通」
『戦国・織豊期の陶磁器流通と瀬戸・美濃
大窯製品－東アジア的視野から－』（財）
瀬戸市埋蔵文化財センター
- 森田 勉 1982 「14～16世紀の白磁の型式分類と編
年」貿易陶磁研究第2号
- (財)アイヌ文化振興・研究推進機構 2001 「よみが
える北の中・近世－掘り出されたアイヌ
文化－」
- 朝倉氏遺跡資料館 1983 「県道鯖江・美山線改良工
事に伴う発掘調査報告書」
- 上ノ国町教育委員会 1980～2004 「史跡上之国勝山
館跡Ⅰ～XXV」
- 上ノ国町教育委員会 1984 「夷王山墳墓群」
- 上ノ国町教育委員会 1991 「夷王山墳墓群Ⅱ」

I. 勝山館跡の調査

1. 調査にいたる経緯

史跡上之國勝山館跡は、1977年に国の史跡として指定され、1979年から環境整備事業を開始した。2000年からは、史跡等活用特別事業による整備事業を進め、その一環としてガイダンス施設の建設や展示する墳墓・勝山館跡の模型製作を行った。

2004年は、史跡等総合整備活用推進事業として、勝山館跡の遺構確認調査と整備、またガイダンス施設の2005年春のオープンに向けて準備を進めている。

2. 調査位置

今年度の発掘調査は、館後方の28 J・Kグリッド付近の昭和55・56年度と平成12年度に行った調査区の間部分、一部夷王山墳墓群第 I 地区に相当する場所で行った。

勝山館跡は、寺ノ沢用水施設跡や華ノ沢倉庫群といった遺構が空壕の外側に位置し、搦手の防御的な弱さや、昭和57年度に検出された道路跡が勝山館跡と夷王山墳墓群を結ぶものかといった問題点が指摘されていた。

そのため、これら空壕や道路跡を検出するためにトレンチを8ヶ所設定し、発掘調査を行った。

トレンチ1・2は、Ko-d 降下後に構築された土塁に囲まれた標高109~113mの場所に設定した。

トレンチ3は、その西側の106・108号墓と109号墓を結ぶ標高116~117m地点に設定し、また自然研究路東側の華ノ沢倉庫群に向かう西側斜面の標高106~111m地点にトレンチ4~8を設定した。

3. 調査方法

調査区は、地形に合わせて設定したため、昭和55年度に設定した勝山館跡のグリッドと軸線が異なるので、調査区に合わせた任意のグリッド(ひらがなと算用数字の組み合わせにより呼称)を設定し、整理作業時に従来の勝山館跡のグリッドに置き換えた。

遺構の実測は、全体の平面図・セクション図について、1/20、1/40の縮尺を用いた。また個別の遺構図面については、1/10の縮尺を用いた。

遺構番号は、検出された順で遺構の種類ごとに番号を付した。

遺物取り上げは、中世面より上層(I層、II層)のものについてはグリッド別に層位ごとに取り上げた。

中世包含層・遺構から出土した遺物については、出土地点、標高値を記録し、層位ごとに取り上げを行なった。

4. 調査経過

5月下旬

調査区の設定をし、調査機材等の搬入と整備を行なう。重機を使用して表土を除去する。重機による表土除去後、人力で遺構検出を行った。トレンチ1で道路跡と思われる整地盛土遺構、沢1、墓などを確認した。

6月

沢1においてKo-dが層状に堆積しているのを確認し、下層の木質層まで掘り下げる。木質層より箸、ヘラ、漆椀などの木製品が出土する。道路跡と思われる整地盛土から陶磁器が出土し、その下層より浅い沢2を検出する。沢1を完掘し、完掘写真を撮影する。

7月

135号墓より頭蓋骨・歯が出土する。完掘平面図を作成し、全体清掃を行い、全景写真の撮影をする。調査区にナイロンを敷いて埋め戻しを行い、作業を終了した。

5. 基本層序

I層：近現代に相当する堆積層である。

II層：近世に相当する堆積層である。下部には1640年降灰のKo-d(駒ヶ岳d)火山灰の層を含む。

この火山灰層は上層を近世面、下層を中世面と区別するために目安としている層である。

III層：中世後期(15~16世紀)に相当する整地層である。

IV層：縄文~擦文時代に相当する堆積層で、3層に細分される。

IV a層：黒色の腐植土層で、擦文期に相当する層である。

IV b層：IV a層の下層に堆積する10世紀中葉以降のB-Tm(白頭山-苦小牧)火山灰層である。

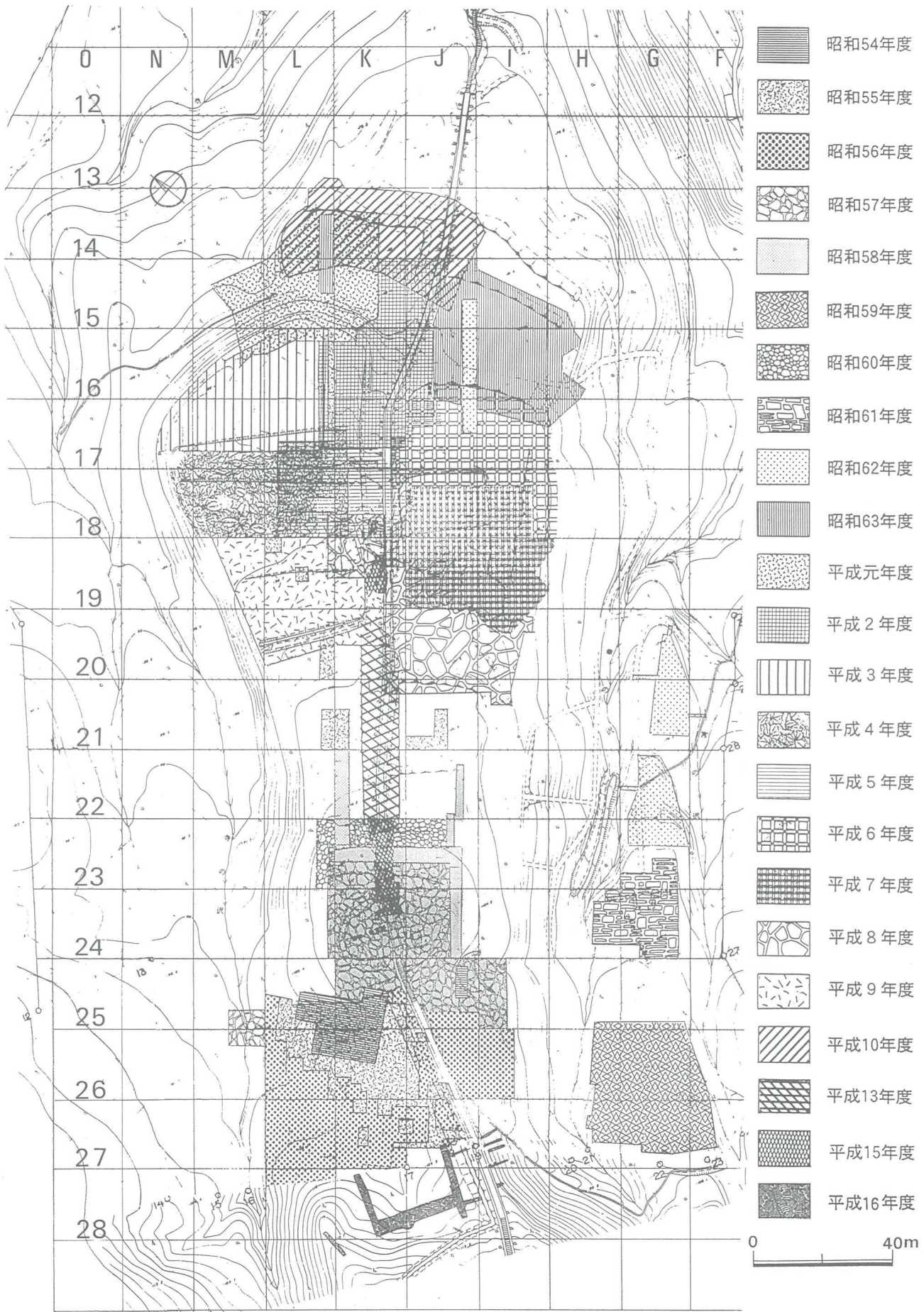
IV c層：IV b層の下層に堆積する黒色の腐植土層で、縄文時代に相当する層である。

(塚田)

史跡 上之國勝山館跡追加指定範囲参考図

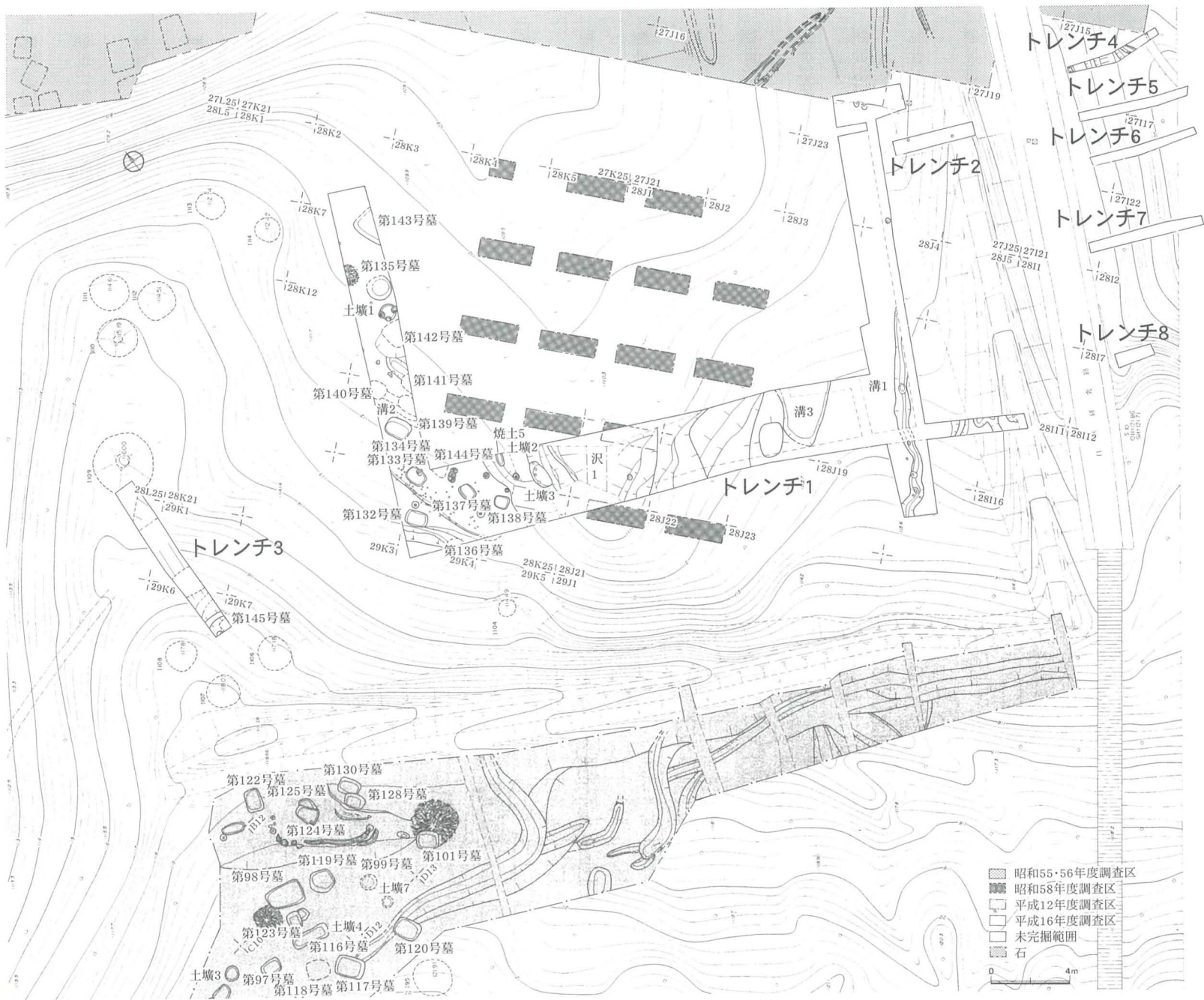


第1図 遺跡地形図・調査区位置



第2図 年次別調査範囲図

第3図 調査区遺構配置図



Ⅱ. 遺構確認調査

1. 検出遺構

本年度は、トレンチ1～8を設定して発掘調査を行った。遺構は整地盛土、沢1、沢2、土壙5基、溝4条、Pit18、土葬墓16基を検出した。土葬墓は、そのうちの6基について完掘した。

① トレンチ1 (第4～18図)

〔位置〕28I 6、28J 3・4・9・10・12～21、27J 18・19・23・24、28K 2・7・8・12・13・18～20・23～25、29K 4グリッドに位置する。寺ノ沢用水施設跡や華ノ沢倉庫群といった遺構を囲む空壕や、勝山館跡と夷王山墳墓群を結ぶ道路跡を検出するために設定した。

〔検出遺構〕整地盛土、沢1・2、132～144号墓、土壙1～5、溝1～4、Pit多数を検出した。トレンチ1では、整地盛土・沢・墓といった性格の異なる3つの遺構が、調査区東側・中央・西側部分に分布している。

以下、トレンチ1では「整地盛土」「沢跡」「墓域」といった3つのエリアに分けて述べていく。

【整地盛土】

整地盛土

(第4～6図、P L10-7、11-5、12-4、13-1)

〔位置〕トレンチ東側の27J 18～20・23・24、28J 4・9・14・15グリッドに位置する。

昭和56年度調査の本調査区より北東部分で、道路状遺構として整地盛土を検出しており、それに続くものであると想定される。

〔形態・規模〕長さ・幅については、調査区外へ広がるため不明である。堆積土は、北東方向へ行くにしたがって厚く堆積し、最も厚い部分で約80cmを測る。

〔堆積土〕Ko-d火山灰下位に堆積し、83層に分層される(SPB～SPB')。それらは、堆積土や混入物などの相違から、大きくⅢa・Ⅲb・Ⅲc・Ⅲdに分層され、いずれも整地による人為堆積を呈する。Ko-d火山灰上位に堆積する整地盛土としては、過年度の調査で土堤状の遺構が確認されている。

Ⅲa層は、暗褐色の砂質土を呈す。Ⅲb層は、おもに暗褐色の砂質土を呈し、礫粒を多量に含む。Ⅲc層は、褐色やにぶい黄褐色を呈し、ロームブロックや拳大の角礫や円礫を多量に含む。

Ⅲdは、褐色・暗褐色の砂質土を呈し、Ⅲe層との漸移層である。

出土遺物は、Ⅲd層から多く出土し、上層へ行くに従って少ない傾向にある。整地盛土は、ロームブロックや礫を多量に含み、搦手周辺を整地した土を利用していると想定される。

〔新旧関係〕沢2の上部に盛土され、沢2より新しい。溝1がⅢd層を掘り込んでいるため、その上層のⅢc層は溝1より新しく、Ⅲd層以下は古いと思われる。過去の調査結果より、空壕B・空壕Cより新しい。

〔出土遺物〕青磁碗5点、青磁皿4点、白磁皿15点、染付碗2点・皿7点、瀬戸美濃灰釉丸碗1点・端反皿26点、越前播鉢3点、鉄製品の釘1点・鍋1点・不明6点、鉄滓1点、魚骨(椎骨)1点、不明骨7点が出土している。

整地盛土のⅢa層と沢1の粘土層から出土した染付碗が接合している。

沢2

(第4～6図、P L7-2、11-1・3・5、12-2～3)

〔位置〕トレンチ東側の27J 18～20・23・24、28J 4・9・14・15グリッドに位置する。

〔形態・規模〕セクション面で幅7.6m、深さ42cmを測る。

〔堆積土〕26層に分層される(SPC～SPC'')。沢2の堆積土をⅢe層と表記し、Ⅲe1～Ⅲe3層に細分した。

Ⅲe層は、黒褐色・黒色のシルトを呈し、最も厚い部分では、約40cm堆積している。Ⅲe上層のⅢe1・Ⅲe2から陶磁器・骨片・炭化物・焼土(焼土範囲1～4)などの遺物が多量に出土している。

〔新旧関係〕整地盛土より下位に位置するため、整地盛土より古い。

〔出土遺物〕青磁碗13点・稜花皿17点、染付碗5点・皿6点、白磁皿6点、鉄釉碗2点、灰釉丸碗31点・腰折皿6点・端反皿94点、越前播鉢12点、かわらけ1点、鉄製品の釘4点・小柄3点・ヤス1点・釣針? 1点・鍋? 1点・不明10点、石製品の砥石2点・不明1点、漆塗膜片1点、骨角器1点、骨片(魚骨11点、不明骨44点)、不明種子1点、炭化米1点、鉄滓3点、鍛造剥片73点が出土している。

沢2のⅢe層と92年度調査の18M14・19グリッドから出土した、瀬戸美濃灰釉端反皿が接合をしている。

溝1 (第4図、PL11-6~12-1)

〔位置〕トレンチ東側の27J18~20・23・24、28J4・9・14・15グリッドに位置する。

本調査区より、館後方の搦手周辺で行われた昭和55・56年度の調査で検出した溝に続くと思定される。

溝1は、整地盛土の下位に位置し、空壕Bの堆積土を掘削して構築され、また空壕Aと重複する溝に接続すると報告されている(概報Ⅲ)。この溝1と空壕Aとの新旧関係については、Ⅲ章で述べたい。

〔形態・規模〕長軸10.1m、短軸37cm、深さ27cmを測る。

〔堆積土〕14層に分層される(SPC~SPC')。

堆積土は、褐色・にぶい黄褐色を呈し、礫粒・角礫を多量に含み、整地によって埋め戻された人為堆積と思われる。

〔新旧関係〕整地盛土のⅢd層を掘り込んで、溝を構築しているため、Ⅲd層より新しくその上層に堆積しているⅢc層より古い。

過去の調査結果から、溝1は空壕B・Cより新しいと思われる。

〔出土遺物〕瀬戸美濃灰釉丸碗2点・端反皿2点、染付皿1点、越前播鉢1点、鉄製品の用途不明2点が出土している。

溝3 (第6・7図、PL11-2・4)

〔位置〕トレンチ中央東側の28J8・13グリッドに位置する。

〔形態・規模〕残存値で、長軸300cm、短軸120cm、深さ15cmを測る。

〔堆積土〕11層に分層される(SPA~SPA')。

堆積土は、暗褐色・黒褐色を呈し、自然堆積を呈する。

〔新旧関係〕Ⅲe2層とⅢe3層の間に位置する。溝3は、深さ約15cmと浅いものの掘り込みが見られたため溝としたが、Ⅲe3層とほぼ同じレベルを測ること、またⅢe3層と同じく遺物が出土しないことから、沢2のⅢe層の一部としての可能性も考えられる。

〔出土遺物〕なし

溝4 (第4図)

〔位置〕27J19・24グリッドに位置する。

〔形態・規模〕セクション面において検出されたため、平面形は確認できなかった。幅は、残存値で58cm、深さ26cmを測る。

〔堆積土〕4層に分層される(SPF~SPF')。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕なし

柱穴

27J18・24でPit15~17を検出した。いずれも整地盛土より古く、沢2より新しい柱穴である。また、Pit15~17では柱痕が確認された。

〔沢跡〕

沢1 (第5~7図、PL6-1~7-1、9-4~10-6)

現在でも常に水が湧き出ている状態であるため、調査は水中ポンプで水を吸い上げながら行なった。

〔位置〕トレンチ中央の27J18~20・23・24、28J4・9・14・15グリッドに位置する。

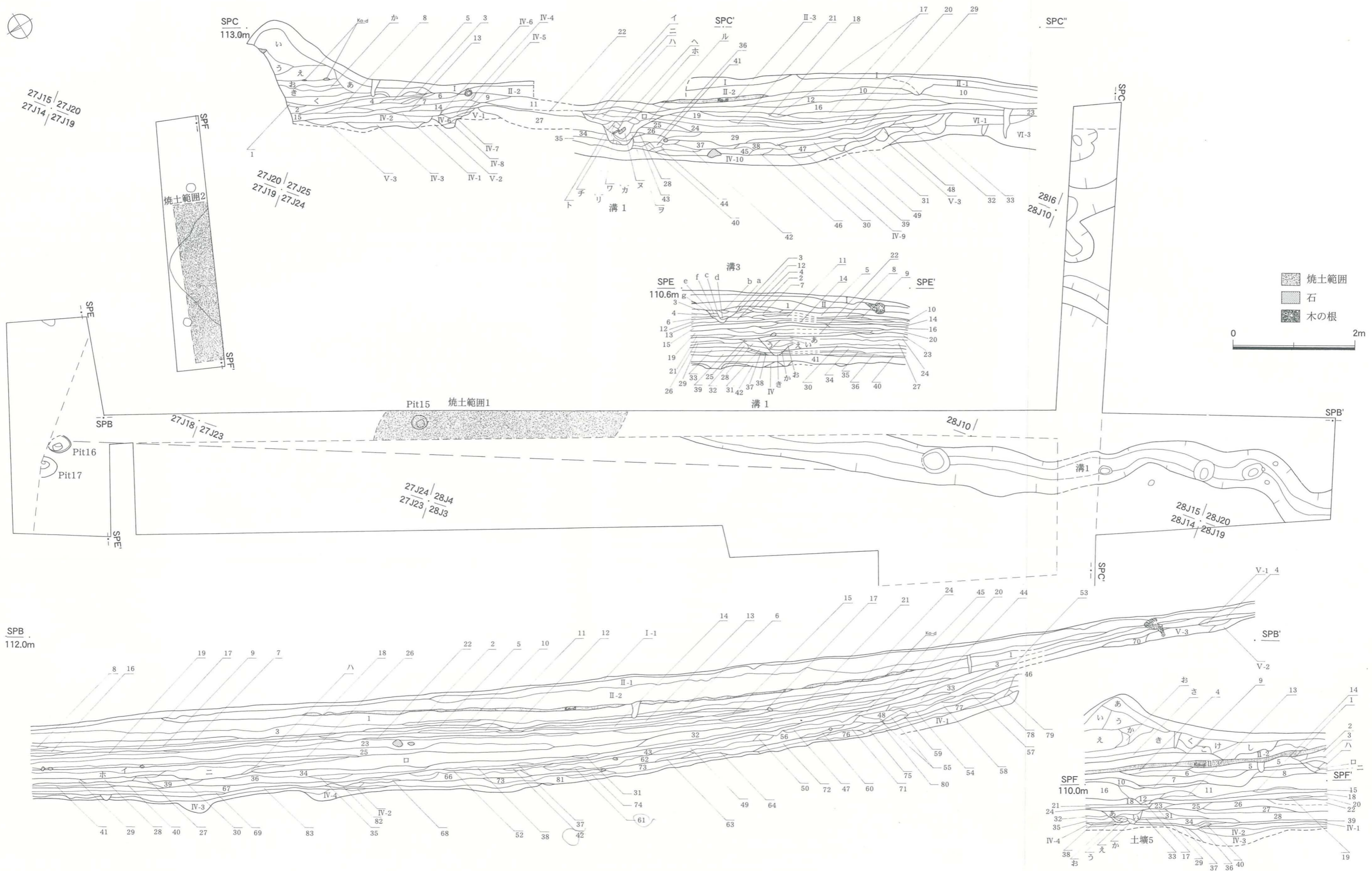
沢1は、昭和55・56年度の発掘調査で検出された27Kグリッドの沢に続くものと想定される。27Kグリッドは、大量の木製品や陶磁器・獣骨・魚骨・貝類などの遺物が確認されたことや、出土状況からゴミ捨て場跡と考えられている場所である(概報Ⅱ・Ⅲ)。

〔形態・規模〕傾斜が変換する地点から計測すると幅約11.6m、沢底からKo-d火山灰が堆積する地点までで深さ2.7mのV字状を呈する。

〔堆積土〕堆積土は、ほとんどが自然堆積を呈すが、土層番号30より上層において、暗灰色を呈する砂や粘土層が堆積し、下層に黒褐色を呈する木質層が堆積し、木製品などが多く出土している。西側粘土層上面に削平された土と思われる、ロームブロックなどが多く混入している堆積土が見られる。

本調査では、採取した土壌サンプルの分析を北海道開拓記念館の山田悟郎氏にお願いした。

花粉分析試料は、木質層を上層から下層へ暗褐色木質層①~⑦と番号を付し、木質を多量に含んでいる暗褐色木質層①~⑥について土壌サンプルを採取した。その採取方法は、セクション面に塩化ビニール管を層位ごとに深さ15cm打ち込んだものと、垂直方向へ層をまたぐように長さ100cm打ち込んだものを採取した。種子等の同定試料は、土のう袋に約2200kgの土壌サンプルを採取し、



第4図 トレンチ1(整地盛土、沢2)、
トレンチ2 平面図他

それらをフローテーション後、種類・器種別に選別作業を行い、分析試料を選び出した。

鑑定結果については、Ⅴ章を参照されたい。

〔新旧関係〕整地盛土や墓と直接の重複は見られないが、堆積土や遺物の接合関係からこれらの遺構との併行関係が導き出せると考える。それについては、Ⅲ章で述べることにしたい。

〔出土遺物〕木製品の漆椀・箸・串・ヘラ・折敷・板状製品・棒状製品・柁目材など約200点出土しているが、破片のため用途不明品が多い。

青磁碗4点・稜花皿4点、白磁皿、染付碗5点・皿5点、灰釉丸碗6点・端反皿19点、鉄釉平碗2点、越前播鉢2点、鉄製品、銅製品、点、鉄製品の縫針2点・用途不明10点、鉄滓1点、骨角器1点、貝1点、魚骨2点、獣骨6点、不明骨11点、石製品の硯1点が出土している。

沢1のフローテーションサンプル土から出土した種子は、北海道開拓記念館の山田悟郎氏に同定をしていただいたものを参考にして集計作業を行った(表21)。集計や選別の誤り等は、すべて筆者の責である。

整地盛土のⅢa層と沢1の粘土層から出土した染付碗が接合している。また、沢2のⅢe層と92年度調査の18M14・19グリッドから出土した、瀬戸美濃灰釉端反皿が接合をしている。

土壌2 (第6図、P L18-3)

〔位置〕沢1西側斜面の28K20グリッドに位置する。
〔形態・規模〕平面形は楕円形を呈し、調査区外へ広がるため残存値で長軸1m、短軸60cm、深さ30cmを測る。

〔堆積土〕9層に分層される(SPA～SPA')。

堆積土は人為堆積と考えられ、炭化物やロームブロックが多く混入している。沢1西側平坦部において、墓を構築後に削平を行っているため、土壌2の覆土は削平した土が堆積されたものと想定される。また、写真(P L18-3)セクション面の左側で、炭化物などが多く混入している。底面では、焼土範囲(焼土5)が見られる。

〔新旧関係〕覆土中に削平された墓のものと思われる釘が混入するため、削平が行なわれるより前にこの遺構は形成されたと思われる。

〔出土遺物〕覆土中より灰釉丸碗1点、鉄製品の釘1点が出土している。

鉄釘は、棺材と思われる木質が付着するため、

削平をうけた土葬墓の釘と思われる。フローテーションサンプル土より、ヒエ属かキビと思われる炭化種子が200点近く出土している。

土壌3 (第6図、P L18-4~5)

〔位置〕沢1西側斜面の28K20グリッドに位置する。

〔形態・規模〕平面形は楕円形を呈し、長軸75cm、短軸38cm、深さ50cmを測る。底面に小Pitを3基伴う。

〔堆積土〕自然堆積か人為堆積か確認できなかったが、堆積土は、褐色を呈しローム粒やロームブロックが多数混入する。

〔新旧関係〕削平によって生じたと思われる土が堆積しているため、土壌2同様に削平が行なわれるより前にこの遺構は形成されたと思われる。

〔出土遺物〕なし

土壌4 (第8図)

〔位置〕28K24グリッドに位置する。

〔形態・規模〕セクション面において検出されたため、平面形は確認できなかった。セクション面で幅42cm、深さ22cmを測る。

〔堆積土〕4層に分層される(SPD～SPD')。

〔新旧関係〕136号墓の盛土が、土壌4の上面を覆うため、136号墓より古いと思われる。

〔出土遺物〕なし

〔墓域〕

105号墓

〔位置〕トレンチ中央西寄りの28K24・25グリッドに位置し、昭和58年度の分布調査で登録された墓である。

盛土と思われたマウンド状の高まりは、墓壙や出土遺物が検出されないことから、自然地形によるものとし、墓ではないと判断した。

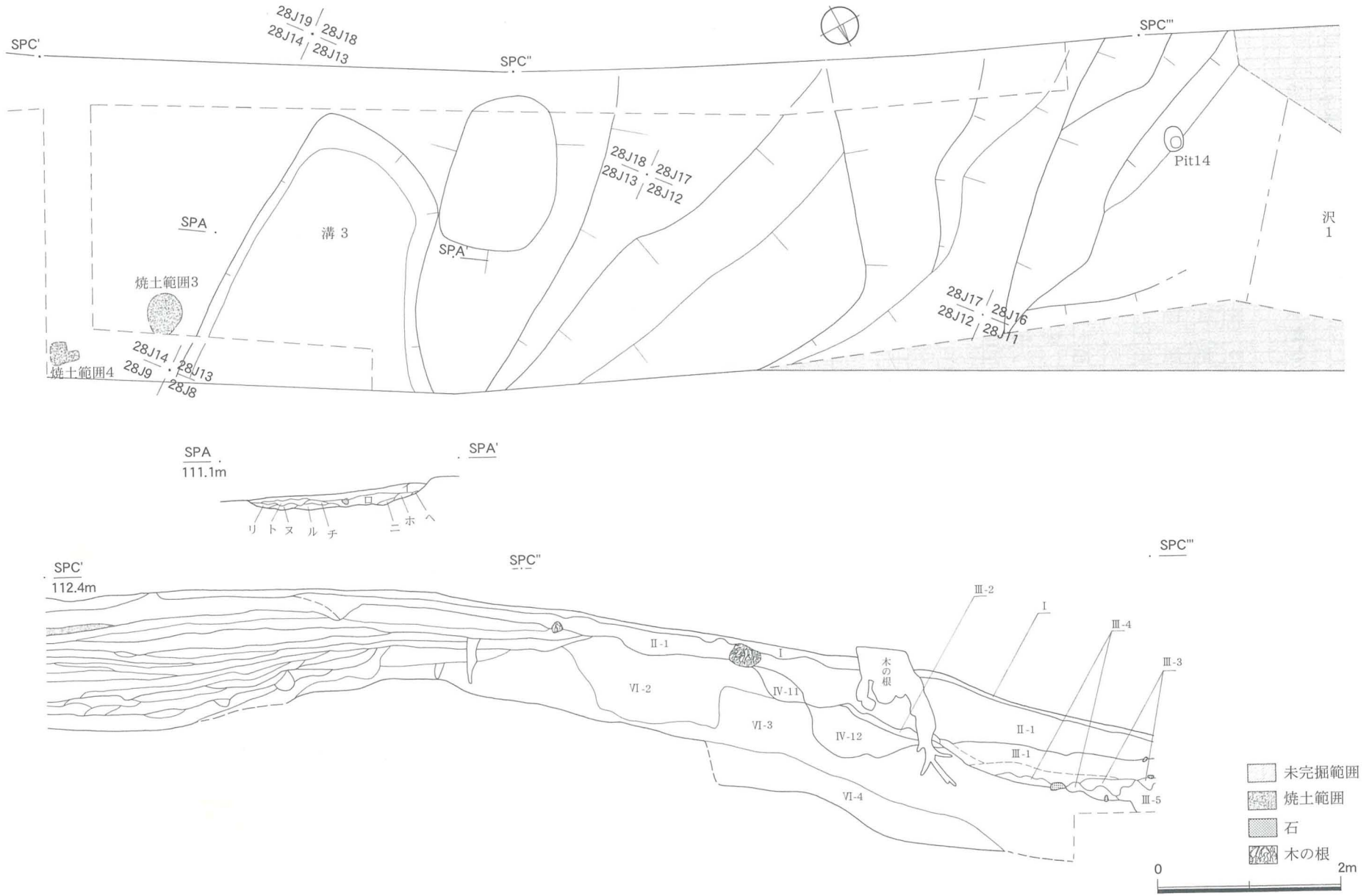
132号墓 (第10図、P L13-4~8)

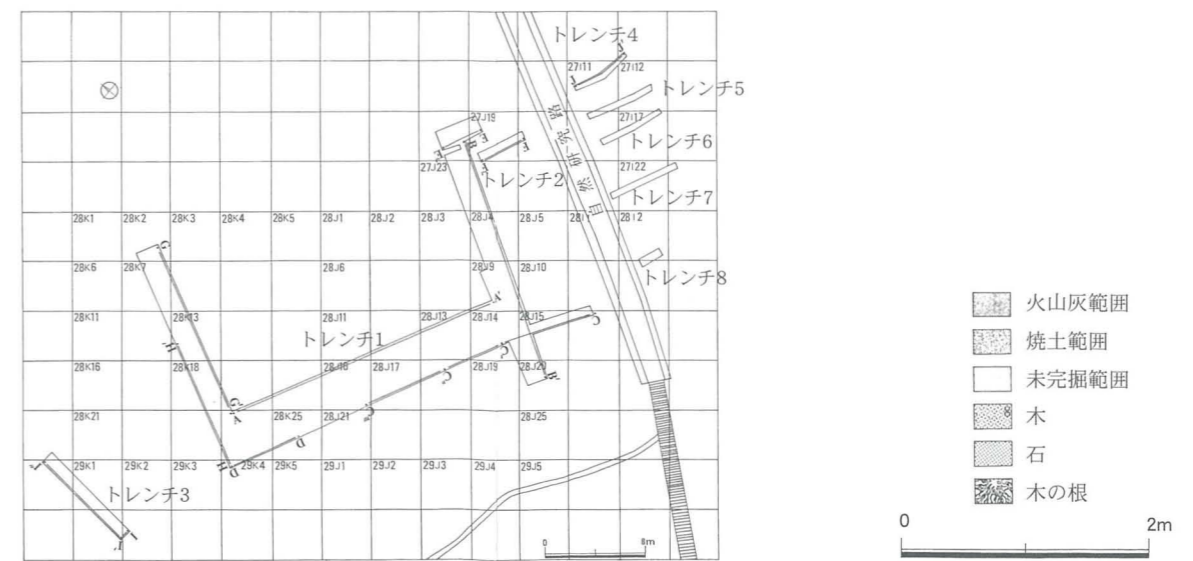
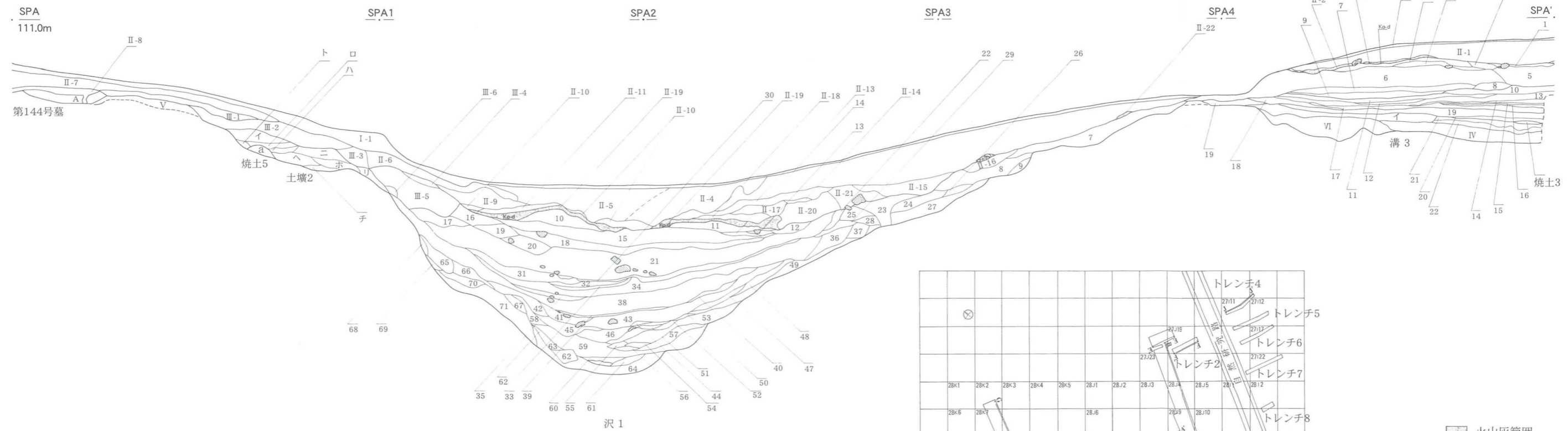
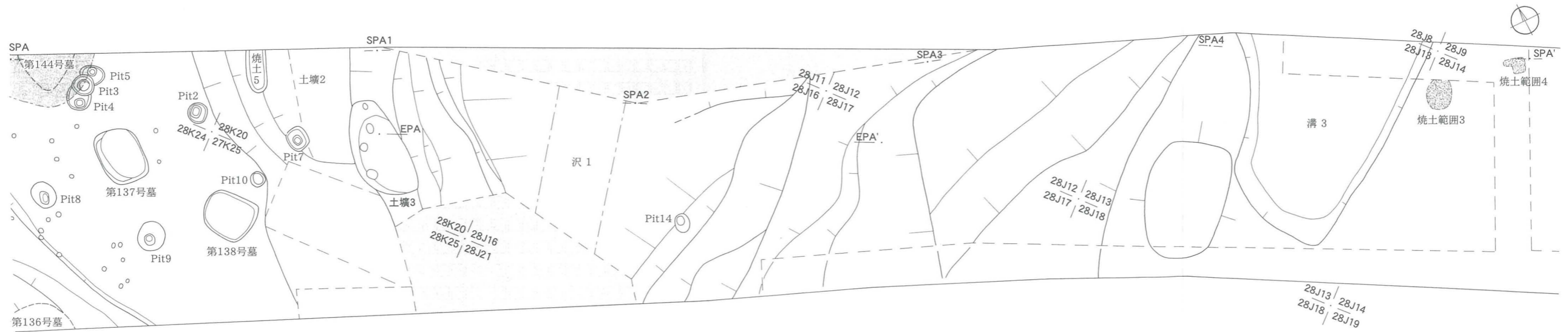
〔位置〕トレンチ中央西寄りの28K24グリッドに位置し、今回の発掘調査で新たに発見された墓である。

〔葬法〕屈葬土葬墓

〔形態・規模〕墓壙の平面形は、隅丸長方形を呈す。墓壙は、上面が削平されているため、その計測値は残存値を示すが、長軸113cm、短軸75cm、深さ20cmを測る。

第5図 トレンチ1(沢1、溝3) 平面図他





第6図 トレンチ1(沢1、第144号墓、土壌2・3、溝3) 平面図他

表1 (第4図) トレンチ1南北セクション東壁土層観察表 (B~B')

	I-1	10YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体 砂利少量			
	II-1	7.5YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体 砂利・玉砂利少量 礫粒	粘質土 ややソフト	焼土粒 微量	
	II-2	7.5YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体 礫粒 玉砂利少量	砂質土やや粘性あり (II-1)よりややソフト	焼土粒 微量	
整地 盛土	III a-1	10YR4/3	にぶい 黄褐色	礫粒 基盤粒 砂利	粘質土 密ハード	焼土粒 微量	
	III a-2	10YR4/4	褐色	全面礫粒、砂層			
	III a-3	10YR4/4・ 4/6	褐色	礫粒やや多量 砂粒 粘土 少量混入 基盤粒	やや密	焼土粒 微量	
	III a-4	7.5YR4/4	褐色	褐色土主体 基盤粒	粘質土 湿性 ソフト	炭粒微量	
	III b-5	10YR4/4・ 4/6	褐色	全面礫粒・ローム混入			
	III b-6	10YR4/4・ 4/6	褐色	全面礫粒・ローム混入 1cm 大礫多量	砂質土 ややハード (III a-3)より 粘質土 密		
	III b-7	10YR4/4・ 4/6	褐色	礫粒やや多量	粘質土 密		
	III b-8	10YR3/4	暗褐色	礫粒	粘質土		
	III b-9	10YR4/6	褐色	礫粒・ローム・砂サンド状			
	III b-10	10YR4/4	褐色	礫粒少量	粘性有り ソフト		
	III b-11	10YR4/4	褐色	全面礫粒			
	III b-12	10YR4/4	褐色	ローム・礫粒サンド状	ソフト		
	III b-13	10YR4/3・ 4/4	にぶい 黄褐・褐色	ローム・礫粒サンド状 (III b-13)より礫粒多量	粘質土 ややハード		
	III b-14	10YR4/3	にぶい 黄褐色	ローム・礫粒サンド状 (III b-13)より礫粒多量	砂質 ややハード		
	III b-15	10YR3/4	暗褐色	礫粒少量	粘質土 ややハード		
	III b-16	10YR4/3	にぶい 黄褐色	礫粒 粘土混入	ソフト		
III b-17	10YR4/3	にぶい 黄褐色	7.5YR4/3 褐色粘質土 7.5YR4/4 褐色基盤粒 サンド状のブロック	ハード 粘性有り			
III c1-18	10YR4/4・ 4/6	褐色	下層礫粒・小礫	上層粘土 ややハード	炭化物 微量		
III c1-19	10YR4/4・ 4/6	褐色	礫粒多量 小礫少量 粘土少量混入	ややハード	炭化物 微量		
III c2-20	10YR4/4	褐色	礫粒微量	砂質土 ややソフト			
III c2-21	10YR4/4	褐色	1cm 大礫多量	砂質土 ややハード			
III c2-22	10YR4/3・ 4/4・4/6	にぶい 黄褐・褐色	1cm 大礫少量 粘土多量・礫粒サンド状	砂質土 粘性有り ややハード			
III c2-23	10YR4/3・ 4/4	にぶい 黄褐・褐色	1~2cm 大礫多量 砂 礫粒 基盤粒 小礫 砂利 粘土混入	砂質土 ややハード			
III c2-24	10YR3/4	暗褐色	1cm 大礫少量	砂質土 ややハード			
III c2-25	10YR4/3・ 3/4	にぶい黄褐 ・暗褐色	1~2cm 大礫多量 礫粒、小礫、砂少量混入	粘質土 粗 ソフト			
III c2-26	10YR3/3	暗褐色	全面砂利 砂層 礫粒 小礫少量				
III d1-27	10YR4/4	褐色	全面砂	ソフト			
III d1-28	10YR4/4	褐色	礫粒 小礫 砂多量				
III d1-29	10YR4/3	にぶい 黄褐色	ローム・礫粒サンド状 小礫少量	やや粘性有り			
III d1-30	10YR4/3・ 4/4	にぶい 黄褐・褐色	砂多量 礫粒 10%	ソフト			
III d2-31	10YR4/4	褐色	1cm 大礫多量	砂質土 ややハード			
III d2-32	10YR3/3	暗褐色	7.5YR4/3 褐色粘 7.5YR4/4 褐色基盤粒サン ド状のブロック 1cm 大礫 多量	砂質土 ハード	炭粒		
III d2-33	7.5YR3/3	暗褐色	砂質土主体 玉砂利少量	やや湿性 ややソフト	炭粒		
III d2-34	10YR4/4・ 3/4	褐・暗褐色	粘土・礫粒サンド状				
III d2-35	10YR4/4・ 3/4	褐・暗褐色	礫粒・小礫層				
III d2-36	10YR4/3	にぶい 黄褐色	粘土・砂サンド状	粘質土 ややハード	炭粒 炭化物少量		
III d2-37	10YR4/3	にぶい 黄褐色	粘土・砂サンド状		炭化物少量		
III d2-38	10YR3/4	暗褐色	1~2cm 大礫少量 礫粒	粘質土 ややソフト	炭粒 焼土粒微量		
III d2-39	10YR4/3	にぶい 黄褐色	砂多量 礫粒 20%	ソフト			
III d2-40	10YR4/3	にぶい 黄褐色	礫粒多量 粘土混入	やや密			
III d2-41	10YR4/3	にぶい 黄褐色	礫粒多量 粘土混入 小礫少量	やや密			
沢2	III e2-42	10YR2/3	黒褐色		粘土 ソフト 粘性有り	炭・焼土粒 少量	
	III e2-43	10YR2/3	黒褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	シルト ややソフト	炭粒少量	

III e2-44	7.5YR2/2	黒褐色	火山灰やや多量 礫粒		砂質土主体 ソフト	炭粒
III e2-45	10YR3/2	黒褐色			シルト ややソフト	炭粒微量
III e2-46	7.5YR2/2	黒褐色	礫粒		砂質土主体 ソフト	炭粒多量
III e2-47	10YR3/2	黒褐色			シルト ややソフト	炭粒層状 少量
III e2-48	10YR2/3	黒褐色			シルト ややソフト	焼土粒微量 炭粒・焼土 粒少量
III e2-49	10YR3/2	黒褐色			シルト ややソフト	炭粒少量 焼土・骨片 微量
III e2-50	10YR3/2	黒褐色			シルト ややソフト	炭粒少量 焼土・骨片 微量
III e2-51	10YR3/2	黒褐色			シルト ややソフト	炭粒中量 焼土粒少量
III e2-52	10YR3/2	黒褐色	礫粒混入		粘土 ソフト	炭・焼土粒 少量
III e2-53	7.5YR2/2	黒褐色	礫粒 ローム粒 (III e2-46)より炭多く暗い 砂粒主体 ローム粒		砂質土主体 ソフト	炭粒多量
III e2-54	7.5YR4/6	褐色			砂質 粗	炭粒微量 焼土粒少量
III e2-55	10YR3/2	黒褐色			シルト ややソフト	炭粒少量
III e2-56	10YR2/3	黒褐色			シルト ややソフト	炭粒・焼土 粒微量
III e2-57	7.5YR3/2	黒褐色	ローム粒		砂質土主体 ソフト	炭粒多量 焼土粒
III e2-58	7.5YR2/2	黒褐色	ローム粒		砂質土主体 ソフト	炭粒多量 焼土粒
III e2-59	10YR2/3	黒褐色			シルト ややソフト	炭粒微量
III e2-60	10YR2/3	黒褐色			シルト ややハード	炭粒微量
III e2-61	10YR2/2	黒褐色			シルト ややソフト	炭粒少量
III e2-62	10YR2/3	黒褐色			シルト ややソフト	炭粒少量
III e2-63	10YR3/2	黒褐色			シルト ソフト	炭粒中量
III e2-64	10YR2/3	黒褐色			シルト ややソフト	炭粒少量
III e2-65	10YR3/2・ 2/3	黒褐色	砂多量 粘土混入 礫粒		シルト ソフト	炭やや多量 焼土粒少量
III e2-66	10YR3/2	黒褐色	砂多量 粘土混入 礫粒 (III e2-65)より 砂やや多量		ソフト	炭粒微量 炭やや多量 焼土粒少量
III e2-67	10YR2/3	黒褐色	粘土・砂薄くサンド状		粘性有り ソフト	炭・焼土粒 少量
III e2-68	10YR3/3	暗褐色	砂 礫層 粘土少量混入		砂質 ややソフト	
III e2-69	10YR2/3	黒褐色	粘土・砂サンド状 (III e2-67)より砂多量		やや密	炭少量
III e3-70	7.5YR2/2	黒褐色	黒褐色土主体 砂粒		粘質 湿性 ソフト	炭粒微量
III e3-71	10YR3/2	黒褐色			シルト ソフト	炭粒・骨片 微量
III e3-72						
III e3-73	10YR2/2・ 2/3	黒褐色	礫粒少量		シルト 粘質土 ソフト 粘性有り	炭・炭粒 微量 焼土粒少量
III e3-74	10YR3/2	黒褐色			シルト ややソフト	炭粒微量
III e3-75	10YR2/3	黒褐色			シルト ソフト	炭粒微量
III e3-76	10YR2/3	黒褐色			シルト ソフト	炭粒少量
III e3-77	10YR4/6	褐色	ローム多量		ややハード	炭粒少量
III e3-78	7.5YR4/3	褐色	ソフトローム主体		湿性 ソフト	炭微量混入
III e3-79	7.5YR3/2	黒褐色	ソフトローム主体		湿性 ソフト	炭化粒
III e3-80	10YR2/3	黒褐色			シルト ややソフト	炭粒多量
III e3-81	10YR2/2・ 3/2	黒褐色	礫粒・ロームブロック少量		シルト 湿性 ソフト	炭粒少量 炭多量 焼土混入
III e3-82	10YR3/2	黒褐色	粘土・小礫サンド状		砂質 ややソフト	炭多量 焼土粒少量
III e3-83	10YR2/2	黒褐色	粘土・砂サンド状		粘性有り	炭・焼土粒 少量
IV-1	7.5YR4/3	褐色	ソフトローム主体		湿性 ソフト	
IV-2	10YR4/3	にぶい 黄褐色	B-Tm			
IV-3	10YR5/4	にぶい 黄褐色				
IV-4	10YR5/4・ 3/2	にぶい黄褐 ・黒褐色	B-Tm		シルト ややハード	炭粒少量
V-1	7.5YR4/4	褐色	褐色土主体 基盤粒 (III a-4)より礫粒多量		砂質 湿性 ソフト	炭粒微量
V-2	7.5YR4/6	褐色	砂粒主体 玉砂利 2~3cm 大礫混入		湿性 ハード	
V-3	7.5YR4/4	褐色	砂粒主体 基盤粒 ソフトローム混入		湿性 粘質 密	炭粒微量

溝1	イ	10YR4/3	にぶい 黄褐色	礫粒・ロームサンド状	ソフト	炭化物微量
	ロ	10YR4/4	褐色	2～3cm 大礫少量 礫粒 小礫 粘土混入 全面礫粒	粘質土やや粘性有り ややハード 粗 ソフト 粗 ソフト	炭化物少量
	ハ	10YR4/4	褐色			
	ニ	10YR4/4・ 3/4	褐・暗褐色	礫粒多量 基盤礫 小礫少量 粘土混入		
	ホ	10YR4/4	褐色	小礫多量 礫粒層		

表2(第4・5図)トレンチ1東西セクション南壁土層観察表(C～C¹⁰)

	I-1	10YR3/4・ 4/4	暗褐・褐色	礫粒 玉砂利少量	シルト粗 ややハード	
土堤	あ	10YR4/3	にぶい 黄褐色	2～3cm 大礫 5～10%混入 1～2mm 大砂利 5～7%混入 5mm 大礫微量混入 1～2cm 大礫 30% 混入	シルト やや粗 ややソフト	
	い	10YR4/4	褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	う	10YR4/4	褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	え	10YR3/3	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	お	10YR4/3・ 4/4	にぶい 黄褐・褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	か	10YR4/6	褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	き	10YR4/6	褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	く	7.5YR4/6	褐色	シルト やや粗 やや粘性有り ややソフト		
	II-1	10YR4/3	にぶい 黄褐色	礫粒 玉砂利少量 基盤礫 基盤礫	砂質土 密 ややハード	
	II-2	10YR4/3・ 4/4	にぶい 黄褐・褐色	礫粒 玉砂利少量 基盤礫 基盤礫	砂質土 密 ややハード	
	II-3	10YR5/4・ 4/4	にぶい 黄褐・褐色	全体 Ko-d 砂土	湿性 ソフト	
	III-1	7.5YR4/2	灰褐色	灰褐色土主体	全面粘質 湿性 ソフト	
	III-2	7.5YR2/2	黒褐色	黒褐色土主体 B-Tm 混入	シルト ソフト	炭粒微量
	III-3	7.5YR2/2	黒褐色	黒褐色土主体 樹皮混入	全面粘質 湿性 ソフト	
	III-4					
	III-5	7.5YR4/3	褐色	にぶい褐色主体	全面粘質 湿性 ソフト	
整地 盛土	III a-1	10YR4/3	にぶい 黄褐色	1cm 大砂利 10%混入	シルト やや粗 ややソフト	
	III a-2	10YR4/3	にぶい 黄褐色	1cm 弱大砂利 10～15% 混入	シルト やや粗 ややソフト	
	III a-3	10YR4/6	褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	III a-4	10YR4/6	褐色		粘質土 やや粗 ややソフト	
	III a-5	10YR4/6	褐色	1～2cm 大礫 5～10%混入	粘質土 やや粗 ややソフト	
	III a-6	10YR4/3	にぶい 黄褐色	粘質土微量混入	シルト やや粗 ややソフト	
	III a-7	10YR5/4	にぶい 黄褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	III a-8	7.5YR4/6	褐色	5mm～10cm 大 玉砂利 3～5%混入	シルト やや粗 ややソフト	
	III a-9	10YR4/4	褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	III a-10	7.5YR4/3	褐色	全体 Ko-d	砂質土 湿性 ややソフト	
	III a-11	7.5YR4/4・ 4/3	褐色	1～2cm 大玉砂利微量混入 基盤礫 礫粒	砂質 シルト やや粗 ハード	炭粒微量
	III a-12	10YR3/3	暗褐色	基盤礫 礫粒 玉砂利 Ko-d	砂質 粗 ハード	
	III a-13	10YR4/4	褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	III a-14	10YR4/4・ 4/6	褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	III a-15	2.5YR5/4	にぶい 赤褐色		粘質土 やや密 ややソフト	
	III b-16	7.5YR5/4	にぶい 赤褐色	基盤礫 礫粒	砂質 ハード (溝1f)よりやや暗い	炭粒微量
III d1-17	10YR4/3	にぶい 黄褐色	基盤礫	砂質 湿性 粗 ソフト		
III d1-18	7.5YR4/4	褐色	基盤礫 玉砂利	砂質 ハード	炭粒微量	
III d2-19	7.5YR4/3	褐色	基盤礫	砂質 湿性 密 ハード	焼土粒 炭粒微量	
III d2-20	10YR4/3	にぶい 黄褐色	基盤礫 砂質と砂粒サンド状	湿性 ソフト		

	III d2-21	7.5YR4/3	褐色	基盤礫	砂質 湿性 密 ハード(III d2-19)より やや明るい	炭粒微量
	III d2-22	10YR4/3	にぶい 黄褐色	基盤礫 玉砂利少量 赤粒	砂質 ハード	炭粒少量
	III d2-23	7.5YR4/3	褐色	基盤礫 赤粒	砂質	
	III d2-24	7.5YR4/3	褐色	基盤礫	湿性 ソフト	炭化物 焼土粒
沢2	III e2-25	10YR3/2	黒褐色		湿性 ソフト	炭化物 焼土粒
	III e2-26	10YR2/2	黒褐色		湿性 ソフト	炭化物主体 焼土粒
	III e2-27	10YR3/2	黒褐色	ソフトローム	湿性 ソフト	焼土粒 骨混入炭化物 多量
	III e2-28	10YR2/2	黒褐色		湿性 ソフト	炭化物主体 焼土粒
	III e2-29	10YR2/2	黒褐色	ソフトローム	湿性 ソフト	焼土粒 炭化物
	III e2-30	7.5YR2/2	黒褐色	基盤礫 ソフトローム	湿性 ソフト	炭化物
	III e2-31	7.5YR3/2	黒褐色	基盤礫 赤粒	砂質	炭化物
	III e2-32	7.5YR3/3	暗褐色	基盤礫	砂質	炭化物
	III e3-33	7.5YR2/2	黒褐色	ソフトローム		炭化物
	III e3-34	10YR3/2	黒褐色	ソフトローム	湿性 ソフト	炭化物多量 焼土粒
	III e3-35	7.5YR2/2	黒褐色	ソフトローム	湿性 ソフト	炭化物多量
	III e3-36	7.5YR2/2	黒褐色	ソフトローム	湿性 ソフト	炭化物焼土 粒
	III e3-37	10YR4/4	褐色	ソフトローム主体	湿性 ソフト	炭化物
	III e3-38	7.5YR3/3	暗褐色	ソフトローム主体		炭化物 焼土粒微量
	III e3-39	7.5YR2/2	黒褐色	基盤礫 ソフトローム		炭化物
	III e3-40	10YR2/2	黒褐色	ソフトローム	湿性 ソフト	炭化物
	III e3-41	10YR2/2	黒褐色	ソフトローム	湿性 ソフト	炭化物
	III e3-42	10YR2/2	黒褐色	全面ソフトローム	湿性 ソフト	炭化物
	III e3-43	10YR2/2	黒褐色	全面ソフトローム	湿性 ソフト	炭化物
	III e3-44	10YR2/2	黒褐色		湿性 ソフト (III e3-42・43)より暗い	炭化物
III e3-45	10YR2/2	黒褐色		湿性 ソフト	炭化物	
III e3-46	7.5YR2/2	黒褐色	ソフトローム		炭化物 焼土粒微量	
III e3-47	7.5YR2/2	黒褐色	黒色土主体 ソフトローム	密	炭化物	
III e3-48	7.5YR2/2	黒褐色	ソフトローム			
III e3-49	7.5YR3/2・ 3/3	黒褐・ 暗褐色	ソフトローム			
IV-1	10YR4/6	褐色		シルト やや粗 ややソフト		
IV-2	10YR4/3	にぶい 黄褐色	2.5YR6/4 にぶい橙色 1cm 大礫 20～30%混入	シルト主体 やや密 ややソフト		
IV-3	7.5YR4/4	褐色	2.5YR6/4 にぶい橙色 1～2cm 大礫 5%混入	シルト		
IV-4	10YR4/3	にぶい 黄褐色		粘質土 やや粗 ややソフト		
IV-5						
IV-6	10YR4/3・ 3/4	にぶい褐・ 暗褐色		粘質土 やや粗 ややソフト	炭粒微量	
IV-7	10YR4/2	灰黄褐色		粘質土 やや密 ややソフト		
IV-8	10YR4/4	褐色		シルト やや粗 ややソフト		
IV-9	7.5YR4/4・ 4/2	褐・灰黄 褐色	B-Tm 主体			
IV-10	7.5YR3/3	暗褐色	ソフトローム主体	湿性 ハード		
IV-11	7.5YR4/4	褐色	基盤礫 2～5cm 大 混入			
IV-12	7.5YR4/3・ 4/4	褐色	褐色土主体 基盤礫 玉砂利少量	ハード	炭粒微量	
V-1	10YR4/3・ 4/4	にぶい 黄褐・褐色		シルト 密 ややハード		
V-2	5YR6/4	にぶい 橙色	2.5YR7/3 淡赤橙色 2～5cm 大礫多量混入	粘質土 やや密 ややハード		
V-3	7.5YR4/3	褐色	ソフトローム 5Y8/4 淡黄色礫多量混入	密 ややソフト		
VI-1	7.5YR4/3・ 4/4	褐色	基盤礫 赤粒 全体礫			
VI-2	7.5YR4/4	褐色	礫主体 基盤礫 5cm 大混入			
VI-3	7.5YR4/6	褐色	礫主体 基盤礫 10cm 大混入			
VI-4	2.5Y5/4	黄褐色	黄褐色土主体 上層 2.5YR7/8・6/8 黄・明黄褐色土混入	粘質 湿性 ややソフト		

溝1	イ	7.5YR5/4-4/4	にぶい 褐・褐色	基盤粒 玉砂利微量 礫粒	砂質土 ハード	炭粒微量 炭粒微量	
	ロ	7.5YR5/4	にぶい褐色	基盤粒 Ko-d 微量 礫粒	砂質土 ハード		
	ハ	7.5YR4/3	褐色	基盤粒 礫粒	砂質土 ハード		
	ニ	7.5YR4/3	褐色	基盤粒 礫粒	湿性 ややソフト		
	ホ	7.5YR4/3	褐色	基盤粒 礫粒	砂質 湿性 ややソフト		
	ヘ	7.5YR4/3	褐色	基盤粒 基盤礫	砂質 湿性 ややソフト		
	ト	7.5YR4/3	褐色	基盤粒 基盤礫	砂質 湿性 ややソフト		
	チ	7.5YR4/3	褐色	基盤粒 基盤礫	砂質 湿性 ややソフト		
	リ	7.5YR4/3	褐色	基盤粒 基盤礫	砂質 湿性 ややソフト		
	ヌ	7.5YR4/3	褐色	基盤粒 基盤礫 玉砂利	砂質 湿性 ややソフト		
	ル	7.5YR4/3	褐色	基盤粒 礫粒	砂質 湿性 ややソフト ト(ホ)より全体密		炭粒微量
	ヲ	10YR3/2	黒褐色	ソフトローム	湿性 ソフト		炭化物
	ワ	10YR3/2-2/2	黒褐色	ソフトローム	湿性 ソフト		炭化物
	カ	10YR3/2-2/2	黒褐色	ソフトローム	湿性ソフト (ワ)よりやや明るい		炭化物

表3 (第4図) トレンチ1 東西セクション南壁土層観察表 (E~E')

整地盛土	I-1	10YR3/1	黒褐色		ややソフト	
	II-1	10YR4/4	褐色	下部に Ko-d 層状に少量	ややハード	
	III a-1	10YR3/4	暗褐色	礫粒(細)多量	砂質土 ややハード	炭粒微量
	III b-2	10YR4/4	褐色	礫粒(細)多量	砂質土 ややハード	
	III b-3	10YR4/3	にぶい黄褐色	礫粒(細)微量	ややハード	
	III b-4	10YR4/4	褐色	礫粒(細)微量	ややハード	
	III b-5	10YR4/4	褐色	礫粒(細)微量	ややハード	
	III b-6	10YR4/3	にぶい黄褐色	礫粒(細)微量	ややハード	
	III b-7	10YR3/4	暗褐色	礫粒(細)微量	砂質土 ややハード	炭粒微量
	III b-8	10YR3/3	暗褐色		ややハード	
	III b-9	10YR3/4	暗褐色	1~2cm 大礫粒少量	砂質土 ややハード	
	III b-10	10YR4/4	褐色	礫粒(細)微量	ややハード	
	III b-11	10YR3/4	暗褐色	礫粒(細)少量	砂質土 ややハード	炭粒微量
	III b-12	10YR4/4	褐色	礫粒(細)多量	ややハード	
	III b-13	10YR3/3-3/4	暗褐色		ややハード	
	III b-14	10YR3/4	暗褐色	1~2cm 大礫粒少量	ややソフト	
	III c-15	10YR3/4	暗褐色		ややソフト	炭粒微量
	III c-16	10YR4/4	褐色	1~2cm 大礫粒中量	砂質土 ややハード	
	III c-17	10YR4/4	褐色	1~2cm 大礫粒中量	砂質土 ややソフト	
	III c-18	10YR4/4	褐色	3~5cm 大礫粒多量	砂質土 ややソフト	
	III c-19	10YR3/4	暗褐色	1~3cm 大礫粒多量 礫粒(細)微量	砂質土 ややソフト	
	III c-20	10YR4/4	褐色	2cm 大礫粒多量	砂質土 ハード	
	III c-21	10YR3/4	暗褐色	礫粒(細)微量	砂質土 ややソフト	
	III c-22	10YR2/2	黒褐色	玉砂利少量	砂質土 ややソフト	
	III d1-23	10YR4/4	褐色	2cm 大礫粒多量	砂質土 ややハード	
	III d1-24	10YR3/3	暗褐色	礫粒(細)微量	ハード	炭粒微量
	III d1-25	10YR4/4	褐色		砂質土 ややハード	
	III d1-26	10YR3/2	黒褐色	礫粒(細)微量	ソフト	
	III d1-27	10YR3/2-3/1	黒褐色	1~2cm 大礫粒少量	ハード	
	III d1-28	10YR4/4	褐色	1~2cm 大礫粒少量	ソフト ややハード	
	III d1-29	10YR4/3	にぶい黄褐色	礫粒(細)微量		
	III d1-30	10YR4/3	にぶい黄褐色	1~2cm 大礫粒少量	砂質土 ハード	
	III d1-31	10YR3/2	黒褐色		ややソフト	
	III d1-32	10YR3/1	黒褐色		ややソフト	
	III d2-33	10YR4/4	褐色	1~3cm 大礫粒少量	ややハード	
III d2-34	10YR4/4-4/6	褐色	礫粒(細)	ハード		
III d2-35	10YR2/3	黒褐色	礫粒(細)少量	ややハード		
III d2-36	10YR3/4	暗褐色		ややソフト		
III d2-37	10YR4/3	にぶい黄褐色	1~2cm 大礫粒少量	砂質土 ハード		

沢2	III d2-38	10YR3/4	暗褐色	1~2cm 大礫粒少量	ややソフト ややソフト ややハード	炭粒少量
	III d2-39	10YR3/2	黒褐色			
	III d2-40	10YR3/2-2/3	黒褐色			
溝2	III e2-41	10YR3/2	黒褐色	礫粒(細)微量	シルト ややソフト	炭粒少量
	III e3-42	10YR3/1	黒褐色		シルト ややソフト	炭粒多量 骨片(魚骨)微量
溝1	あ	10YR4/4	褐色	1~3cm 大礫粒中量	砂質土 ややハード ややハード	
	い	10YR4/3	にぶい黄褐色	礫粒(細)微量		
	う	10YR4/4	褐色	1~3cm 大礫粒中量	砂質土 ややソフト	
	え	10YR4/4	褐色	1~3cm 大礫粒中量	砂質土 ややソフト	
	お	10YR4/4	褐色	1cm 大礫粒少量	砂質土 ややソフト	
	か	10YR4/3	にぶい黄褐色	礫粒(細)微量	ややハード	
	き	10YR4/4	褐色	礫粒(細)微量	砂質土 ややソフト	
溝4	a	10YR3/3	暗褐色	玉砂利微量	ややハード	炭粒微量
	b	10YR4/6	褐色	礫粒(細)多量	ややハード	
	c	10YR3/4	暗褐色		ややハード	
	d	10YR4/4	褐色		ややハード	
	e	10YR3/3	暗褐色	礫粒(細)微量	ややハード	
	f	10YR3/4	暗褐色		ややハード	
	g	10YR4/4	褐色	玉砂利微量	ややハード	

表4 (第4図) トレンチ2 東西セクション南壁土層観察表 (F~F')

整地盛土	I-1	10YR2/3	黒褐色				
	土堤 あ	10YR4/3	にぶい黄褐色	礫粒・ローム粒少量	ややソフト		
	い	10YR4/4	褐色	礫粒・ローム粒少量	やや粗		
	う	10YR4/3	にぶい黄褐色	礫粒・ローム粒少量	(あ)よりやや密		
	え	10YR4/4	褐色	礫粒少量 黄色粗砂混入			
	お	10YR4/3	にぶい黄褐色	礫粒少量			
	か	10YR4/3	にぶい黄褐色	礫粒・ローム粒少量			
	き	10YR4/3-4/4	にぶい黄褐色	礫粒	密 ハード		
	く	10YR3/3	暗褐色	礫粒少量	(け)よりソフト		
	け	10YR3/4	暗褐色	礫粒少量			
	こ	10YR3/4	暗褐色	(け)よりやや礫粒多量			
	さ	10YR3/4	暗褐色	礫粒少量	やや粘性有り ソフト 密		
	し	10YR4/4	褐色	礫粒			
	II-1	10YR4/4	褐色	礫粒 Ko-d 微量	ややソフト		
	II-2	10YR5/4	にぶい黄褐色	礫粒・ローム粒少量	砂質土(粗砂) ややソフト		
	II-3	10YR5/4	にぶい黄褐色	Ko-d70%	粘質土		
	III a-1	10YR4/4	褐色	礫粒微量	ややソフト		
		III a-2	10YR4/4	褐色	礫粒・Ko-d 微量	(III a-1・2)より 粘性有り	
		III a-3	10YR4/4	褐色	礫粒微量	全体砂質(粗砂) ややソフト	
		III a-4	10YR4/3	にぶい黄褐色	礫粒 ローム粒	全体粘質土 ハード	
		III a-5	10YR4/3-4/4	にぶい黄褐色	礫粒少量 Ko-d 微量	粘質土 ハード	
		III a-6	10YR4/4	褐色	礫粒少量	粘質土 ハード	
		III b-7	10YR4/4	褐色	粘質土・礫粒サンド状	ややハード	炭粒微量
		III b-8	10YR4/4	褐色	礫粒少量	粘質土ややハード	
		III c1-9	10YR3/4	暗褐色	粘質土・礫粒サンド状	ソフト	
		III c1-10	10YR4/4	褐色	礫粒 青礫 黄礫	やや粗	
		III c2-11	10YR5/4	にぶい黄褐色	礫粒層 青礫	砂質	
		III c2-12	10YR3/4-4/4	暗褐色	粘質土・礫粒サンド状	ソフト	
		III c2-13	10YR5/4	にぶい黄褐色	礫粒多量 青礫	やや砂質	
		III c2-14	10YR3/4	暗褐色	礫粒少量	粘質土 ソフト	
		III c2-15	10YR4/3	にぶい黄褐色	礫粒多量	砂質	
		III c2-16	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土・青礫・赤礫・礫粒サンド状	ハード	
		III c2-17	10YR4/4	褐色	全面礫粒	ソフト	
		III d1-18	10YR3/4	暗褐色	礫粒少量	粘質土 粘性有り	
	III d1-19	10YR3/3	暗褐色	礫粒多量	ソフト		
III d1-20	10YR3/4	暗褐色	礫粒多量	ソフト			
III d1-21	10YR3/3	暗褐色	礫粒多量	粘質土 ソフト			
III d2-22	10YR4/3	にぶい黄褐色	青礫・赤礫・黄礫 やや多量	粗 ソフト			

	Ⅲ d2-23 Ⅲ d2-24	10YR3/4 10YR4/3	暗褐色 にぶい 黄褐色	粘質土・礫粒サンド状 ローム 礫粒多量	やや粘性有り 砂質 ソフト	
	Ⅲ d2-25 Ⅲ d2-26	10YR3/4 10YR4/3	暗褐色 にぶい 黄褐色	粘質土・礫粒サンド状 青礫・赤礫・黄礫やや多量	やや粘性有り 粗砂 ソフト	
沢2	Ⅲ e2-27	10YR3/4	暗褐色	礫粒やや多量	粘質土 ややソフト (Ⅲ d2-26)より粘性 有り	炭少量
	Ⅲ e2-28	10YR3/3	暗褐色	礫粒少量	粘質土 ソフト	
	Ⅲ e2-29	10YR3/3	暗褐色	礫粒少量	やや粘土質 ソフト	
	Ⅲ e2-30	10YR3/4	暗褐色	礫粒やや多量	粘性有り 粘質土 (Ⅲ d2-24)よりやや固 い	
	Ⅲ e2-31	10YR3/4	暗褐色	礫粒やや多量	ややハード	
	Ⅲ e2-32	10YR3/3	暗褐色	礫粒		
	Ⅲ e2-33	10YR2/2	黒褐色	礫粒 ローム粒	ソフト	
	Ⅲ e2-34	10YR2/2	黒褐色	礫粒多量	粘土質 ソフト	
	Ⅲ e2-35	10YR2/2	黒褐色	礫粒	やや粘性有り	
	Ⅲ e3-36	2.5YR3/1	黒褐色	礫粒やや多量	ソフト	
Ⅲ e3-37				焼土粒 少量 全面炭 焼土粒プロ ック状少量		
Ⅲ e3-38	10YR4/4	褐色	全面ロームブロック			
Ⅲ e3-39	10YR2/1	黒色	ローム粒 礫粒	ソフト		
Ⅲ e3-40	5YR3/4	暗赤褐色		砂質 ハード		
IV-1 IV-2 IV-3 IV-4	10YR2/2 10YR3/4 10YR5/4 10YR3/4	黒褐色 暗褐・褐色 にぶい 黄褐・褐色 暗褐・褐色				
	あ	10YR3/3	暗褐色	礫粒やや多量	やや粘土質 ややソフト	
	い う え お か	10YR3/4 10YR3/4 10YR3/1 10YR3/1 10YR2/2	暗褐色 暗褐色 黒褐色 黒褐色 黒褐色	礫粒少量 礫粒少量 礫粒 ローム粒微量 ローム粒	ソフト ソフト 砂質 ソフト やや粘質土 ソフト	炭焼土粒 炭焼土粒 炭焼土粒 少量
	溝1	イ ロ ハ ニ	10YR4/4 10YR3/4 10YR4/4 10YR3/4	褐色 暗褐・褐色 褐色 暗褐・褐色	礫粒やや多量 礫粒微量 Ko-d 少量 礫粒少量 礫粒微量 Ko-d(ロ)よりやや多量	(Ⅲ a-3)よりややソフト (ホ)よりやや粘性有り

表5 (第5図) 溝3土層観察表

覆土	イ	10YR4/3	にぶい 黄褐色	2~3mm 大砂利 20~30%混入	シルト やや粗 ややソフト	炭粒少量	
	ロ	10YR3/2	黒褐色	1cm 大礫少量混入	シルト やや粗 ややソフト		
	ハ	10YR4/3 4/4	にぶい 黄褐・褐色	1mm 大砂利少量 10YR5/6 黄褐色 ソフトローム粒微量	シルト		
	ニ	10YR3/3	暗褐色	1mm 大砂利少量混入	シルト やや粗 ややソフト		
	ホ	10YR3/4	暗褐色	1.5cm 大礫 1個混入	シルト やや粗 ややソフト		
	ヘ	10YR4/4	褐色		粘質土 やや密 ややソフト		炭粒微量
	ト	10YR3/4	暗褐色	2~3mm 大砂利 20~30%混入	シルト やや粗 ややソフト		
	チ	10YR3/3	暗褐色	2~3mm 大砂利 20~30%混入	シルト やや粗 ややソフト		
	リ	10YR3/2 3/3	黒褐・ 暗褐色	1mm 大砂利 10%	シルト やや粗 ややソフト		
	ヌ	10YR3/4	暗褐色	10YR4/6 褐色 ソフトローム少量混入	シルト やや粗 ややソフト		
	ル	10YR3/2	黒褐色	5mm・2~3cm 大 20~30%混入	シルト やや粗 ややソフト		

表6 (第6図) トレンチ1 東西セクション北壁土層観察表(A~A')

	I-1	10YR3/3	暗褐色	礫粒 ローム粒	ややソフト	
II-1 II-2 II-3 II-4 II-5 II-6 II-7 II-8 II-9 II-10 II-11 II-12 II-13 II-14 II-15 II-16 II-17 II-18 II-19 II-20 II-21 II-22	II-1			Ko-d 主体		
	II-2			礫粒 砂利少量	ハード	
	II-3	10YR4/4	褐色	礫粒 基盤礫少量	ハード	
	II-4	10YR3/2	黒褐色	青色粘土少量		
	II-5	2.5Y3/2	黒褐色	全体に砂・粘土・青礫・赤礫・ 黄礫・Ko-d 混入	ハード	
	II-6	10YR3/3 3/4	暗褐色	10YR4/6 褐 ロームブロック多量 少量	ハード	
	II-7	10YR4/3	にぶい 黄褐色	炭・ローム粒混入	ややソフト	
	II-8			Ko-d 層		
	II-9	10YR2/2	黒褐色	礫粒少量	ソフト	
	II-10	10YR5/2	灰黄褐色	礫粒少量	粘土 ややハード	
	II-11	10YR2/2	黒褐色	10YR2/2 黒褐色土と 青砂・赤砂サンド状		
	II-12	2.5Y4/4 4/6	オリーブ褐 色	砂層		
	II-13	10YR4/2	灰黄褐色	5YR3/6 暗赤褐色土 少量混入	湿性 ソフト	
	II-14					
	II-15	10YR4/3	にぶい 黄褐色	7.5YR4/4 褐色土混入 礫粒	ややハード	
	II-16	10YR4/4	褐色	礫粒少量	ややハード	
	II-17	10YR4/1	褐灰色	砂微量 Ko-d 少量	ソフト	
	II-18	10YR2/3	黒褐色	砂 40%	ソフト	
	II-19	10YR2/2 2/3	黒褐色	Ko-d 多量		
	II-20	10YR4/2	灰黄褐色	礫粒少量 Ko-d 微量	やや粘土質 ややソフト	
II-21	10YR2/3	黒褐色	礫粒少量	やや密		
II-22			全面 Ko-d			
III-1 III-2 III-3 III-4 III-5 III-6	III-1	10YR3/2	黒褐色	ややソフト		
	III-2	10YR4/4	褐色	礫粒・Ko-d 少量	ややハード	
	III-3	10YR4/3	にぶい 黄褐色	礫粒少量	ややハード	
	III-4	10YR4/2	灰黄褐色	7.5YR5/6 明褐色粘土 少量混入	ややハード	
	III-5	10YR5/3	にぶい 黄褐色	7.5YR5/6 明褐色粘土混入 礫粒少量	やや粘土質 (Ⅲ-17)よりハード	
	III-6				炭微量	

沢1	III-7	10YR4/4 4/6	褐色	礫粒少量	ややハード	
	III-8	10YR5/4 4/4	にぶい 黄褐・褐色	基盤礫・ローム少量 礫粒 やや粗		
	III-9	10YR5/4	にぶい 黄褐色	基盤礫・ローム少量 礫粒 粗		
	III-10	7.5Y3/2	オリーブ黒 色	砂多量混入	粘土 やや密	
	III-11	2.5GY3/1	暗オリーブ 灰色	ローム 砂多量	ソフト	
	III-12	10YR4/2	灰黄褐色	礫粒・Ko-d 少量	ややソフト	
	III-13	10YR2/3	黒褐色	砂多量	粘性有り ソフト	
	III-14	10YR4/4	褐色	砂多量	ソフト	
	III-15	5GY3/1	暗オリーブ 灰色	礫粒・Ko-d 少量	粗砂 ソフト	
	III-16	10YR4/1	褐灰色	7.5YR5/6 明褐色粘土混入 Ko-d 少量	粘土質 (Ⅲ-5)より粘性有り	
	III-17	2.5Y4/2	暗灰黄色	7.5YR5/7 明褐色粘土混入	粘土質 ソフト ややベスト状 やや粘性有り	
	III-18	10YR3/2	黒褐色	ローム 礫粒少量 砂多量 Ko-d 微量	粘土質 ソフト (Ⅲ-16)より粘性有り	
	III-19	5Y3/2	オリーブ黒 色	礫粒少量	粘土質 粘性有り ソフト	
	III-20	5Y3/2	オリーブ黒 色	(Ⅲ-19)より青礫粒多量	粘土質 粘性有り ソフト	
	III-21	10YR3/2	黒褐色	礫粒やや多量 Ko-d 微量	やや密	
	III-22	10YR4/2	灰黄褐色	7.5YR4/6 褐色土混入	粘性有り ソフト	
III-23	10YR5/2	灰黄褐色	礫粒多量	粘土質		
III-24	10YR4/4	褐色	7.5YR4/6 褐色土混入 礫粒多量	ややハード		
III-25	10YR5/2	灰黄褐色	7.5YR4/6 褐色土混入 礫粒多量	ハード		
III-26	10YR5/4	にぶい 黄褐色	基盤礫・ローム少量 礫粒 やや粗	粘土質 ややハード		
III-27	10YR4/2	灰黄褐色	礫粒多量 7.5YR4/6 褐色土混入	ハード		
III-28	10YR4/2	灰黄褐色	礫粒少量	粘土質 (Ⅲ-25)よりソフト		

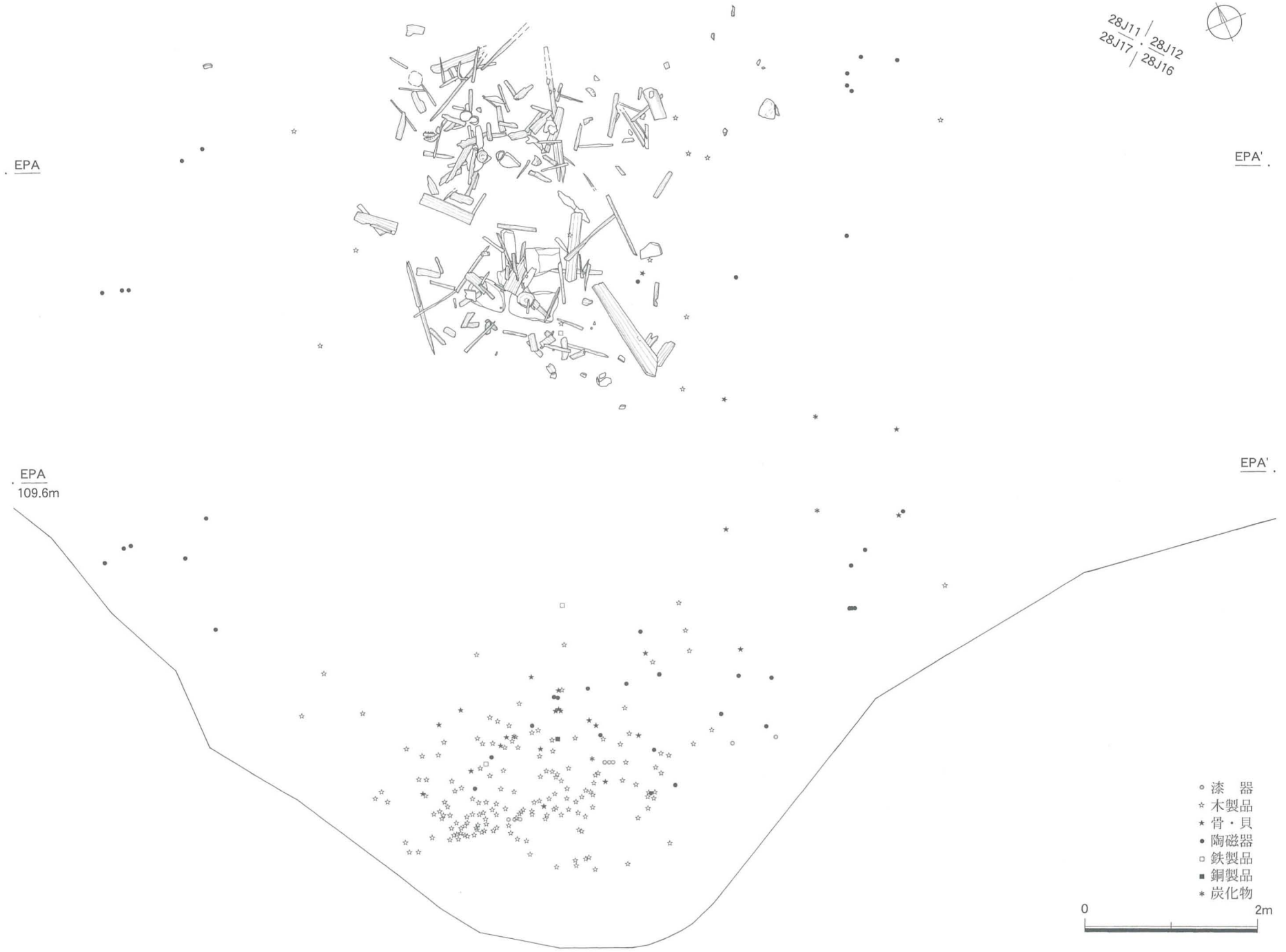
Ⅲ-29									
Ⅲ-30	7.5YR4/6	褐色	礫粒 砂 ローム多量 (全面赤い層)	ハード					
Ⅲ-31	7.5YR4/2・ 4/3	灰褐・褐色	青礫少量(ローム層)	粘土質 粘質					
Ⅲ-32	7.5YR4/1・ 3/1	褐灰・黒褐色	礫粒	粘土質主体 粘性強い					
Ⅲ-33	7.5YR3/1・ 3/2	黒褐色	砂粒主体	やや粘質 粘性強い					
Ⅲ-34	10YR3/2	黒褐色	礫粒 粘土混入	やや密	炭				
Ⅲ-35	7.5YR2/1	黒色	青礫	粘土質主体 粘性強い					
Ⅲ-36	10YR4/3	にぶい 黄褐色	礫粒やや多量	やや粘性有り	炭少量				
Ⅲ-37	10YR4/4・ 4/6	褐色	基盤礫 礫粒 ロームブロック	粘性有り					
Ⅲ-38	10YR3/1	黒褐色	粘土混入 礫粒 砂	湿性 ソフト	炭少量				
Ⅲ-39	7.5YR1.7/ 1	黒色		粘土質主体	腐食した 炭化物層状 混入				
Ⅲ-40	2.5Y3/1	黒褐色	ローム 基盤礫多量						
Ⅲ-41	7.5YR3/1	黒褐色	木質少量混入	粘土質主体 粘性強い					
Ⅲ-42	7.5YR3/1・ 3/2	黒褐色		粘土質主体 粘性強い	炭粒混入				
Ⅲ-43	10YR2/2	黒褐色	礫粒 砂 ローム混入	湿性 ソフト					
Ⅲ-44	7.5YR3/1・ 3/2	黒褐色	自然木混入 樹皮	粘質土 少し青色強い ペースト状					
Ⅲ-45	7.5YR3/2・ 2/2	黒褐色	自然木混入 樹皮 基盤礫少量混入	粘質土主体 粘性強い	炭粒少量				
Ⅲ-46	7.5YR2/1・ 3/1	黒・黒褐色	砂粒 自然木混入 砂と粘質混入	粘質土主体 ペースト状	炭化物				
Ⅲ-47	10YR2/2	黒褐色	基盤礫多量 礫粒 砂 ローム混入						
Ⅲ-48									
Ⅲ-49	10YR2/2	黒褐色	ローム 基盤礫 礫粒	粘土質 粘性有り ソフト	炭少量				
Ⅲ-50									
Ⅲ-51	7.5YR2/1	黒色	砂質と青粒混入	砂質土					
Ⅲ-52	7.5YR3/2	黒褐色	青礫・黄礫の混入層 自然木混入						
Ⅲ-53	10YR4/2	灰黄褐色	基盤礫多量 礫粒 ローム	ややハード					
Ⅲ-54	5YR2/1	黒褐色		粘質土 ペースト状					
Ⅲ-55	7.5YR3/1	黒褐色	青礫・砂混入	ペースト状					
Ⅲ-56	5Y3/1	オリーブ黒 色	砂と粘土サンド状	ペースト状					
Ⅲ-57	5Y3/2	オリーブ黒 色	砂混入 黄礫 青礫	砂質土					
Ⅲ-58	7.5YR3/1・ 2/1	黒・黒色		粘質土主体 粘性強い	炭少量				
Ⅲ-59	2.5YR3/1	暗赤灰色	全体青礫・赤礫・黄礫 2.5Y4/2 暗灰黄色土混入	ペースト状					
Ⅲ-60	10YR1.7/1	黒色	基盤礫混入層 自然木混入						
Ⅲ-61	10YR1.7/1 ・2.5Y3/1	黒・黒褐色	上層 10YR1.7/1 黒色土 下層 2.5Y3/1 黒褐色土 ロームブロック混入	粘質 ペースト状					
Ⅲ-62	7.5YR4/1	褐灰色		粘質 ペースト状					
Ⅲ-63	7.5YR4/2	灰黄褐色	青礫混入	粘質土主体 ペースト状					
Ⅲ-64	2.5GY3/1	暗オリーブ 灰色	全体に青礫・砂層 玉石 自然木混入	砂質土					
Ⅲ-65	2.5Y4/2	暗灰黄色	礫粒少量	粘質 ペースト状					
Ⅲ-66	10YR2/1	黒色		ソフト	炭多量				
Ⅲ-67	7.5YR4/1	褐灰色	赤礫少量混入	粘土質主体 粘性強い					
Ⅲ-68	10YR5/4	にぶい 黄褐色	礫粒少量	粘質					
Ⅲ-69	10YR5/4	にぶい 黄褐色	7.5YR5/6 明褐色粘土混入 礫粒少量	粘質					
Ⅲ-70									
Ⅲ-71	5Y4/1	灰色	青粒少量混入	粘土質主体 粘性強い					

Ⅲ a-7	10YR4/4・ 3/4	褐・暗褐色	基盤粒 砂粒多量	砂質 ハード	炭粒微量				
Ⅲ a-8	7.5YR3/3	暗褐色	基盤粒主体 砂粒 小礫 玉砂利	ハード	炭粒微量				
Ⅲ a-9	10YR4/4・ 3/4	褐・暗褐色	基盤粒多量(粒大) 玉砂利少量	砂質	炭粒微量				
Ⅲ d2-10	7.5YR3/3	暗褐色	基盤粒 砂粒	粘質主体 ややハード	炭粒微量				
Ⅲ d2-11	10YR4/3	にぶい 黄褐色	基盤粒少量粘質主体	粘質主体 やや密 やや湿性 ややソフト					
Ⅲ d2-12	7.5YR3/3	暗褐色	砂粒 玉砂利少量	粘質主体 湿性 ややソフト	炭粒微量				
Ⅲ d2-13	7.5YR3/4	暗褐色	暗褐色土主体 基盤粒少量	湿性 ややソフト	炭粒微量				
Ⅲ d2-14	7.5YR4/4	褐色	基盤粒主体 砂粒	湿性 ややハード	炭粒微量				
Ⅲ d2-15	7.5YR3/3	暗褐色		粘質主体 湿性 ややソフト	炭粒微量				
Ⅲ d2-16	7.5YR4/3	褐色		粘質主体 湿性 ややソフト	炭粒微量				
Ⅲ d2-17	7.5YR3/2	黒褐色		粘質主体 湿性 ややソフト	炭粒微量				
Ⅲ d2-18	7.5YR4/4・ 3/4	褐・暗褐色	基盤粒主体 砂粒	砂質土 ハード	炭粒微量				
沢2	Ⅲ e2-19	7.5YR3/2	黒褐色	砂粒	粘質主体 ソフト	焼土粒 炭粒少量			
	Ⅲ e2-20	7.5YR3/2・ 3/3	黒褐・暗褐 色	ロームブロック	粘質主体 湿性 ややソフト	炭粒少量			
	Ⅲ e3-21	7.5YR2/2	黒褐色	黒色土主体湿性 ソフト	焼土粒 炭化物				
	Ⅲ e3-22	7.5YR1.7/ 1	黒色	黒色土主体	湿性 ソフト				
	Ⅳ-1	7.5YR4/3・ 3/3	褐・暗褐色	暗褐色土主体	湿性 ソフト				
	V-1								
144号 墓盛土	A	10YR4/4	褐色		ややソフト	炭粒			
土塚2	イ	10YR4/4	褐色	礫粒・基盤礫少量 Ko-d 微量 礫粒少量	やや密 (イ)よりややソフト	炭微量			
	ロ	10YR4/4	褐色		粘土質				
	ハ	10YR4/4・ 4/6	褐色		密				
	ニ	10YR4/4・ 4/6	褐色	礫粒少量 やや粘土混入					
	ホ	10YR4/4	褐色	礫粒少量 粘土混入	密	炭微量			
	ヘ	10YR4/4	褐色	礫粒少量	(ニ・ホ)よりソフト	炭少量			
	ト	10YR4/6	褐色	礫粒少量 ローム粒	やや粗 粘土質				
	チ	10YR4/6	褐色		粘土質 (Ⅲ-3)より	炭少量			
	リ	10YR4/3	にぶい 黄褐色	礫粒・ローム粒少量	ややソフト				
焼土5	a	10YR4/4	褐色	ローム粒	やや粗 ソフト	焼土粒量 炭多量			
溝3	イ	7.5YR3/2	黒褐色	基盤粒 ローム少量 基盤礫ブロック状有り	粘質主体 湿性 ソフト	焼土粒 炭粒微量			
焼土3		7.5YR1.7/ 1	黒色	黒色土主体	湿性 ソフト	焼土粒 炭化物			

整地
盛土

Ⅲ a-1	7.5YR3/3・ 3/4	暗褐色	暗褐色土主体 砂利 基盤粒 玉砂利少量	ハード					
Ⅲ a-2	7.5YR4/4・ 3/4	褐・暗褐色	玉砂利主体 基盤粒 砂利	砂質 ハード					
Ⅲ a-3	10YR4/4	褐色	基盤粒 赤粒 砂粒	砂質					
Ⅲ a-4	7.5YR3/3・ 3/4	暗褐色	暗褐色土主体 砂利 玉砂利少量	ハード					
Ⅲ a-5	7.5YR3/3・ 3/4	暗褐色	基盤粒主体 砂粒 小礫 玉砂利	ハード	炭粒微量				
Ⅲ a-6	10YR4/4	褐色	基盤粒 砂粒 赤粒 Ko-d 混入	炭粒微量					

第7図 沢1 遺物分布図



- 漆器
- ☆ 木製品
- 骨・貝
- 陶磁器
- 鉄製品
- 銅製品
- * 炭化物

0 2m

表7 (第8図) トレンチ1東西セクション南壁土層観察表(D~D')

	I-1	10YR3/2	黒褐色	黒褐色土主体 礫粒 基盤 ローム粒	ソフト		
	II-1	10YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体 礫粒 ローム粒	ソフト		
	II-2	10YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体 ハードロームブロック状混入			
	II-3	10YR2/3	黒褐色	黒褐色土主体 礫粒	ソフト		炭化物
	II-4	10YR3/3・ 3/2	暗褐・黒褐色	暗褐色土主体 Ko-d 多量 玉砂利少量	ソフト		炭粒少量
	III-1	10YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体 礫粒 ローム粒	ソフト		
	III-2	10YR3/3	暗褐色	ソフトローム主体 礫粒 Ko-d 少量	ソフト		炭粒微量
	III-3	10YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体 礫粒 ローム粒 Ko-d 少量	ソフト		
	V-1	10YR4/4	褐色	ハードローム主体 基盤粒	ハード		
136号 墓盛土	あ	10YR4/3・ 3/3	にぶい黄褐・暗褐色	黄褐色土主体 礫粒 基盤	ソフト		炭粒微量
	い	10YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体 礫粒 基盤粒 Ko-d 少量	ソフト		炭粒微量
136号 墓覆土	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	黄褐色土主体 礫粒 ハードローム多量	明るい ややハード		炭粒微量
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色	黄褐色土主体 基盤礫 ローム粒	ソフト		炭粒微量
	3	10YR3/4	暗褐色	暗褐色土主体 礫粒	ソフト		炭粒微量
	4	10YR4/3	にぶい黄褐色	黄褐色土主体 ローム粒 玉砂利微量	ソフト		炭粒微量
	5	10YR4/3	にぶい黄褐色	黄褐色土主体 ハードローム やや多量	明るい ソフト		炭粒微量
	6	10YR4/3・ 3/3	にぶい黄褐・暗褐色	暗褐色土主体 ローム 基盤粒	ソフト		炭粒微量
	7	10YR4/4	褐色	ハードローム主体 玉砂利微量	ハード		炭粒微量
	8	10YR4/4	褐色	ハードローム主体	ややハード		炭粒微量
	9	10YR4/3	にぶい黄褐色	ハードローム主体 基盤粒少量	ハード		炭粒微量
	10	10YR4/4	褐色	ハードローム主体 基盤粒・Ko-d 少量	ややハード		炭粒微量
	11	10YR3/3・ 3/4	暗褐色	暗褐色土主体 ローム粒 Ko-d 微量 基盤粒少量	ソフト		炭粒微量
	12	10YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体 基盤粒 少量	ソフト		炭粒微量
土塚4	イ	10YR3/3	暗褐色	ソフトローム主体 礫粒	ソフト		炭粒微量
	ロ	7.5YR4/4・ 3/4	褐・暗褐色	ソフトローム主体 基盤 粒	ややハード		炭粒微量
	ハ	10YR4/3	にぶい黄褐色	ハードローム主体 基盤粒	ややソフト		炭化物少量
	二	10YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体 基盤粒 玉砂利微量	ややソフト		炭粒微量

表8 (第8図) トレンチ1南北セクション東壁土層観察表(G~G')

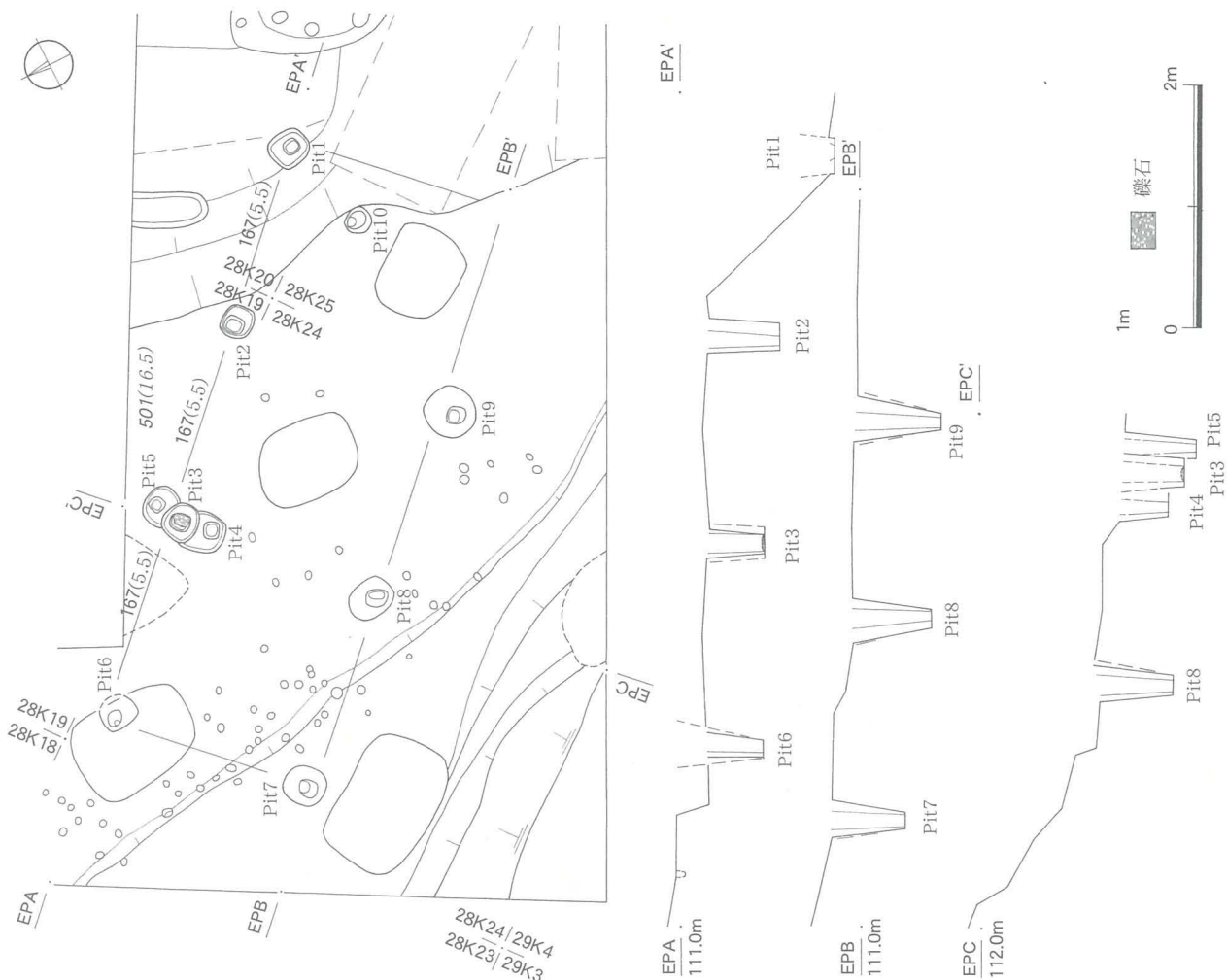
	I-1	7.5YR3/3	暗褐色	砕石主体	ソフト		
	I-2	7.5YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体 礫粒	ソフト		炭粒微量
	I-3	7.5YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体 礫粒	ソフト		炭粒微量
	I-4	10YR3/3	暗褐色	礫粒 玉砂利	ややソフト		
	II-1	7.5YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体 基盤粒 ローム粒	ソフト		炭粒微量
	II-2	7.5YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体 礫粒 Ko-d 微量	ややソフト		炭粒微量
	II-3	7.5YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体 礫粒 玉砂利	(III-6)より密 ソフト		炭粒微量
	II-4	7.5YR1.7/ 1	黒色		ソフト		炭化物主体 全面炭
	II-5	7.5YR3/3・ 3/4	暗褐色	暗褐色土主体 ローム粒 Ko-d 少量 ソフトローム	シルト ソフト		炭粒微量 焼土粒
	II-6	7.5YR3/2	黒褐色	黒色土主体 ローム粒 Ko-d 少量	ソフト		炭粒微量
	II-7	7.5YR5/4	にぶい褐色	褐色土主体 全面 Ko-d	シルト ソフト		
	III-1	7.5YR3/2	黒褐色	黒褐色土主体 礫粒	ソフト		炭粒少量
	III-2	7.5YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体 玉砂利 基盤粒 礫粒 Ko-d 少量	砂質 やや密 ソフト		炭粒微量
	III-3	7.5YR2/2・ 3/3	黒褐・褐色	暗褐色土主体 礫粒 ローム粒 Ko-d	ソフト		炭粒少量
	III-4	7.5YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体 玉砂利 ローム粒 礫粒 Ko-d 少量 ロームブロック	ややソフト		炭粒少量
	III-5						
	III-6	7.5YR3/3・ 3/2	暗褐・ 黒褐色	暗褐色土主体 礫粒 玉砂利 ローム粒	ソフト		炭粒微量

	III-7	7.5YR3/2・ 3/3	黒褐・ 暗褐色	暗褐色土主体 礫粒	ソフト		炭粒微量
	III-8	7.5YR4/4	褐色	ハードローム主体 礫粒	ハード		炭粒微量
	III-9	7.5YR3/2	黒褐色	暗褐色土主体 ロームブ ロック	ソフト		炭粒 やや多量 炭粒微量
	III-10	7.5YR3/3・ 3/4・4/4	暗褐・褐色	褐色土主体 礫粒 ローム 粒 Ko-d 微量	ソフト		炭粒微量
	III-11	7.5YR4/4・ 3/4	褐・暗褐色	褐色土主体 礫粒	ソフト		
	III-12	7.5YR3/2	黒褐色	黒褐色土主体 礫粒	ソフト		炭粒少量
	III-13	7.5YR3/3・ 3/4	暗褐色	暗褐色土主体	シルト ソフト		
	III-14	7.5YR3/2・ 4/2	黒褐・ 灰黄褐色	黒褐色土主体 ローム粒 B-Tm 少量	ソフト		炭粒多量
	IV a	7.5YR1.7/ 1	黒色	黒色土主体 ローム粒	湿性 ソフト		全面炭化物
	IV b	7.5YR3/2	黒褐色	黒褐色土主体 B-Tm	シルト ソフト		
	V-1	7.5YR3/3・ 3/4	暗褐色	暗褐色土主体 ローム粒	シルト ソフト		炭粒微量
143号 墓盛土	イ	7.5YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体 ソフトロームブ ロック	ややハード		炭粒微量
	ロ	7.5YR3/3	暗褐色	ハードローム主体 玉砂利 少量	ハード		炭粒少量
	ハ	7.5YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体 礫粒 ローム 粒	ソフト		炭粒微量
	二	7.5YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体 ローム粒	ソフト(ハ)より暗い		炭粒少量
	ホ	7.5YR3/4・ 4/4	暗褐・褐色	褐色土主体 ローム粒 基 盤粒 玉砂利少量 ローム ブロック	ソフト		炭粒微量
	ヘ	7.5YR3/3・ 2/3	暗褐・ 極暗褐色	暗褐色土主体 ローム粒	ソフト		炭粒少量
	ト	7.5YR3/2・ 3/3	黒褐・ 暗褐色	黒褐色土主体 Ko-d 少量	シルト 湿性 ソフト		炭粒微量
142号 墓盛土	あ	7.5YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体 礫粒 ローム 粒 B-Tm 少量	ややハード		炭粒少量
	い	7.5YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体 ローム粒 B-Tm やや多量	ややソフト		炭粒少量
	う	10YR4/4	褐色	褐色土主体 ハードローム で明るい	ハード		炭粒微量
	え	7.5YR3/2・ 2/2	黒褐色	黒褐色土主体 B-Tm・Ko-d 少量	ソフト		炭粒少量
	お	7.5YR3/2・ 3/3	黒褐・ 暗褐色	黒褐色土主体 ローム粒 Ko-d 少量	ソフト		炭粒 やや多量
	か	7.5YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体 ハードローム ブロック	ハード		炭粒微量
	き	7.5YR3/2	黒褐色	黒褐色土主体 B-Tm・Ko-d 少量	ソフト		炭粒微量
	く	7.5YR3/2	黒褐色	黒褐色土主体 ローム粒	ソフト		炭粒微量
	け	7.5YR2/2・ 2/3	黒褐・ 極暗褐色	極暗褐色土主体 B-Tm 多 量	ソフト		炭粒 50%
	こ	7.5YR3/2	黒褐色	黒褐色土主体	ソフト		炭粒 やや多量
141号 墓盛土	1	7.5YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体 礫粒 ローム ブロック	ソフト		炭化物少量
139号 墓盛土	イ	7.5YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体 礫粒 玉砂利 Ko-d 少量	ややソフト		炭粒微量
	ロ	7.5YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体 礫粒 玉砂利	ややソフト		炭粒微量
	ハ	7.5YR3/3・ 3/4・4/4	暗褐・褐色	暗褐色土主体 礫粒 ロームブロック Ko-d 少量	ソフト		炭粒微量
盛土掘 上げ溝	A	7.5YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体 礫粒 ローム 粒 玉砂利	ソフト		
Pit19	a	7.5YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体 礫粒 ローム 粒	ソフト		炭粒微量
	b	7.5YR3/3	暗褐色	暗褐色土主体 礫粒 ローム 粒	ソフト		炭粒少量
	c	7.5YR4/4	褐色	褐色土主体 礫粒	ややソフト		炭粒微量
小 Pit	a	7.5YR3/2・ 3/3	黒褐・ 暗褐色	暗褐色土主体 ローム粒 B-Tm	ソフト		炭粒
	b	7.5YR3/2	黒褐色	黒褐色土主体 ローム粒 B-Tm 少量	ソフト		炭粒少量

表9 (第8図) トレンチ1南北セクション西壁土層観察表 (H~H')

	I-1	10YR2/3	黒褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	II-1	10YR3/3	暗褐色	Ko-d 微量	シルト やや粗 ややソフト	
	II-2	10YR3/3	暗褐色	Ko-d 50 ~ 60%	シルト やや粗 ややソフト	
	III-1	10YR2/3	黒褐色	10YR4/4 褐色粘質土粒微量混入	シルト やや粗 ややソフト	炭粒微量
	III-2	10YR3/2	黒褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	III-3	10YR2/2	黒褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	III-4	10YR3/3	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	III-5	10YR3/3	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	炭粒微量
	III-6	10YR3/3	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	III-7	10YR3/3	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	III-8	10YR3/3	暗褐色	10YR4/4 褐色ハードローム微量混入 10cm・4 ~ 5cm 大礫2個有り	シルト やや粗 ややソフト	
	III-9	10YR3/3	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	炭粒微量
	III-10	10YR3/3	暗褐色	10YR4/4 褐色 ハードローム微量混入	シルト やや粗 ややソフト	2cm 大炭2個有り
	III-11	10YR3/3	暗褐色	10YR4/6 褐色粘質土ブロック少量	シルト やや粗 ややソフト	
	III-12	10YR4/3	にぶい黄褐色		シルト やや粗 ややソフト	0.5~1cm 大炭1%
	III-13	10YR4/4	褐色		やや粘質土 やや粗 ややソフト	
	III-14	10YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	III-15	10YR3/3	暗褐色	3 ~ 4cm 大玉石1個有り	シルト やや粗 ややソフト	
	III-16	10YR4/3	にぶい黄褐色	10YR4/4 褐色粘質土ブロック少量	シルト やや粗 ややソフト	
	III-17	10YR4/6	褐色		粘質土主体 やや密 ややハード	
	III-18	10YR3/3	暗褐色	10YR4/4 褐色粘質土粒1 ~ 2cm 大微量 混入	シルト やや粗 ややソフト	
	III-19	10YR2/3・3/4	黒褐・暗褐色	Ko-d 微量	シルト やや粗 ややソフト	
	III-20	10YR3/4	暗褐色	0.5 ~ 1cm 大礫少量	シルト やや粗 ややソフト	
	III-21	10YR3/3	暗褐色	10YR4/6 褐色粘質土ブロック少量 Ko-d 微量	シルト やや粗 ややソフト	炭粒微量
	III-22	10YR2/3・3/4	黒褐・暗褐色	Ko-d 微量	シルト やや粗 ややソフト	
	III-23	10YR3/3	暗褐色	10cm 大礫2個有り	シルト やや粗 ややソフト	
	III-24	10YR3/4	暗褐色	Ko-d 微量	シルト やや粗 ややソフト	
	III-25	10YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	III-26	10YR3/4	暗褐色	10YR4/6 褐色粘質土粒30 ~ 40%混入	シルト やや粗 ややソフト	
	III-27	10YR3/3・3/4	暗褐色	10YR5/6 黄褐色粘質土粒10%含混入	シルト やや粗 ややソフト	炭粒微量
	III-28	10YR3/3	暗褐色	10YR4/3 にぶい黄褐色土ブロック少量	シルト やや粗 ややソフト	
	III-29	10YR4/4	褐色	10YR4/6褐色粘質土粒微量	粘質土 やや密 ややソフト	炭粒微量
134号 墓盛土	イ	10YR4/4	褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	ロ	10YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	ハ	10YR3/4	暗褐色	Ko-d10%	シルト やや粗 ややソフト	
	二	10YR4/4	褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	ホ	10YR4/4	褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	ヘ	10YR4/4・4/6	褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	チ	10YR4/4	褐色	10YR4/3 にぶい黄褐色土ブロック中量	シルト やや粗 ややソフト	

	リ	10YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	ヌ	10YR4/4	褐色		シルト やや粗 ややソフト	
140号 墓盛土	あ	10YR2/3	黒褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	い	10YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	う	10YR2/3	黒褐色	Ko-d 5%	シルト やや粗 ややソフト	
	え	10YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	お	10YR4/4	褐色	ソフトローム粒2~3%	粘質土 やや粗 ややソフト	炭粒微量
	か	10YR3/3	暗褐色	10YR4/4 褐色 ソフトローム中量	シルト やや密 ややハード	
	き	10YR4/4・3/3	褐・暗褐色	10YR4/6 褐色 ソフトローム中量 Ko-d 微量	シルト やや密 ややソフト	炭粒微量
	く	10YR3/3	暗褐色	10YR6/2 灰黄褐色粘土粒微量混入	シルト やや粗 ややソフト	
	け	10YR4/4	褐色		粘質土 やや密 ややソフト	
	こ	10YR4/4・4/6	褐色		粘質土 やや密 ややソフト	
	さ	10YR4/4・4/6	褐色		シルト やや粗 ややソフト	
	し	10YR4/4	褐色		シルト やや粗 ややソフト	炭粒微量
	す	10YR3/3	暗褐色	2cm 大ハードローム 1個	シルト やや粗 ややソフト	2cm 大炭1個有り
	せ	10YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	炭粒微量
	そ	10YR3/4	暗褐色	3cm 大礫1個	シルト やや粗 ややソフト	
	た	10YR3/3	暗褐色	10YR4/4 褐色粘質土粒少量	シルト やや粗 ややソフト	
	ち	10YR4/4	褐色		粘質土 やや密 ややソフト	
	つ	10YR3/4	暗褐色		シルト やや粗 ややソフト	5mm 大炭微量



第9図 トレンチ1 柱列想定図他

〔棺推定規模・推定頭位〕 棺推定規模は、削平のため、鉄釘の位置や堆積土の相違から判断することができなかつたため不明である。推定頭位は、N-27°-Wである。

〔堆積土〕 墓壙内の覆土は、13層に分層される (SPA ~ SPA')。

〔新旧関係〕 なし

〔出土遺物〕 副葬品は、銅銭4点が出土している。その他に人骨 (歯・その他)、鉄釘2点などが出土している。

銅銭は、墓壙の南東部分に分布し、銭種は至道元寶・天聖元寶・判読不明である。歯は、墓壙の北西部分に分布する。

133号墓 (第11・12図、P L14-1~5)

〔位置〕 トレンチ西側の28K24・25グリッドに位置し、今回の発掘調査で新たに発見された墓である。

〔葬法〕 屈葬土葬墓

〔形態・規模〕 墓壙の平面形は、隅丸長方形を呈す。墓壙は、上面が削平されているため、その計測値は残存値を示すが、長軸101cm、短軸75cm、深さ25cmを測る。

〔棺推定規模・推定頭位〕 棺推定規模は、長軸72cm、短軸36cm、高さ15cmを測る。推定頭位はN-8°-Eである。

〔堆積土〕 墓壙内の覆土は19層に分層される (SPA ~ SPA')。土層番号1~12は、棺の上部に盛土を構築した後に、盛土が棺内に崩落した自然堆積層 (以下棺内崩落土とする) である。

墓壙上面に Ko-d 火山灰範囲が検出された。

〔新旧関係〕 なし

〔出土遺物〕 銅銭12点、縫針2点が出土している。その他にわら4点、鉄釘11点が出土している。銅銭は、棺北部分に6枚、南西部分に6枚分布し、銭種は開元通寶・咸平元寶・天聖元寶・宋通元寶・皇宋通寶・元豊通寶・聖宋元寶・紹聖元寶・判読

不明などである。

鉄釘は、出土位置や付着する棺材の木目方向から、2・5～9は側板→側板、3は底板→側板へ打ち付けたものである。

134号墓 (第13・14図、P L14-6～8・15-1～2)

〔位置〕トレンチ西側の28K18グリッドに位置し、今回の発掘調査で新たに発見された墓である。

〔葬法〕屈葬土葬墓

〔形態・規模〕墓壙の平面形は、隅丸長方形を呈し、長軸129cm、短軸96cm、深さ35～40cmを測る。

〔棺推定規模・推定頭位〕棺推定規模は、長軸91cm、短軸61cm、高さ18～23cmを測る。推定頭位は、N-26°-Wである。

〔堆積土〕墓壙内の覆土は、31層に分層される (SPA～SPA')。土層番号の1～9は、棺内崩落土である。墓壙の周りで見られる溝は、マウンド状に盛土するためにできた掘削痕 (以下、盛土掘上げ溝とする) である。

〔新旧関係〕平面プランの重複から、盛土掘上げ溝より新しい。

〔出土遺物〕副葬品は、銅銭12点、縫針1点が出土している。その他に人骨 (歯・指節骨)、鉄釘25点、用途不明の鉄製品2点が出土している。

銅銭は、棺北部分に6枚まとまっている他、棺南部分に6枚分布し、銭種は元祐通寶・判読不明である。

指節骨は、棺北部分の銅銭の真下に位置している。その数は指2本分で、いずれの指に相当するのか不明であるが、部位は形状から末節骨・中節骨と想定される。

鉄釘は、出土位置や付着する棺材の木目方向から、2・4・6・9・15は天板→側板、1・8・3・13・19 (1段目)、7・12・14・16 (2段目)、10・17・18・20 (3段目) は側板→側板に打ち付けたものである。鎌?は、棺内崩落土からの出土である。

137号墓 (第15図、P L16-3～6)

〔位置〕トレンチ中央西寄りの28K19・24グリッドに位置し、今回の発掘調査で新たに発見された墓である。

〔葬法〕屈葬土葬墓

〔形態・規模〕墓壙の平面形は、隅丸長方形を呈す。墓壙は、上面が削平されているため、その計測値

は残存値を示すが、長軸85cm、短軸64cm、深さ10cmを測る。

〔棺推定規模・推定頭位〕棺推定規模は、削平のため、長軸については鉄釘の位置や堆積土の相違から判断することができなかつたため不明であるが、短軸45cm、高さ8cmを測る。推定頭位は、N-7°-Eである。

〔堆積土〕墓壙内の覆土は、9層に分層される (SPA～SPA')。土層番号1～5は、棺内崩落土である。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕副葬品は、銅銭11点が出土している。その他に歯 (細片0.4g)、鉄釘3点が出土している。また、棺内崩落土のフローテーションサンプル土より鍛造剥片6点が出土している。

銅銭は、棺北部分に5枚、南部分に6枚分布し、銭種は開元通寶・祥符通寶・天禧通寶・天聖通寶・元祐通寶・元豊通寶・永樂通寶・判読不明である。

鉄釘は、出土位置や付着する棺材の木目方向から、1・2・3は側板→側板へ打ち付けたものである。

138号墓 (第16図、P L16-7～8・17-1～2)

〔位置〕トレンチ中央西寄りの28K24グリッドに位置し、今回の発掘調査で新たに発見された墓である。

〔葬法〕屈葬土葬墓

〔形態・規模〕墓壙の平面形は、隅丸長方形を呈す。墓壙は、上面が削平されているため、その計測値は残存値を示すが、長軸76cm、短軸63cm、深さ10cmを測る。

〔棺推定規模・推定頭位〕棺推定規模は、長軸55cm、短軸45cm、高さ23cmを測る。推定頭位は、N-30°-Wである。

〔堆積土〕墓壙内の覆土は、15層に分層される (SPA～SPA')。土層番号イ～ヌは、棺内崩落土である。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕副葬品は、漆器 (塗膜) 1点、銅銭12点が出土している。その他に鉄釘4点が出土している。

銅銭は、棺北西部分に6枚重なっているほか、南部分に6枚まとまって出土し、銭種は祥符通寶・祥符通寶・皇宋通寶・紹聖元寶・政和通寶・天禧通寶・永樂通寶・判読不明がある。

鉄釘は、出土位置や付着する棺材の木目方向から、1・2・3は側板→側板へ打ち付けたもので

ある。

135号墓 (第17・18図、P L15-3~8・16-1~2)

〔位置〕 トレンチ西側の28K 8・13グリッドに位置し、今回の発掘調査で新たに発見された墓である。

〔葬法〕 屈葬土葬墓

〔形態・規模〕 墓壙の平面形は、円形を呈し、直径120cm、深さ20cmを測る。

〔棺推定規模・推定頭位〕 棺推定規模の長軸については、鉄釘の位置や堆積土の相違から判断することができなかったため不明であるが、短軸54cm、高さ30cmを測る。推定頭位は、N-15°-Eである。

〔堆積土〕 墓壙外の覆土は44層、棺外の覆土は12層に分層される (SPA ~ SPA')。土層番号1~9は、棺内崩落土である。

堆積土は、墓壙中央の棺内崩落土部分のしまりが、棺外の覆土(土層番号 a ~ 1)と比較して、ソフトである。

〔新旧関係〕 なし

〔出土遺物〕 副葬品は、銅銭9点、毛抜き1点が出土している。その他に頭蓋骨・歯、鉄釘3点が出土している。覆土中から鉄滓13点、不明溶解物4点などが出土している。また、フローテーションサンプル土より鍛造剥片3.9g、鉄滓9gが出土している。

銅銭は、棺南部分に3枚、西部分に6枚分布し、錢種は開元通寶・熙寧元寶・景德元寶・天聖元寶・嘉祐元寶である。毛抜きは、頭蓋骨に接して出土し、繊維状の編物が付着している。

頭蓋骨は、右頭頂骨と思われる、出土した方向から、南頭位東向きと想定される。歯は、上顎部分で約9本、下顎部分で約3本出土している。

136号墓 (第8図)

〔位置〕 トレンチ中央西寄りの28K24グリッドに位置し、今回の発掘調査で新たに発見された墓である。墓壙と思われるプランを確認したのみで未完掘である。

〔葬法〕 屈葬土葬墓

〔形態・規模〕 墓壙の平面形は、隅丸長方形を呈し、残存値で長軸96cm、短軸38cmを測る。盛土は、セクション面で直径196cm、厚さ20cmを測る。

〔堆積土〕 盛土は2層、墓壙内の覆土は12層 (SPD ~ SPD') に分層される。

〔新旧関係〕 136号墓の盛土が、土壌4を覆うようにして堆積することから、136号墓が土壌4より新しいと思われる。

〔出土遺物〕 なし

139号墓 (第8図、P L17-3~4)

〔位置〕 トレンチ西側の28K18グリッドに位置し、今回の発掘調査で新たに発見された墓である。墓壙と思われるプランを確認したのみで未完掘である。

〔形態・規模〕 墓壙の平面形は、楕円形を呈し、残存値で長軸43cm、短軸40cmを測る。盛土は、セクション面で直径103cm、厚さ12cmを測る。

〔堆積土〕 盛土は、3層に分層される (SPG ~ SPG')。

〔新旧関係〕 141号墓、盛土掘上げ溝、溝2より新しい。

〔出土遺物〕 なし

140号墓 (第8図、P L17-5)

〔位置〕 トレンチ西側の28K18グリッドに位置し、今回の発掘調査で新たに発見された墓である。墓壙と思われるプランを確認したのみで未完掘である。

〔形態・規模〕 墓壙の平面形は、楕円形を呈し、残存値で長軸36cm、短軸43cmを測る。盛土は、セクション面で175cm、厚さ24cmを測る。

〔堆積土〕 盛土は、18層に分層される (SPH ~ SPH')。

〔新旧関係〕 134号墓、溝2より新しい。

〔出土遺物〕 鉄釘1点、鉄滓1点が出土している。

141号墓 (第8図、P L17-3~4)

〔位置〕 トレンチ西側の28K13・18グリッドに位置し、今回の発掘調査で新たに発見された墓である。墓壙と思われるプランを確認したのみで未完掘である。

〔形態・規模〕 墓壙の平面形は、隅丸長方形を呈し、残存値で長軸27cm、短軸14cmを測る。

〔堆積土〕 盛土1層に分層される (SPG ~ SPG')。

〔新旧関係〕 139号墓より古い。

〔出土遺物〕 なし

142号墓 (第8図)

〔位置〕 トレンチ西側の28K13グリッドに位置し、今回の発掘調査で新たに発見された墓である。墓壙と思われるプランを確認したのみで未完掘である。

〔形態・規模〕墓壇の平面形は、隅丸長方形を呈し、残存値で直軸65cm、短軸42cmを測る。

〔堆積土〕10層に分層される（SPG～SPG'）。また、142号墓上面に焼土範囲を検出し、そこから羽口・鉄滓・不明溶解物などが出土している。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕覆土上面より、瀬戸美濃灰釉端反皿が出土している。

143号墓（第8図、PL17-6）

〔位置〕トレンチ西側の28K2・7・8グリッドに位置し、今回の発掘調査で新たに発見された墓である。盛土と思われる範囲を一部調査したのみで、未完掘である。

〔形態・規模〕盛土の平面形は、やや方形を呈し、厚さ15cmを測る。

〔堆積土〕盛土7層に分層される（SPG～SPG'）。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕なし

✓144号墓（第8図、PL17-7）

〔位置〕トレンチ中央西寄りの28K19・24グリッドに位置し、今回の発掘調査で新たに発見された墓である。盛土と思われる範囲を一部調査したのみで未完掘である。

〔形態・規模〕盛土は、残存値で直径60cm、厚さ6cmを測る。

〔堆積土〕盛土1層に分層される（SPA～SPA'）。

〔新旧関係〕Pit3・4・5より古い。

〔出土遺物〕盛土の裾部分より、錢繒(12枚)が出土している。錢種は、太平通寶1点、他は癒着のため不明である。

溝2（第8図、PL17-3）

〔位置〕トレンチ西側の28K18グリッドに位置する。プランを確認したのみで未完掘である。

〔形態・規模〕残存値で、長軸38cm、短軸20cmを測る。

〔新旧関係〕139・140号墓より新しい。

〔出土遺物〕鉄製品の小柄1点が、覆土上面から出土している。

土壙1（第17図、PL18-1～2）

〔位置〕28K13グリッドに位置する。

〔形態・規模〕平面形は円形を呈し、直径54cm、深

さ30cmを測る。

〔堆積土〕14層に分層される（SPA～SPA'）。

〔新旧関係〕Pit11・12・13より古い。

〔出土遺物〕なし

柱列（第9図、PL20-2）

〔位置〕28K19・20・24・25グリッドに位置する。

柱列が見られる場所は、地山を削平して平場を造成し、その際に132・133・137・138号墓の上面も削平している。また、132号墓と133号墓の間を南北に走る10～20cmの段差が見られる（PL20-4）。

〔形態・規模〕柱列A～A'（Pit1・2・3・6）とそれに平行するB～B'（Pit7・8・9）を想定した。柱列A～A'は、柱間5.5尺3間とした。Pit6・7が矩になる。柱列B～B'もA～A'と同規格の柱間寸法を持つ。

〔堆積土〕14層に分層される（SPA～SPA'）。

〔新旧関係〕132・133・137・138・144号墓より新しい。

〔出土遺物〕なし

②トレンチ2（第4図、PL13-3）

〔位置〕27J19・20・24グリッドに位置する。トレンチ1で確認した溝1の続きを検出するためトレンチ2を設定した。

〔検出遺構〕溝1は検出できず、整地盛土、沢2を検出した。Ko-d火山灰降下後に南北方向に伸びる土堤が構築されている。

〔出土遺物〕整地盛土から青磁碗1点、瀬戸美濃灰釉皿1点、沢2から白磁皿1点、瀬戸美濃灰釉碗・皿6点出土している。

土壙5（第4図）

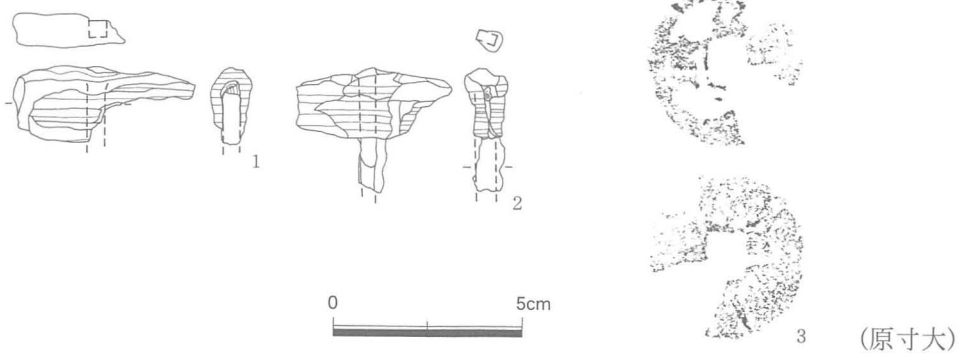
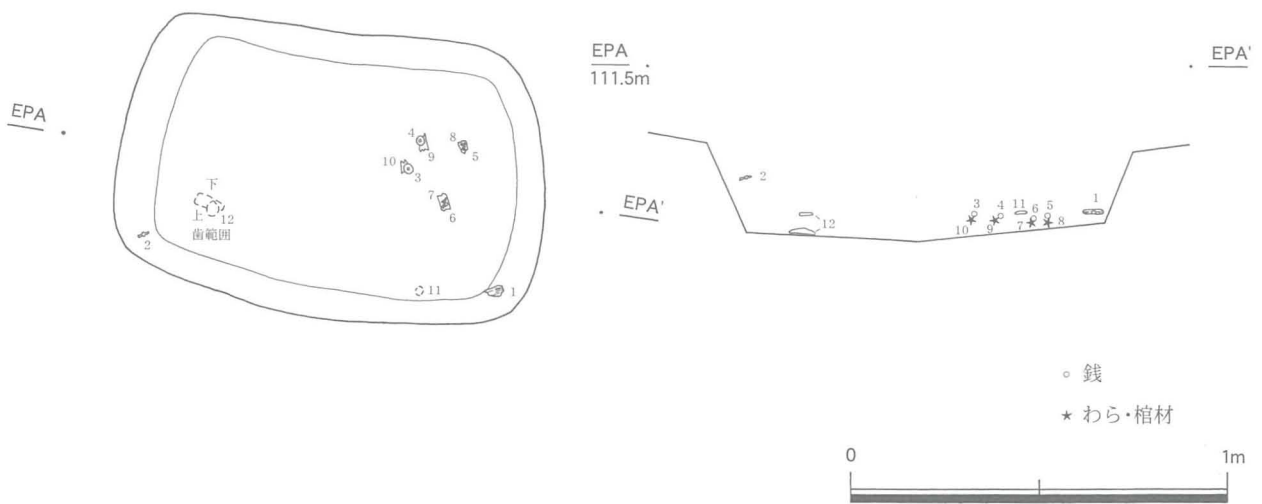
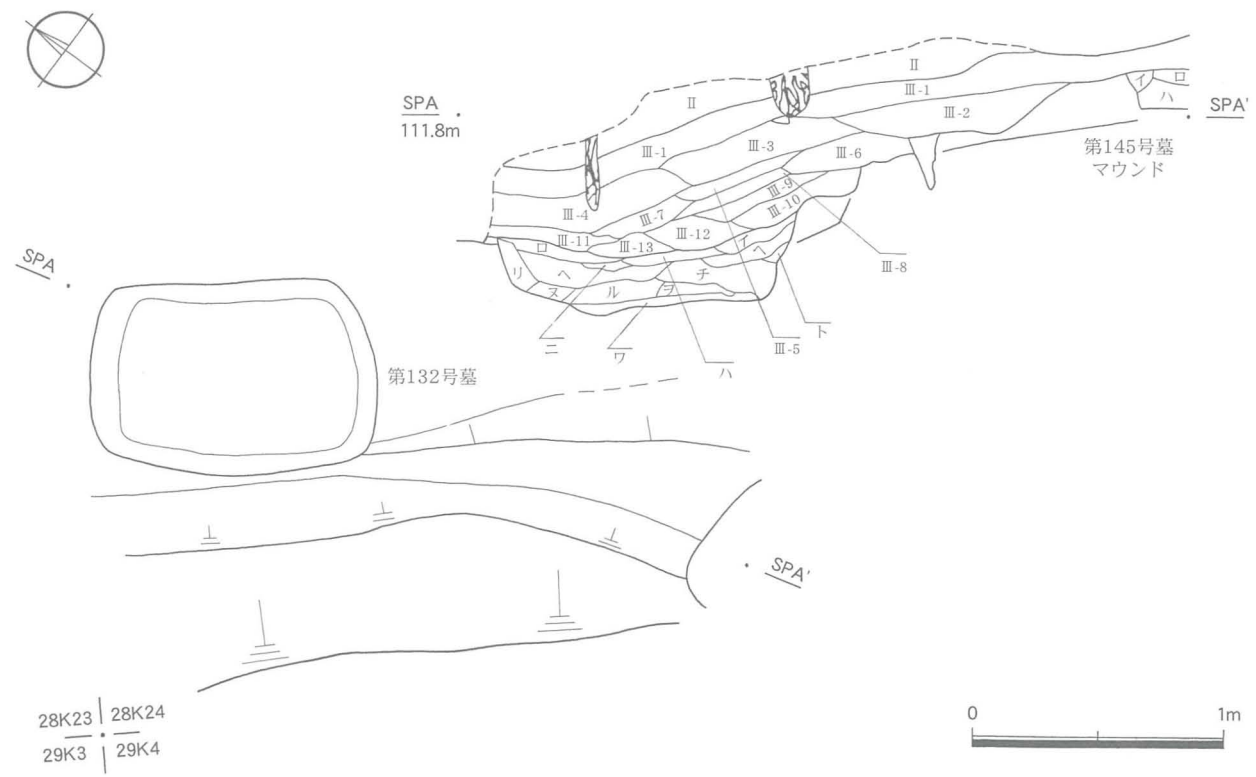
〔位置〕27J19・20グリッドに位置する。

〔形態・規模〕セクション面において検出されたため、平面形は確認できなかった。セクション面で幅66cm、深さ20cmを測る。

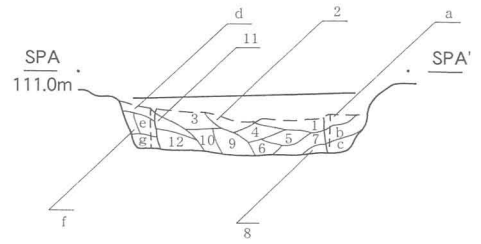
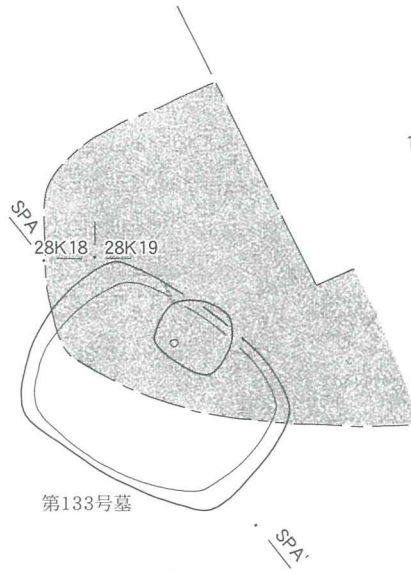
〔堆積土〕6層に分層される（SPF～SPF'）。土壙としたが、礫粒やローム粒が多量に混入し、整地盛土の土で埋め戻されている。掘り方が不整形を呈すため、自然の落ち込みとしての可能性も考えられる。

〔新旧関係〕整地盛土より古く、沢2より新しい。

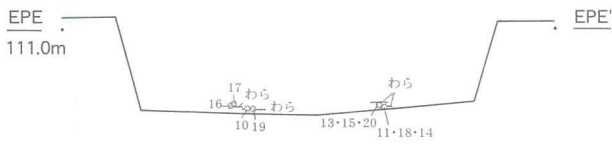
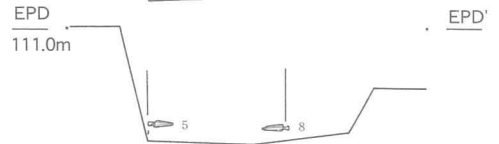
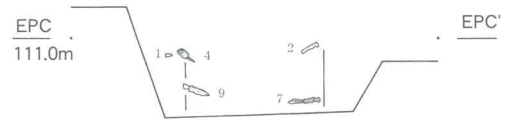
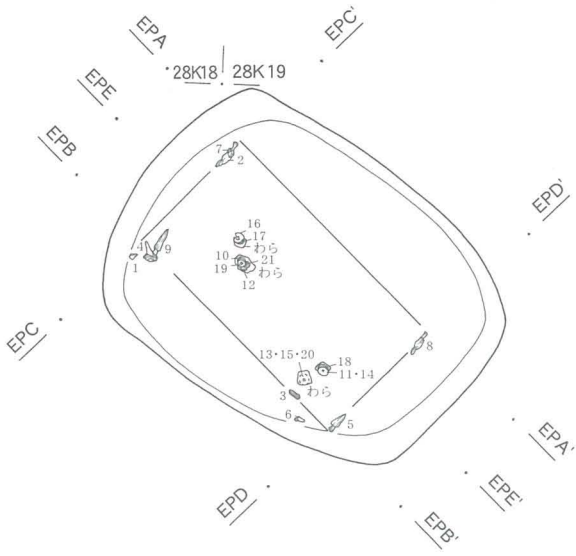
〔出土遺物〕なし



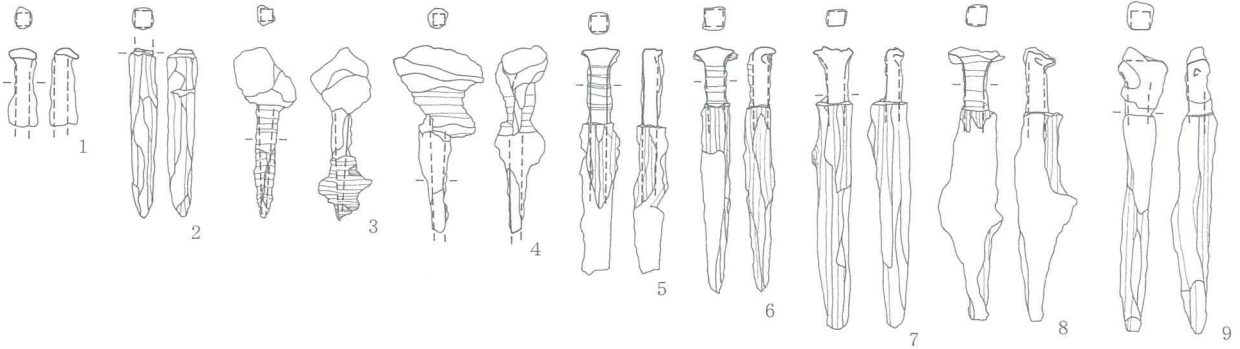
第10図 第132号墓 平面図他、出土遺物



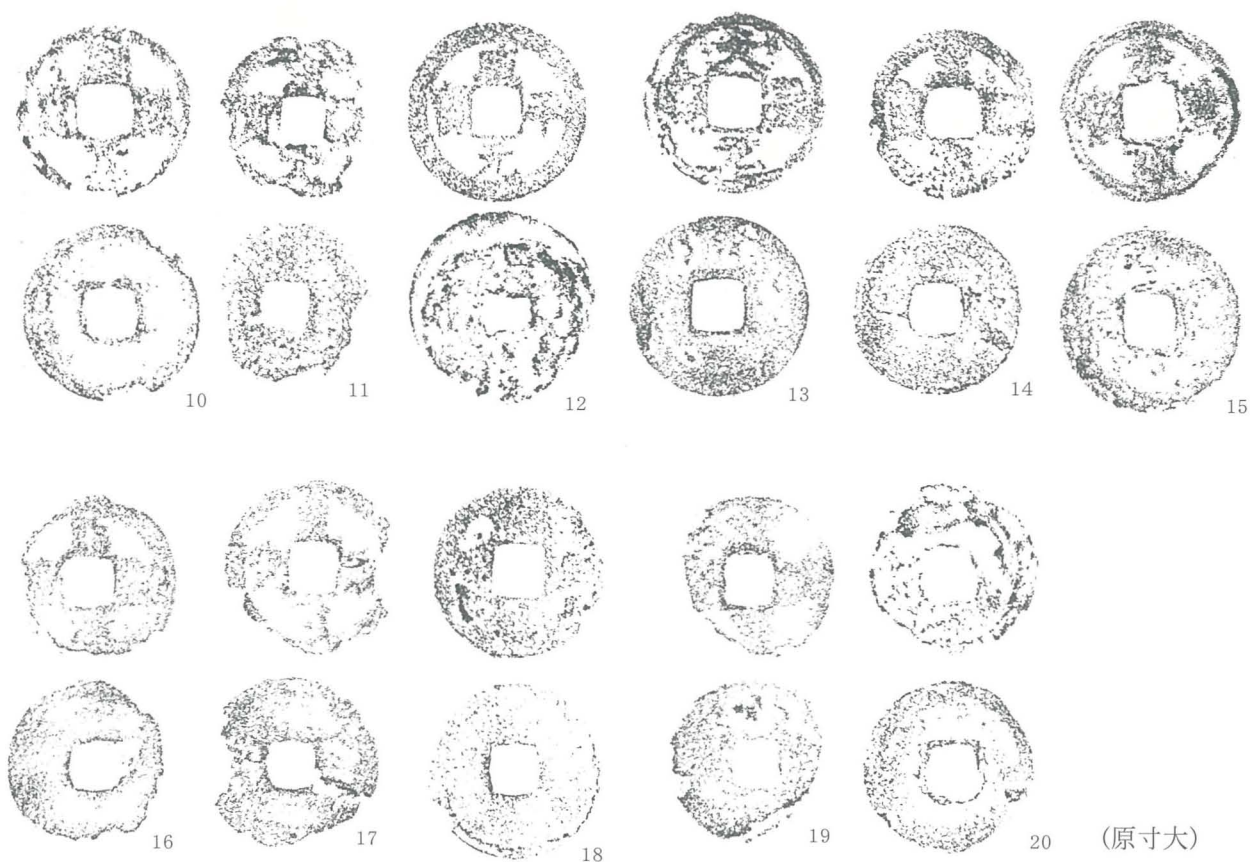
火山灰範囲



○ 銭



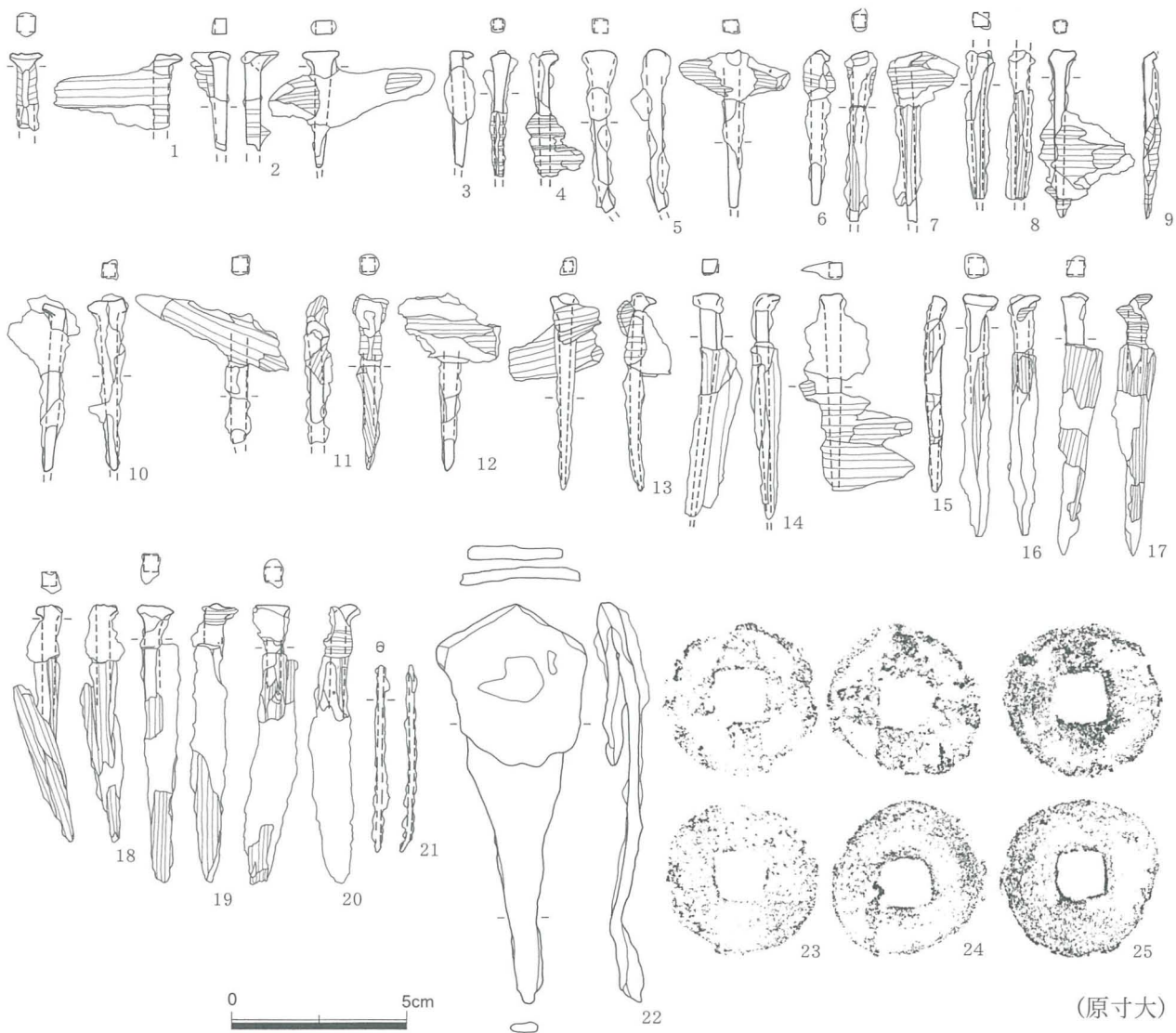
第11図 第133号墓 平面図他、出土遺物



第12図 第133号墓 出土遺物

表10 第133号墓土層観察表

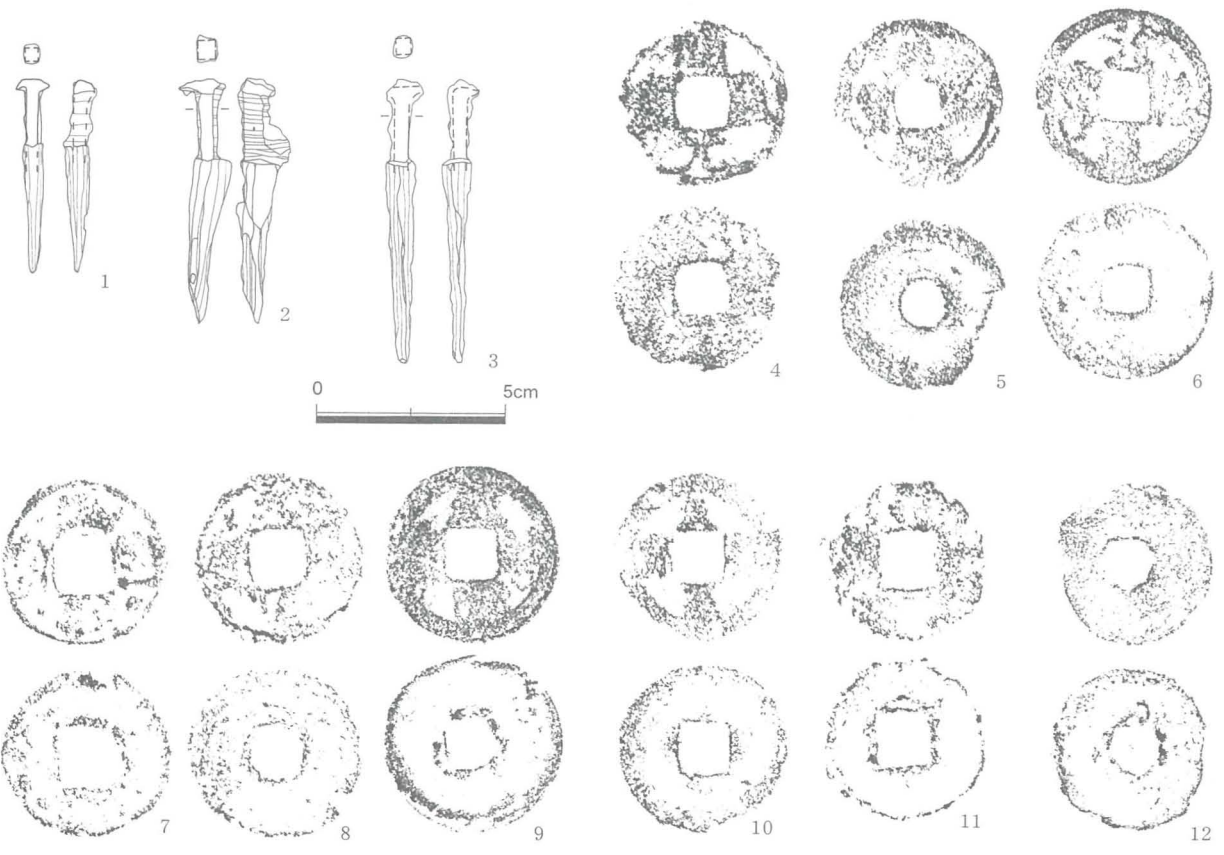
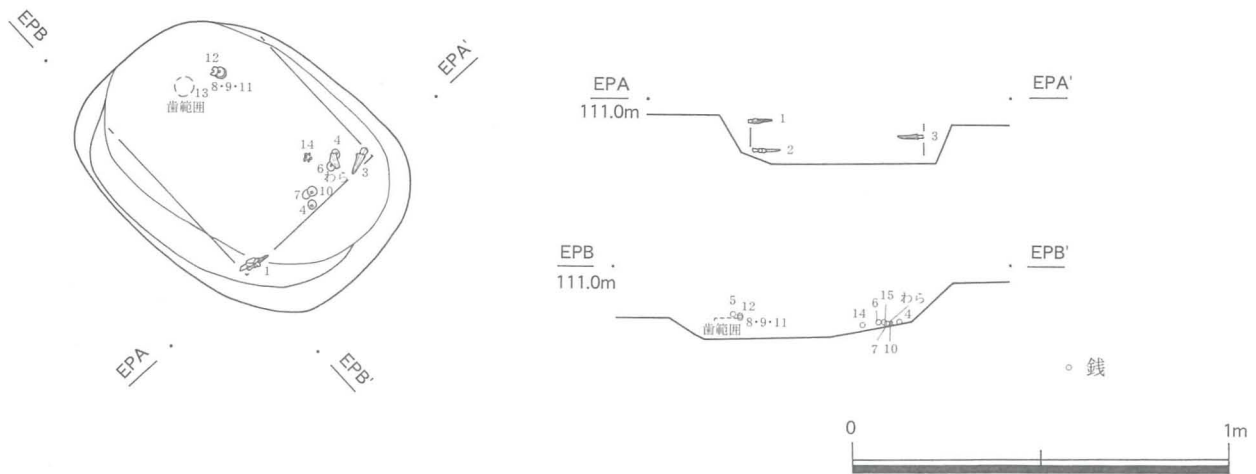
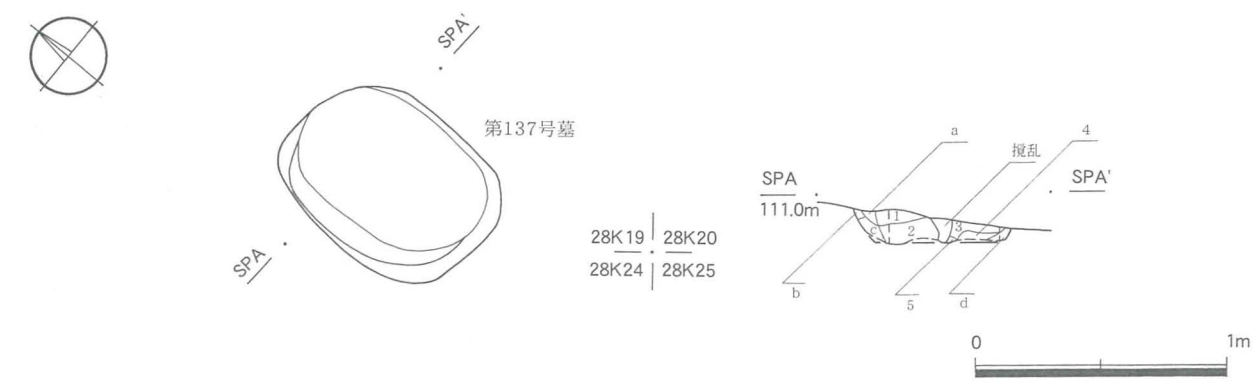
棺外覆土	1	10YR5/4	にぶい黄褐色		ハード	炭粒微量
	2	10YR4/4	褐色	ロームブロック少量	ややハード	
	3	10YR4/4	褐色	玉砂利微量	ハード	炭粒微量
	4	10YR3/4	暗褐色	ロームブロック少量	ややハード	
	5	10YR3/4	暗褐色		ややソフト	
	6	10YR3/4	暗褐色	ロームブロック少量	ややソフト	
	7	10YR3/4	暗褐色	ロームブロック微量	ややハード	
	8					
	9	10YR4/3	にぶい黄褐色	ロームブロック多量	ややハード	
	10	10YR3/3	暗褐色	ロームブロック中量	ややハード	
	11	10YR4/4	褐色	ロームブロック多量	ハード	
	12	10YR3/4	暗褐色	Ko-d 層状に少量 ロームブロック微量	ややハード	
盛土 (棺内崩落土)	a	10YR4/6	褐色	ハードローム	ハード 密	
	b	10YR4/6	褐色	ハードローム	ハード 密	
	c	10YR3/4	暗褐色	ハードローム	ハード 密	
	d	10YR4/6	褐色	ハードローム	ハード 密	
	e	10YR4/4	褐色	玉石3cm 大1個 ハードローム	ハード 密	
	f	10YR4/4・4/6	褐色	ハードローム	ハード 密	
	g	10YR3/4	暗褐色	ハードローム	ハード 密	



第14図 第134号墓 出土遺物

表11 第134号墓土層観察表

盛土	あ	10YR2/3	黒褐色	Ko-d 少量	シルト ややソフト やや粗	炭粒微量
	い	10YR3/4	暗褐色			
	う	10YR3/3	暗褐色	ソフトローム微量	シルト ややソフト やや粗	
	え	10YR2/3	黒褐色	10YR4/6 褐色ソフトローム少量	シルト ややソフト やや粗	
	お	10YR4/3	にぶい黄褐色	ソフトローム少量	シルト ややソフト やや粗	
	か	10YR2/2	黒褐色		シルト ややソフト やや粗	
	き	10YR3/4	暗褐色	ソフトローム微量	シルト ややソフト やや粗	
	く	10YR3/3	暗褐色		シルト ややソフト やや粗	
	け	10YR3/2	黒褐色	Ko-d 微量	シルト ややソフト やや粗	
	こ	10YR3/3	暗褐色	ソフトローム微量	シルト ややソフト やや粗	
さ	10YR3/4	暗褐色	シルト ややソフト やや粗			
棺外覆土	a	10YR3/3	暗褐色	ローム粒少量	ややソフト	炭粒微量
	b	10YR3/3	暗褐色	ロームブロック微量	ややソフト	
	c	10YR2/3	黒褐色	ロームブロック少量	ややハード	
	d	10YR2/3	黒褐色		ややハード	
	e	10YR2/3	黒褐色	ロームブロック微量	ややソフト	
	f	10YR3/2	黒褐色	ロームブロック微量	ややソフト	
	g	10YR3/2	黒褐色	ロームブロック少量	ややソフト	
	h	10YR3/2	黒褐色		ややハード	
	i	10YR2/3	黒褐色	ロームブロック少量	ややソフト	
	j	10YR2/3	黒褐色		ややソフト	
盛土 (棺内崩落土)	1	10YR3/4	暗褐色	ソフトローム微量 1cm 大礫 1個	シルト ややソフト やや粗	
	2	10YR3/3	暗褐色	Ko-d 少量	シルト ややソフト やや粗	
	3	10YR3/4	暗褐色		シルト ややソフト やや粗	
	4	10YR4/3	にぶい黄褐色	Ko-d 微量	シルト ややソフト やや粗	
	5	10YR4/3	にぶい黄褐色		シルト ややソフト やや粗	
	6	10YR3/4	暗褐色	2cm 大ソフトローム 1個含む	シルト ややソフト やや粗	
	7	10YR4/3・4/4	にぶい黄褐・褐色		シルト ややソフト やや粗	
	8	10YR3/4	暗褐色		シルト ややソフト やや粗	
	9	10YR3/4	暗褐色		ややソフト やや粗	



(原寸大)

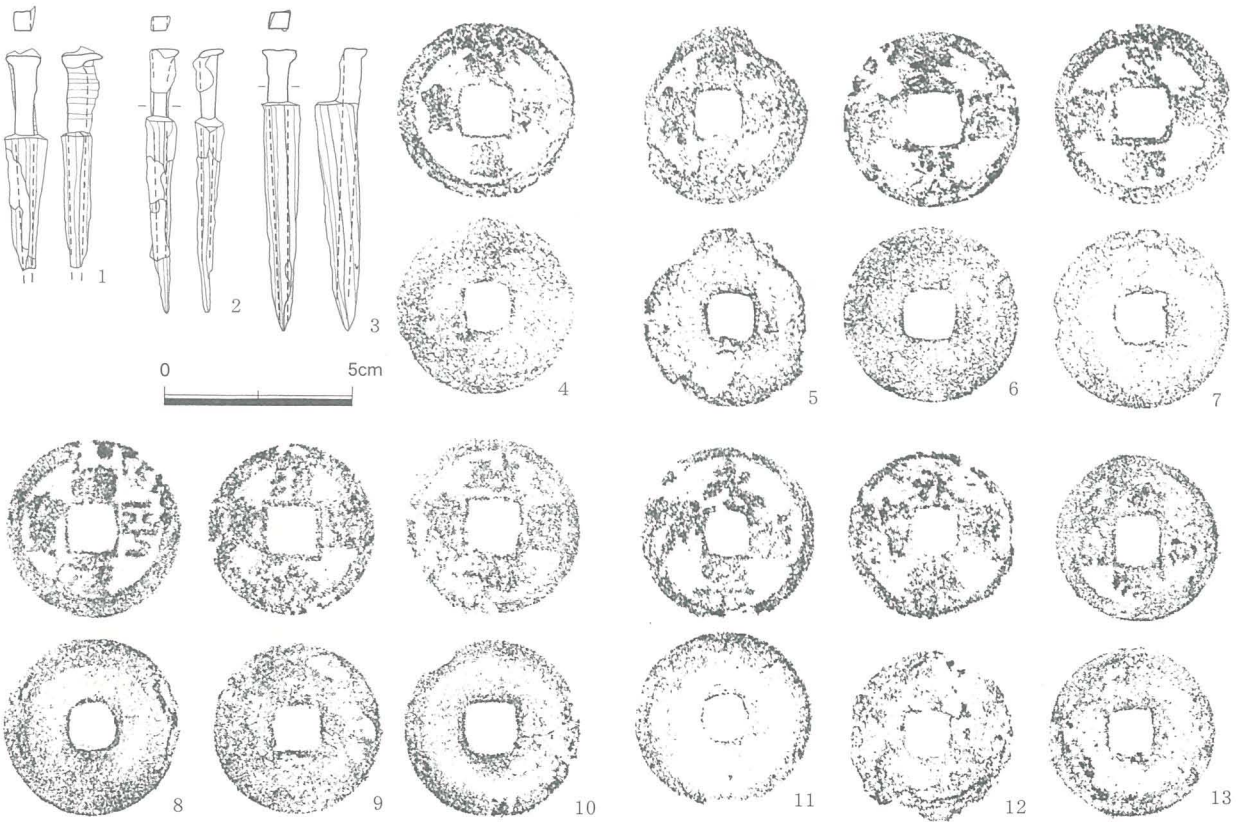
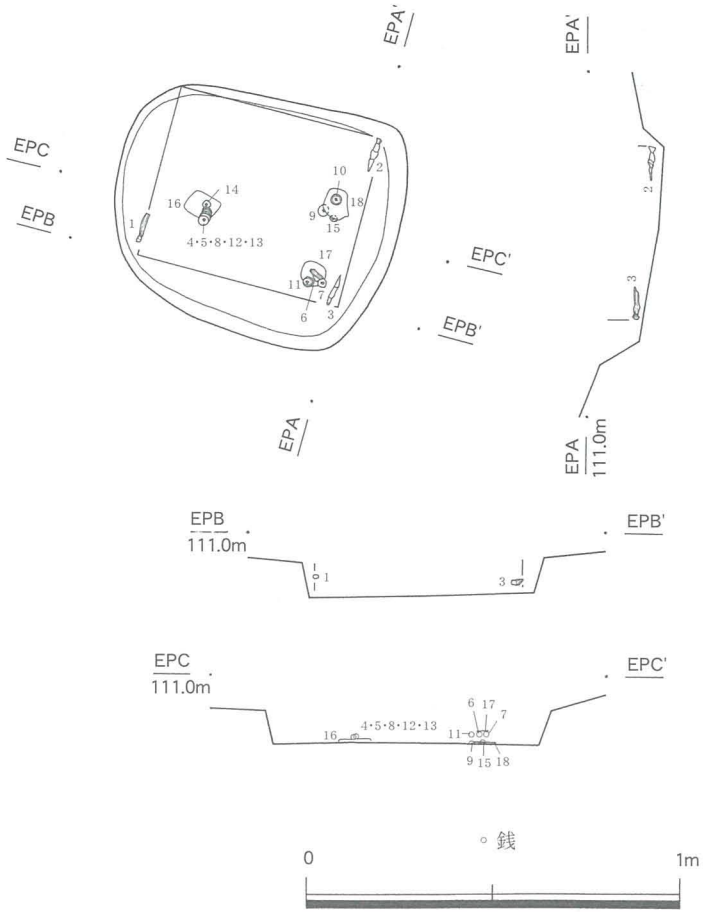
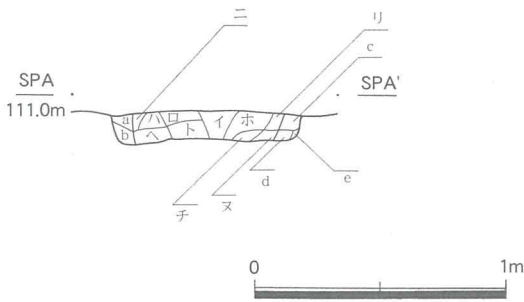
第15図 第137号墓 平面図他、出土遺物



28K19 | 28K20
28K24 | 28K25

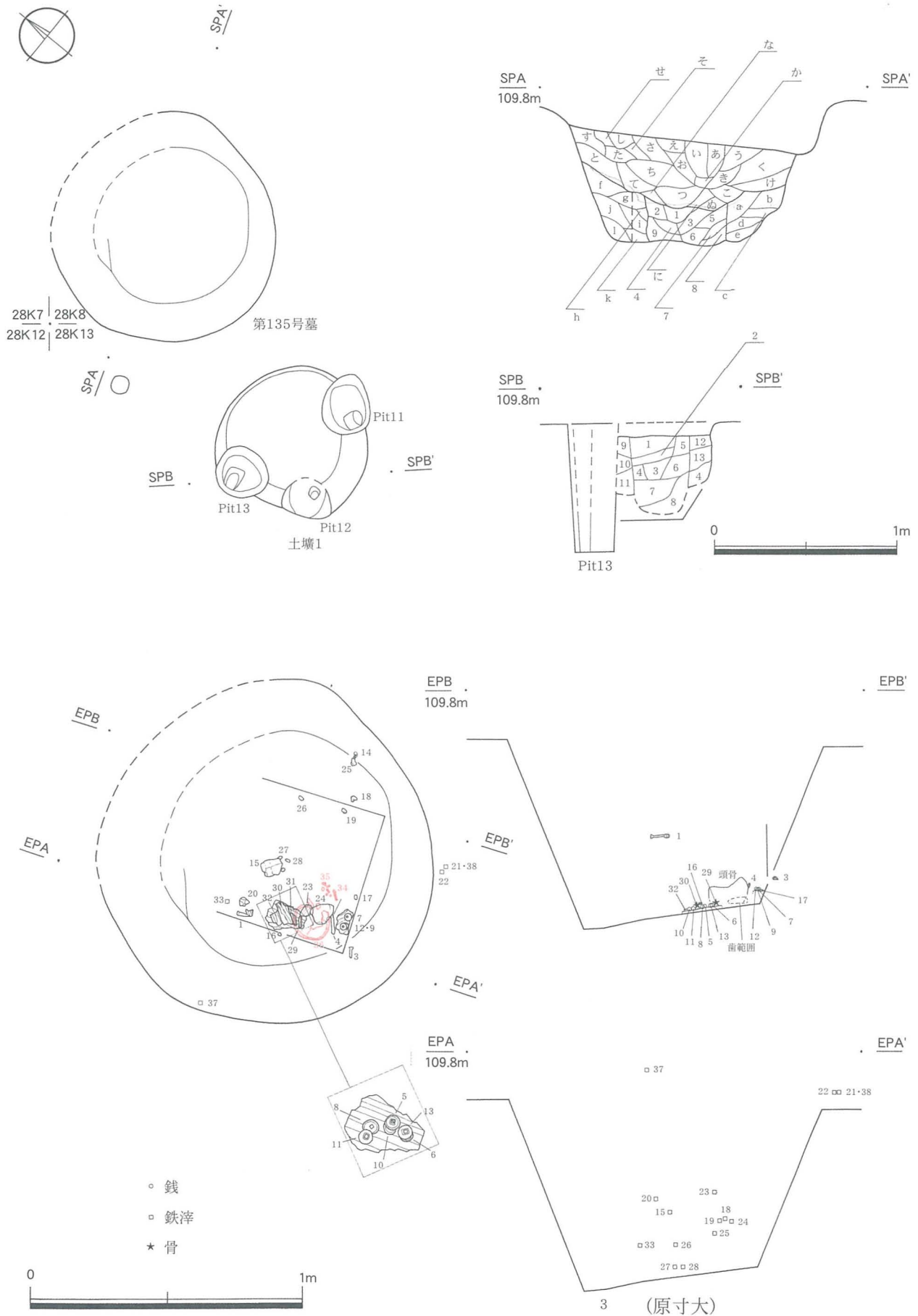


第138号墓

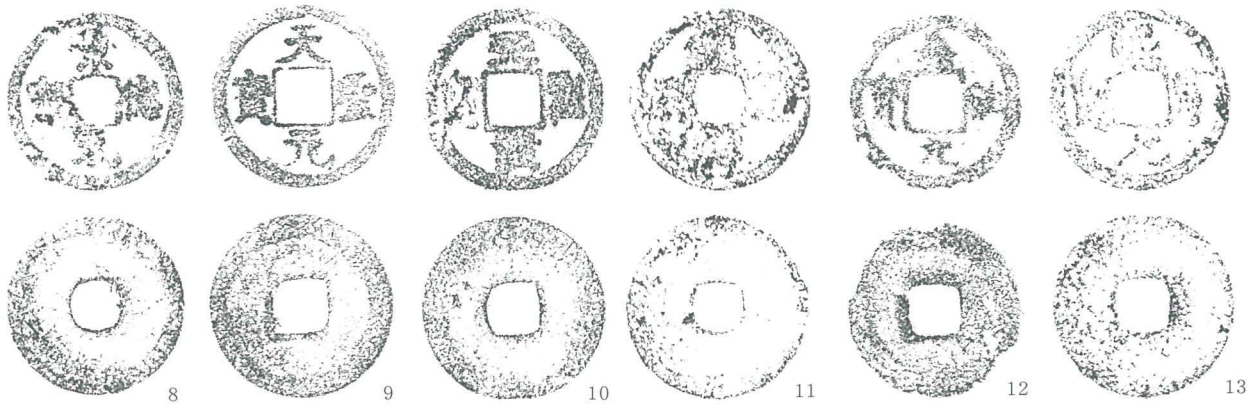
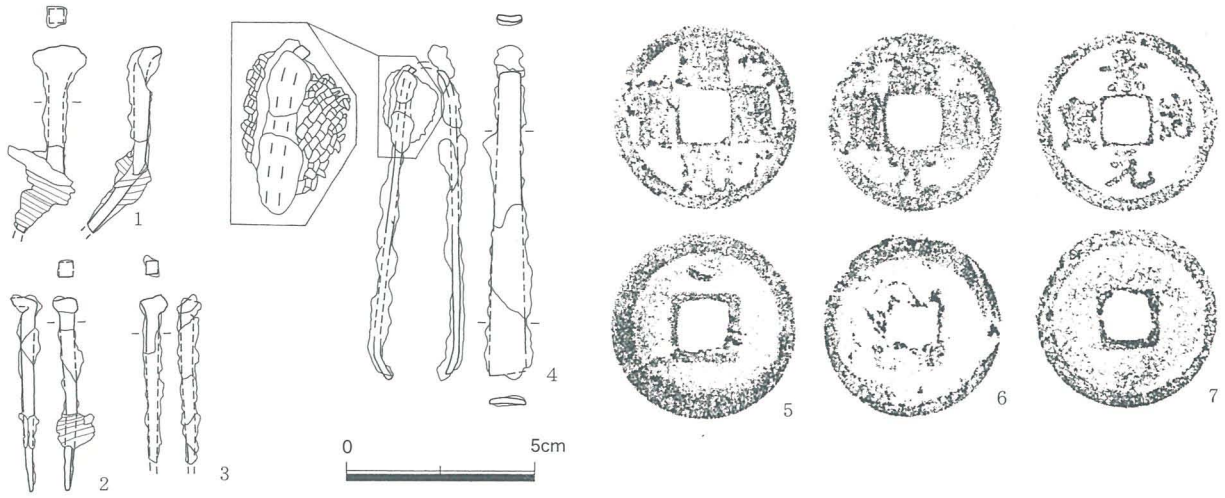


(原寸大)

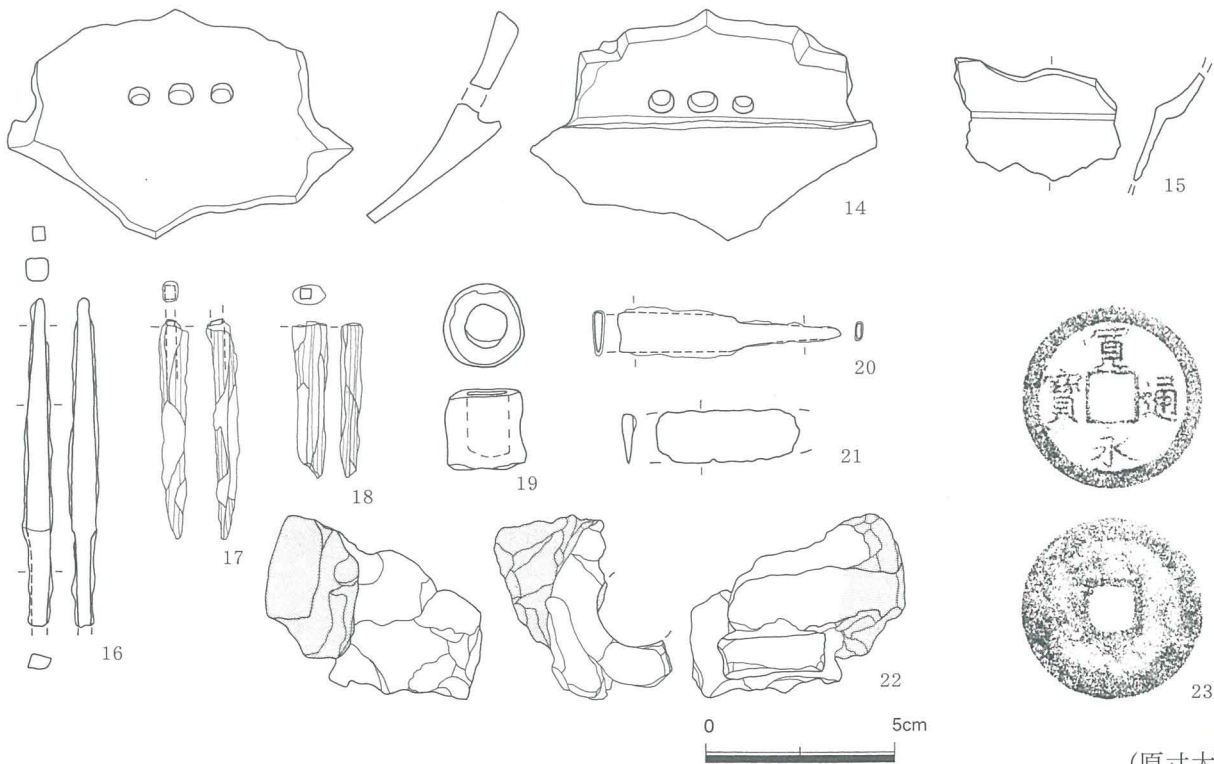
第16図 第138号墓 平面図他、出土遺物



第17図 第135号墓・土壙1 平面図、遺物分布図



(原寸大)



(原寸大)

第18図 第135号墓他 出土遺物

③トレンチ3 (第19図、P L18-6~7)

〔位置〕トレンチ1西側、標高約116mの28K20、29K1・6・7、29L5グリッドに位置する。夷王山墳墓群第Ⅱ地区と勝山館跡を結ぶ道路跡を検出するために設定した。

道路跡は、昭和58年度の発掘調査で、幅約1mの道路と思われる堆積を確認した。構築年代は、火山灰や遺物が出土しなかったことから不明である。本調査では、その道路跡に続く想定される場所に設定し調査を行った。

〔検出遺構〕109・145・146号墓、Pit1を検出した。

〔出土遺物〕瀬戸美濃灰釉丸碗2点・端反皿2点、越前播鉢3点、かわらけ1点が出土している。

109号墓 (第19図)

〔位置〕トレンチ北側の28L25・29L5グリッドに位置し、昭和57年度に調査された墓である。

今回の調査では、盛土と思われるプランを一部調査したのみである。

〔形態・規模〕盛土は、セクション面で直径70cm、厚さ14cmを測る。

昭和57年度の調査報告書では、「ほぼ円形を呈する直径約2.6~2.8mのマウンドを形成し、周囲との比高差は10~50cmを測る。」との記述がある(夷王山墳墓群1984)。

〔堆積土〕盛土は、1層に分層される(SPI~SPI")。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕今回の調査では遺物は出土しなかったが、昭和57年度の調査では焼骨74.5gが出土している。

145号墓 (第19図)

〔位置〕トレンチ南側の29K6・7グリッドに位置し、今回の発掘調査で新たに発見された墓である。堆積土から墓の盛土と判断し、145号墓と新規の墓番号を付した。

盛土と思われるプランを一部調査したのみで未完掘である。

〔形態・規模〕盛土は、セクション面で直径46cm、厚さ16cmを測る。

〔堆積土〕盛土は、1層に分層される(SPI~SPI")。

〔新旧関係〕Pit1より古い。

〔出土遺物〕なし

146号墓 (第19図)

〔位置〕トレンチ南西側の29K6グリッドに位置し、今回の発掘調査で新たに発見された墓である。

盛土と思われるプランを確認したのみで未完掘である。

〔形態・規模〕盛土は、セクション面で直径180cm、厚さ36cmを測る。

〔堆積土〕盛土は、7層に分層される(SPI'~SPI")。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕盛土から白磁端反皿1点が出土している。

④トレンチ4~8 (第19図、P L18-8・19-1~5)

〔位置〕華ノ沢西側斜面、標高約106~110mの27I6・7・11・12グリッドに位置する。

寺ノ沢用水跡や華ノ沢倉庫群を囲う壕を検出するために設定したトレンチである。

〔堆積土〕トレンチ4は、20層(SPJ~SPJ')に分層される。Ⅲ層としたものは、華ノ沢倉庫群へ行く通路面ではないかと想定した。

〔検出遺構〕なし

〔出土遺物〕トレンチ4のI層から染付皿1点、青磁皿1点が出土している。

2. 出土遺物

本調査で、1200点余りの遺物が出土している。実測・写真等の報告書掲載遺物に関しては、観察表を付した(表14~16)。

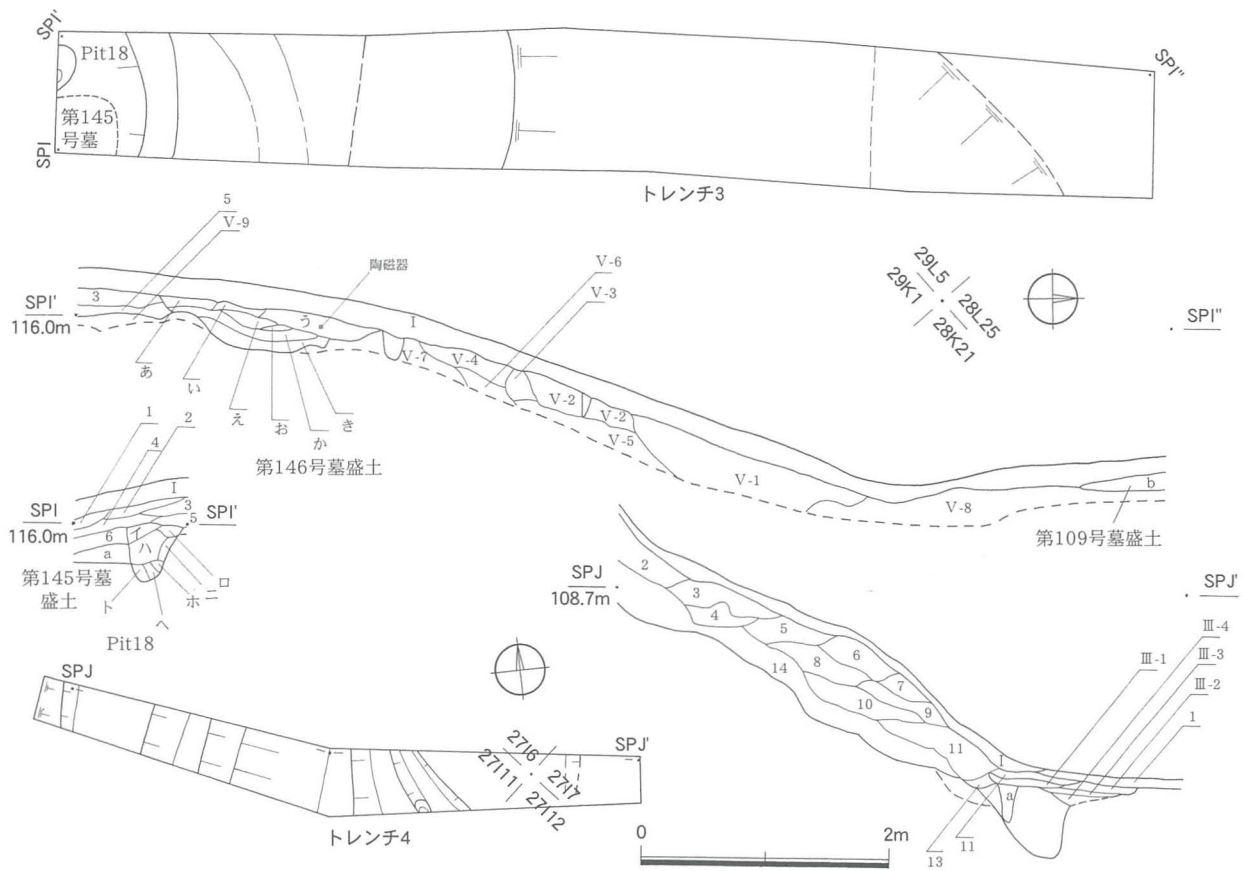
a. 陶磁器 (20・21図、P L21・22-1~19)

陶磁器は、総破片数404点で、個体数にして11.08個体(口縁部計測法)である。貿易陶磁は、青磁・白磁・染付・赤絵で構成され、全体の37.4%(破片数)を占める。国産陶磁には、瀬戸美濃・越前で構成され、全体の62.1%(破片数)を占めている。

全体として、国産陶磁が貿易陶磁よりも多くの比率を占め、瀬戸製品の破片数比率が全体の6割近くを占め、その量の多さを窺うことができる。

青磁 (20図-1~9、P L21-1~20)

碗と皿がほぼ同じ比率で出土している。碗は、線描蓮弁直縁碗B-IV類、無文直縁碗E類、端反無文碗D-II類が出土している。見込みに印花を施すものや無文のものが見られる。また高台裏は、



第19図 トレンチ3・4 平面図他

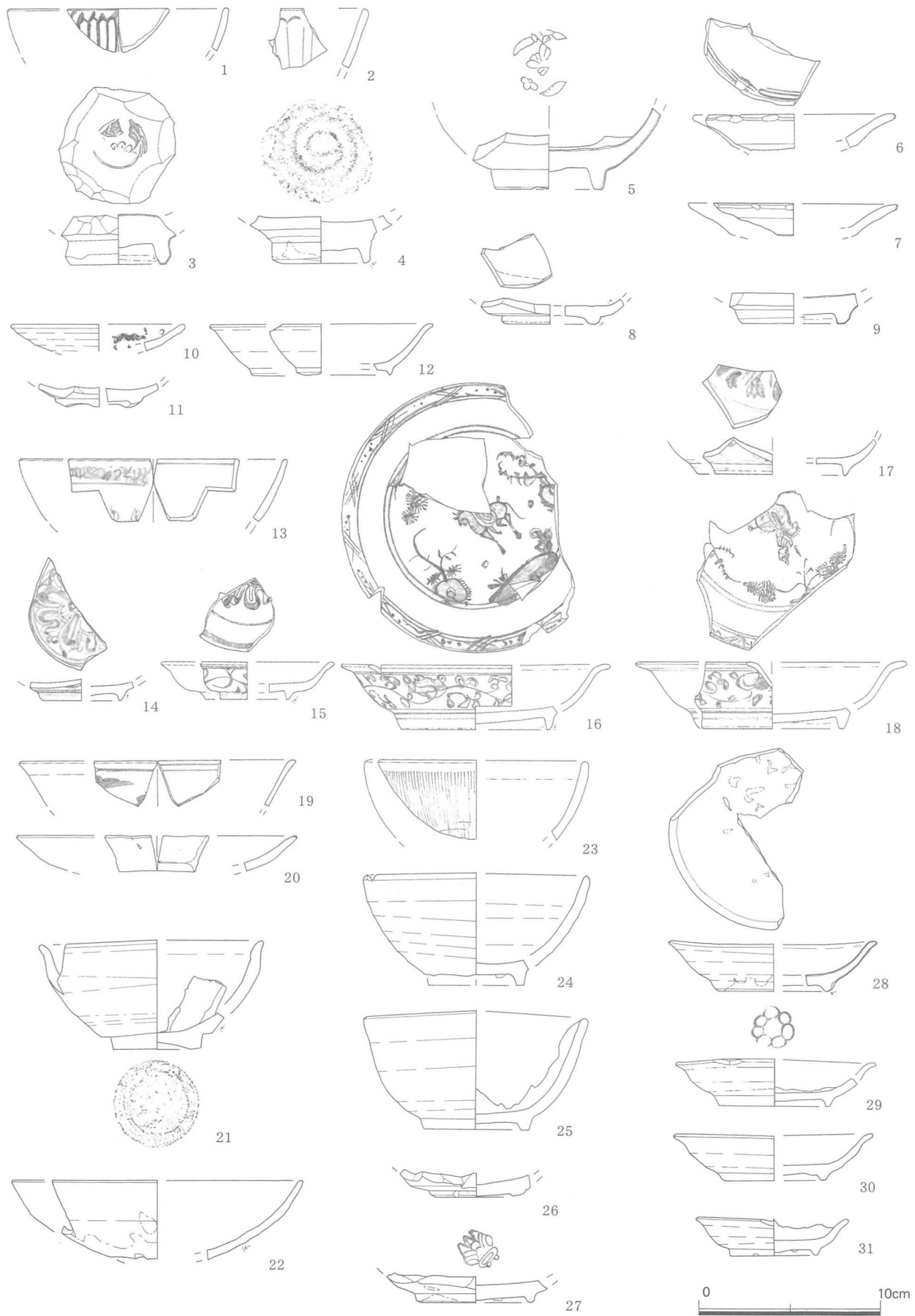
表12 トレンチ3南北セクション西壁土層観察表 (I~I'~I'')

層	土層番号	色	構成	特徴	土質	備考
I-1	10YR2/3	黒褐色				
III-1	10YR4/3・3/3	にぶい黄褐・暗褐色	礫粒 小礫	ややソフト	焼土粒微量	
	10YR4/3・3/3	にぶい黄褐・暗褐色	礫粒 小礫	ややソフト	焼土粒微量	
	10YR3/3	暗褐色	礫粒 小礫	(1)よりやや粗	焼土粒微量	
	10YR3/3	暗褐色	礫粒 (1)より小礫多量	ややハード		
	10YR3/3	暗褐色	礫粒少量	(3)よりソフト	焼土粒・炭化物微量	
III-6	10YR3/3	暗褐色	礫粒 小礫	やや密	炭化物微量	
V-1			全面茶色礫層			
V-2	10YR4/4	褐色	礫粒 (3)より小礫多量	粗		
V-3	10YR4/4	褐色	礫粒 小礫多量	粗		
V-4	10YR5/6	黄褐色	全面ローム 礫粒混入	ハード		
V-5			全面薄茶色礫層	粗		
V-6	10YR5/6	黄褐色	礫粒 中礫多量	ハード		
V-7	10YR4/6	褐色	粘土少量混入			
V-8			礫粒 小礫多量	ややハード		
V-9	10YR4/6	褐色	全面青緑礫層			
145号墓盛土	a	10YR3/2	黒褐色土主体 礫粒・砂粒少量	やや密	焼土粒少量	
146号墓盛土	あ	10YR4/4	褐色	ロームブロック 礫粒少量 1~2cm大礫混入		
	い	10YR3/3	暗褐色	礫粒少量	ややソフト	
	う	10YR4/3・4/4	にぶい黄褐・褐色	礫粒多量 小礫少量		
	え	10YR3/3・2/3	暗褐・黒褐色	ローム粒 礫粒微量	ソフト	
	お	10YR4/3	にぶい黄褐色	ロームブロック少量	ソフト	
	か	10YR4/4	褐色	ソフトローム 礫粒 小礫・砂粒少量	ソフト	
	き	10YR4/3	にぶい黄褐色	ソフトローム 礫粒・小礫少量	ソフト	

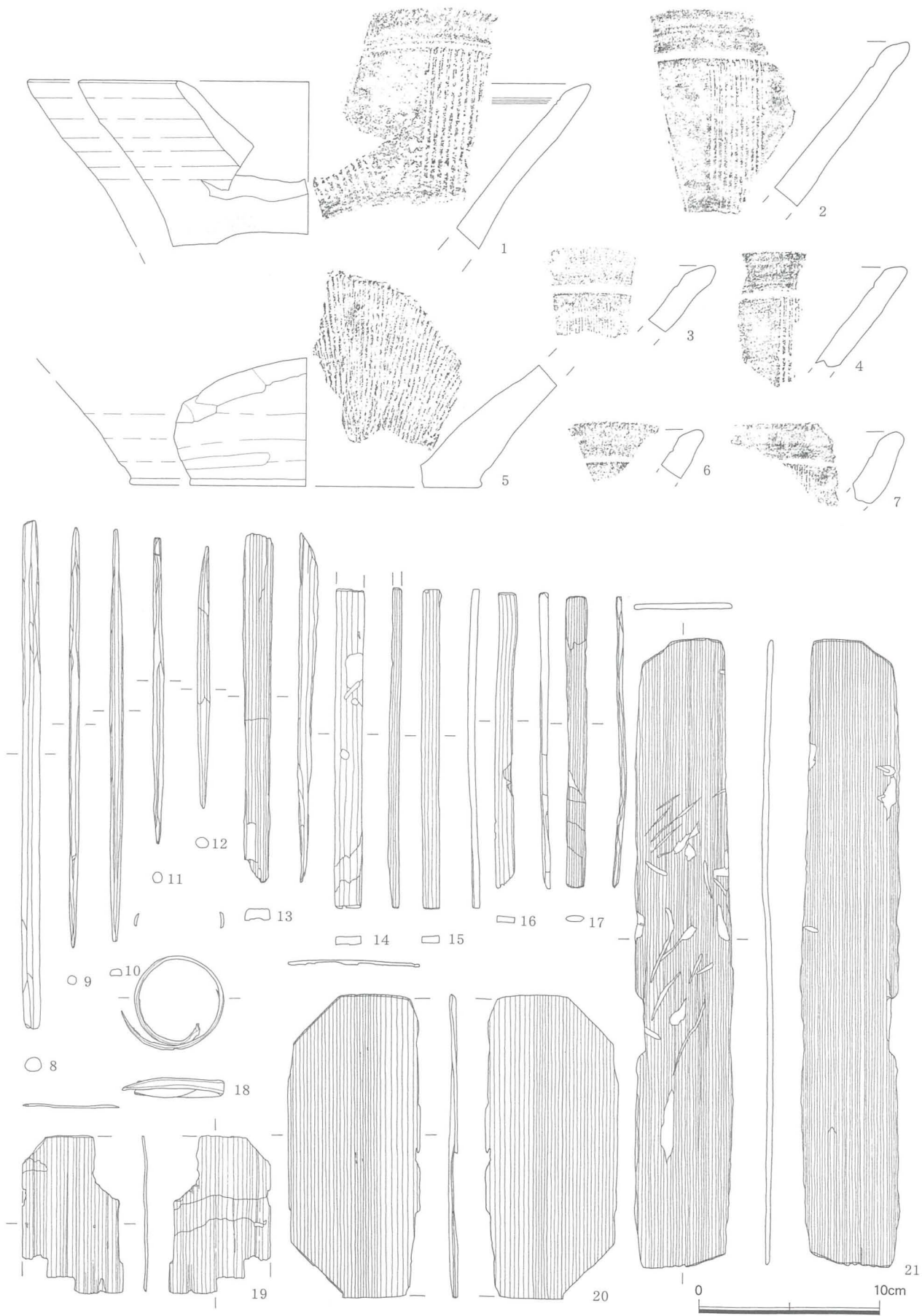
層	土層番号	色	構成	特徴	土質	備考
109号墓盛土	b	10YR3/4	暗褐色	礫粒 小礫	やや粗	
Pit18	イ	10YR3/3	暗褐色	礫粒	(III-5)よりソフト	焼土粒・炭化物微量
	ロ	10YR3/4	暗褐色	礫粒少量		
ハ	10YR3/3	暗褐色	礫粒	粗 ソフト	焼土粒・炭化物微量	
ニ	10YR3/4	暗褐色	礫粒・小礫少量		粗	
ホ	10YR3/3	暗褐色	礫粒少量		(ハ)より少し粘性有り	
ヘ	10YR3/3	暗褐色	礫粒やや多量		ソフト	
ト	10YR3/4	暗褐色	礫粒・小礫少量		粗 ソフト	

表13 トレンチ4東西セクション北壁土層観察表 (J~J'~J'')

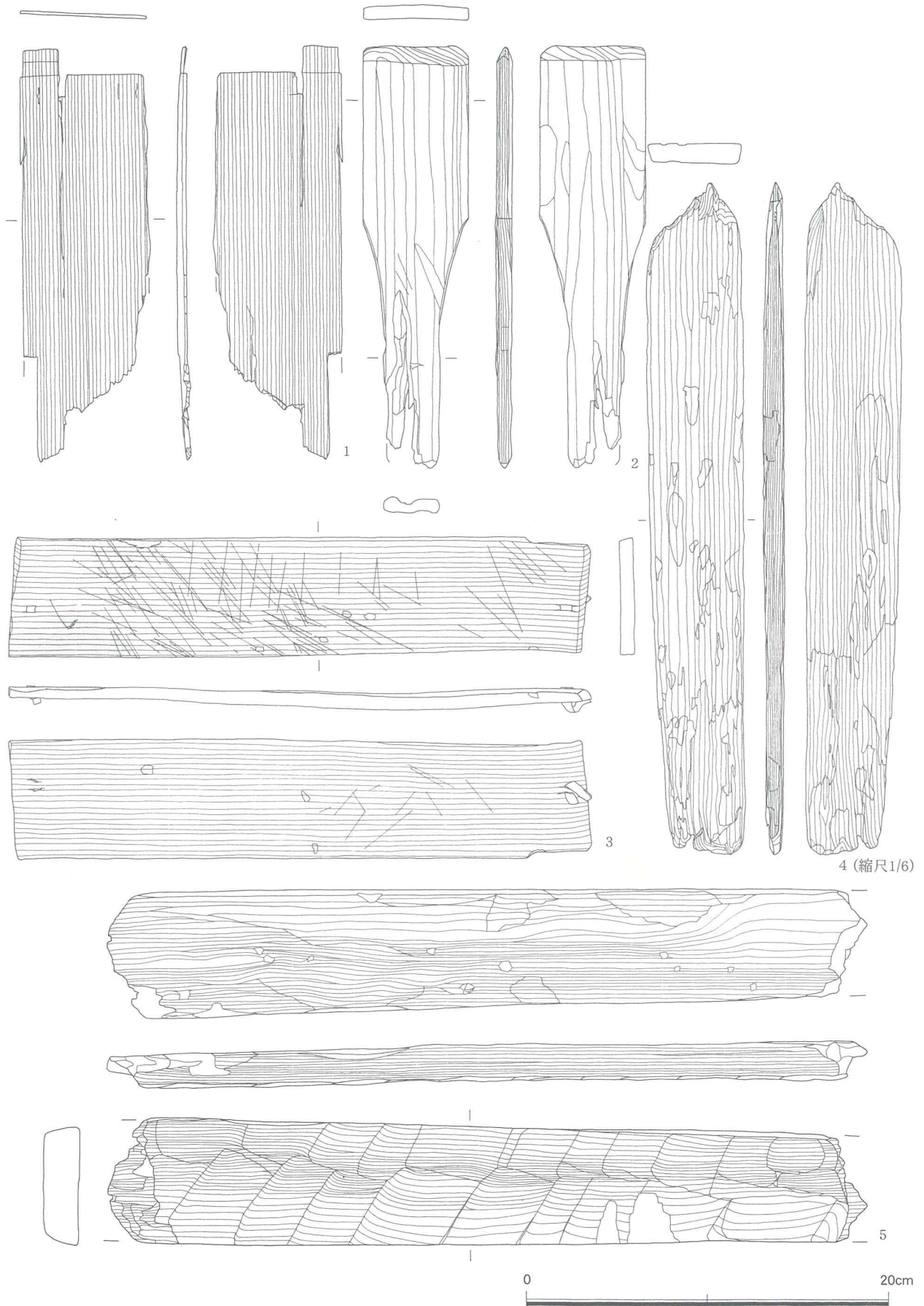
層	土層番号	色	構成	特徴	土質	備考
I-1	10YR2/2	黒褐色				
II-1	10YR3/3	暗褐色			粘質土	
II-2	10YR3/3	暗褐色			ハード 粘質土	
II-3	10YR3/3	暗褐色			ややハード 粘質土	
II-4	10YR2/2	黒褐色			ややソフト 粘質土	
II-5	10YR2/2	黒褐色			ややハード 粘質土	
II-6	10YR3/3	暗褐色			ややソフト 粘質土	
II-7	10YR3/4	暗褐色			ややソフト 粘質土	
II-8	10YR3/3	暗褐色			ややソフト 粘質土	
II-9	10YR3/4	暗褐色			ややソフト 粘質土	
II-10	10YR3/4	暗褐色			ややソフト 粘質土	
II-11	10YR3/3	暗褐色			ややハード 粘質土	
II-12	10YR3/3	暗褐色			粘質土	
II-13	10YR3/3	暗褐色			粘質土	
II-14	10YR3/3	暗褐色			ややハード 粘質土	
III-1	10YR2/2	黒褐色			礫粒少量	ややソフト
III-2	10YR2/2	黒褐色			礫粒少量	ややハード
III-3	10YR4/4	褐色			礫粒少量	ややソフト
III-4	10YR3/3	暗褐色				ややソフト
小Pit	a	10YR3/3	暗褐色			ややソフト



第20図 調査区出土遺物 1 (陶磁器)



第21図 調査区出土遺物 2 (陶磁器・木製品)



第22図 調査区出土遺物 3 (木製品)

表14 出土遺物観察表

図版No.	PL No.	グリット	遺構	層位	種類	器種	備考	整理No.
10 図-1	PL24-1	28K24	132号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(1.95)×幅0.45×厚さ0.4cm、重量3.4g	778(底面)
10 図-2	PL24-2	28K24	132号墓	覆土上面	鉄製品	釘	長さ(3.25)×幅0.5×厚さ0.3cm、重量4.8g	788(上面)
10 図-3	PL25-1	28K24	132号墓	棺内底面	銅製品	銭	至道元寶 外径2.39×内径不明×厚さ0.16cm、重量0.6g	785
11 図-1	PL24-3	28K23	133号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(2.1)×幅0.35×厚さ0.35cm、重量1.4g	789
11 図-2	PL24-4	28K18	133号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ4.5×幅0.45×厚さ0.45cm、重量3.4g	738
11 図-3	PL24-5	28K23	133号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(4.5)×幅0.3×厚さ0.3cm、重量4.3g	901
11 図-4	PL24-6	28K23	133号墓	覆土上面	鉄製品	釘	長さ(4.9)×幅0.3×厚さ0.3cm、重量6.7g、板の厚さ2.3cm	797
11 図-5	PL24-7	28K23	133号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(5.85)×幅0.4×厚さ0.4cm、重量3.4g、板の厚さ2.0cm	851
11 図-6	PL24-8	28K23	133号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(6.45)×幅0.45×厚さ0.45cm、重量5.4g、板の厚さ1.6cm	791・792
11 図-7	PL24-9	28K18	133号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(7.4)×幅0.4×厚さ0.35cm、重量6.0g	850
11 図-8	PL24-10	28K23	133号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(7.2)×幅0.5×厚さ0.5cm、重量7.4g、板の厚さ1.7cm	852
11 図-9	PL24-11	28K23	133号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(7.5)×幅0.5×厚さ0.45cm、重量6.7g	849
12 図-10	PL25-2	28K23	133号墓	棺内底面	銅製品	銭	開元通寶 外径2.44×内径2.00×厚さ0.17cm、重量1.8g	879
12 図-11	PL25-3	28K23	133号墓	棺内底面	銅製品	銭	宋通元寶 外径2.24×内径1.72×厚さ0.18cm、重量1.3g	885
12 図-12	PL25-4	28K23	133号墓	棺内底面	銅製品	銭	咸平元寶 外径2.50×内径1.86×厚さ0.18cm、重量3.8g	881
12 図-13	PL25-5	28K23	133号墓	棺内底面	銅製品	銭	天聖元寶 外径2.53×内径1.98×厚さ0.16cm、重量2.2g	884
12 図-14	PL25-6	28K23	133号墓	棺内底面	銅製品	銭	皇宋通寶 外径2.40×内径1.90×厚さ0.14cm、重量1.6g	1040
12 図-15	PL25-7	28K23	133号墓	棺内底面	銅製品	銭	元豊通寶 外径2.57×内径2.02×厚さ0.17cm、重量2.4g	1081
12 図-16	PL25-8	28K23	133号墓	棺内底面	銅製品	銭	紹聖元寶 外径2.29×内径1.94×厚さ0.18cm、重量1.9g	876
12 図-17	PL25-9	28K23	133号墓	棺内底面	銅製品	銭	聖宋元寶 外径2.47×内径1.90×厚さ0.20cm、重量2.1g	875
12 図-18	PL25-10	28K23	133号墓	棺内底面	銅製品	銭	判読不明 外径2.47×内径1.88×厚さ0.18cm、重量2.5g	886
12 図-19	PL25-11	28K23	133号墓	棺内底面	銅製品	銭	判読不明 外径2.38×内径不明×厚さ0.15cm、重量2.0g	878
12 図-20	PL25-12	28K23	133号墓	棺内底面	銅製品	銭	判読不明 外径2.44×内径不明×厚さ0.16cm、重量2.1g	1082
14 図-1	PL24-12	28K18	134号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(2.2)×幅0.5×厚さ0.45cm、重量2.0g	870
14 図-2	PL24-13	28K18	134号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(2.8)×幅0.35×厚さ0.4cm、重量1.1g	863
14 図-3	PL24-14	28K18	134号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(3.3)×幅0.4×厚さ0.4cm、重量4.3g	860
14 図-4	PL24-15	28K18	134号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(3.6)×幅0.25×厚さ0.3cm、重量1.6g	869
14 図-5	PL24-16	28K18	134号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(4.6)×幅0.35×厚さ0.35cm、重量3.4g	904
14 図-6	PL24-17	28K18	134号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(4.4)×幅0.35×厚さ0.35cm、重量3.4g	858・859
14 図-7	PL24-18	28K18	134号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(4.8)×幅0.35×厚さ0.35cm、重量3.4g、板の厚さ1.6cm	906
14 図-8	PL24-19	28K18	134号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(4.2)×幅0.4×厚さ0.4cm、重量2.1g	900
14 図-9	PL24-20	28K18	134号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ3.8×幅0.3×厚さ0.3cm、重量2.1g	861・862
14 図-10	PL24-21	28K18	134号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(5.0)×幅0.35×厚さ0.35cm、重量4.0g	908
14 図-11	PL24-22	28K18	134号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(3.7)×幅0.45×厚さ0.4cm、重量3.9g	866
14 図-12	PL24-23	28K18	134号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(4.95)×幅0.35×厚さ0.4cm、重量1.95g	903
14 図-13	PL24-24	28K18	134号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ5.6×幅0.25×厚さ0.3cm、重量3.5g	864
14 図-14	PL24-25	28K18	134号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(6.35)×幅(0.4)×厚さ(0.4)×重量4.3g	902
14 図-15	PL24-26	28K18	134号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(5.6)×幅0.4×厚さ0.4cm、重量3.8g	868
14 図-16	PL24-27	28K18	134号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(6.9)×幅0.4×厚さ0.45cm、重量5.4g	905
14 図-17	PL24-28	28K18	134号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(7.4)×幅0.5×厚さ0.4cm、重量4.3g、板の厚さ1.45cm	907
14 図-18	PL24-29	28K18	134号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(6.75)×幅0.4×厚さ0.4cm、重量4.6g	910
14 図-19	PL24-30	28K18	134号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(7.9)×幅0.4×厚さ0.45cm、重量5.4g、板の厚さ1.2cm	867
14 図-20	PL24-31	28K18	134号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(7.9)×幅0.45×厚さ0.4cm、重量7.6g、板の厚さ1.5cm	909
14 図-21	PL24-43	28K18	134号墓	棺内覆土	鉄製品	縫針	長さ5.3×幅0.15×厚さ0.15cm、重量0.7g	873
14 図-22	PL24-44	28K18	134号墓	棺内覆土	鉄製品	不明	長さ11.4×幅0.4×厚さ0.35cm、重量30.1g	872・1168
14 図-23	PL25-13	28K18	134号墓	棺内底面	銅製品	銭	元祐通寶 外径2.31×内径1.88×厚さ0.16cm、重量1.9g	1056
14 図-24	PL25-14	28K18	134号墓	棺内底面	銅製品	銭	判読不明 外径2.36×内径1.98×厚さ0.16cm、重量1.2g	1058
14 図-25	PL25-15	28K18	134号墓	棺内底面	銅製品	銭	判読不明 外径2.46×内径1.90×厚さ0.16cm、重量2.6g	1057
15 図-1	PL24-32	28K24	137号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(5.1)×幅0.35×厚さ0.4cm、重量3.1g、板の厚さ1.7cm	937
15 図-2	PL24-33	28K24	137号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(6.45)×幅0.45×厚さ0.5cm、重量7.0g、板の厚さ2.2cm	951
15 図-3	PL24-34	28K24	137号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(7.45)×幅0.4×厚さ0.4cm、重量3.1g	952
15 図-4	PL25-16	28K24	137号墓	棺内底面	銅製品	銭	開元通寶 外径2.34×内径1.86×厚さ0.17cm、重量1.4g	950
15 図-5	PL25-17	28K24	137号墓	棺内底面	銅製品	銭	祥符通寶 外径2.44×内径1.88×厚さ0.16cm、重量1.8g	944
15 図-6	PL25-18	28K24	137号墓	棺内底面	銅製品	銭	天禧通寶 外径2.46×内径1.92×厚さ0.19cm、重量2.2g	947
15 図-7	PL25-19	28K24	137号墓	棺内底面	銅製品	銭	天聖元寶 外径2.30×内径1.98×厚さ0.14cm、重量1.4g	1044
15 図-8	PL25-20	28K24	137号墓	棺内底面	銅製品	銭	元豊通寶 外径2.42×内径1.96×厚さ0.14cm、重量2.1g	1042
15 図-9	PL25-21	28K24	137号墓	棺内底面	銅製品	銭	元祐通寶 外径2.49×内径1.90×厚さ0.17cm、重量3.3g	1041
15 図-10	PL25-22	28K24	137号墓	棺内底面	銅製品	銭	判読不明 外径2.36×内径1.78×厚さ0.16cm、重量2.2g	949
15 図-11	PL25-23	28K24	137号墓	棺内底面	銅製品	銭	判読不明 外径2.26×内径不明×厚さ0.17cm、重量1.4g	1043
15 図-12	PL25-24	28K24	137号墓	棺内底面	銅製品	銭	判読不明 外径2.22×内径1.86×厚さ0.15cm、重量1.8g	945
16 図-1	PL24-35	28K24	138号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(5.8)×幅0.6×厚さ0.6cm、重量3.8g、板の厚さ2.2cm	938
16 図-2	PL24-36	28K25	138号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(6.9)×幅0.45×厚さ0.4cm、重量3.0g、板の厚さ1.75cm	940
16 図-3	PL24-37	28K25	138号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(7.4)×幅0.55×厚さ0.5cm、重量5.4g	939
16 図-4	PL25-25	28K24	138号墓	棺内底面	銅製品	銭	祥符通寶 外径2.44×内径1.90×厚さ0.18cm、重量3.2g	1050
16 図-5	PL25-26	28K24	138号墓	棺内底面	銅製品	銭	祥符通寶 外径2.44×内径1.89×厚さ0.14cm、重量1.6g	1048
16 図-6	PL25-27	28K25	138号墓	棺内底面	銅製品	銭	天聖元寶 外径2.44×内径1.93×厚さ0.15cm、重量2.3g	1054
16 図-7	PL25-28	28K25	138号墓	棺内底面	銅製品	銭	皇宋通寶 外径2.48×内径1.90×厚さ0.15cm、重量1.7g	942
16 図-8	PL25-29	28K24	138号墓	棺内底面	銅製品	銭	治平元寶 外径2.46×内径1.93×厚さ0.15cm、重量3.1g	1049
16 図-9	PL25-30	28K25	138号墓	棺内底面	銅製品	銭	紹聖元寶 外径2.38×内径1.82×厚さ0.14cm、重量1.3g	1045
16 図-10	PL25-31	28K25	138号墓	棺内底面	銅製品	銭	政和通寶 外径2.41×内径2.80×厚さ0.15cm、重量1.4g	1046
16 図-11	PL25-32	28K25	138号墓	棺内底面	銅製品	銭	永樂通寶 外径2.48×内径2.00×厚さ0.17cm、重量1.4g	1055
16 図-12	PL25-33	28K24	138号墓	棺内底面	銅製品	銭	永樂通寶 外径2.39×内径1.98×厚さ0.10cm、重量1.7g	1051
16 図-13	PL25-34	28K24	138号墓	棺内底面	銅製品	銭	判読不明 外径2.27×内径1.81×厚さ0.14、重量2.3g	1052

表15 出土遺物観察表

図版No.	PL No.	グリット	遺構	層位	種類	器種	備考	整理No.
18 図-1	PL24-38	28K8	135号墓	覆土	鉄製品	釘	長さ(4.9)×幅0.5×厚さ0.4cm、	840
18 図-2	PL24-39	28K3	135号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(5.2)×幅0.4×厚さ0.4cm、	1086
18 図-3	PL24-40	28K8	135号墓	棺外覆土	鉄製品	釘	長さ(4.4)×幅0.4×厚さ0.4cm、	934
18 図-4	PL7-8	28K8	135号墓	棺内底面	鉄製品	毛抜き	長さ8.2×幅0.5~0.9×厚さ0.15cm、重量9.8g	932
18 図-5	PL25-35	28K8	135号墓	棺内底面	銅製品	銭	開元通寶 外径2.56×内径2.14×厚さ0.17cm、重量3.1g	1065
18 図-6	PL25-36	28K8	135号墓	棺内底面	銅製品	銭	開元通寶 外径2.48×内径2.00×厚さ0.16cm、重量3.5g	1068
18 図-7	PL25-37	28K8	135号墓	棺内底面	銅製品	銭	景德元寶 外径2.50×内径2.00×厚さ0.16cm、重量3.1g	925
18 図-8	PL25-38	28K8	135号墓	棺内底面	銅製品	銭	景德元寶 外径2.50×内径2.00×厚さ0.17cm、重量2.8g	1066
18 図-9	PL25-39	28K8	135号墓	棺内底面	銅製品	銭	天聖元寶 外径2.56×内径2.07×厚さ0.14cm、重量3.0g	927
18 図-10	PL25-40	28K8	135号墓	棺内底面	銅製品	銭	天聖元寶 外径2.52×内径2.02×厚さ0.16cm、重量2.2g	1063
18 図-11	PL25-41	28K8	135号墓	棺内底面	銅製品	銭	天聖元寶 外径2.58×内径2.00×厚さ0.17cm、重量3.2g	1064
18 図-12	PL25-42	28K8	135号墓	棺内底面	銅製品	銭	嘉祐元寶 外径2.45×内径1.94×厚さ0.16cm、重量2.8g	926
18 図-13	PL25-43	28K8	135号墓	棺内底面	銅製品	銭	熙寧元寶 外径2.50×内径1.98×厚さ0.16cm、重量2.4g	1067
18 図-14	PL24-45	28K24		Ⅲ	鉄製品	鍋	吊耳、長さ(9.2)×幅(6.5)×厚さ0.6cm、重量139.8g	961
18 図-15	PL24-46	28J9	整地盛土	Ⅲ b 整地層	鉄製品	鍋	長さ(4.1)×幅(2.9)×厚さ4.5cm、重量6.4g	419
18 図-16	PL24-48	28J14	沢2	Ⅲ e	鉄製品	ヤス	長さ(8.65)×幅6.0×厚さ6.0cm、重量8.3g	224
18 図-17	PL24-41	28K18	140号墓	棺内覆土	鉄製品	釘	長さ(4.1)×幅0.25×厚さ0.25cm、重量1.5g	957
18 図-18	PL24-42	28K20	土壌2	覆土	鉄製品	釘	長さ(5.8)×幅0.4×厚さ0.3cm、重量3.1g	921
18 図-19	PL24-47	28J9	整地盛土	Ⅲ b 整地層	鉄製品	不明	長さ2.1×径2.2cm、重量11.7g	420
18 図-20	PL24-49	28J14	沢2	Ⅲ e	鉄製品	小柄	長さ(6.0)×幅1.2×厚さ0.3cm、重量4.3g	243
18 図-21	PL24-50	28J15	沢2	Ⅲ e	鉄製品	小柄	長さ3.75×幅1.3×厚さ3.0cm、重量3.9g	666
18 図-22	PL24-51	28K13		Ⅲ (暗褐色)	土製品	羽口	長さ5.7×内径2.2cm	735・751・752
18 図-23	PL25-44	28L7		表探	銅製品	銭	寛永通寶 外径2.51×内径1.97×厚さ0.18cm、重量4.1g	1146
	PL24-52	28K8	135号墓	覆土	鉄滓	不明溶解物	長さ1.8×幅1.4×厚さ1.2cm、重量1.2g	918
	PL24-53	28K8	135号墓	覆土	鉄滓	不明溶解物	長さ2.1×幅1.7×厚さ1.0cm、重量3.1g	916
	PL24-54	28K8	135号墓	覆土	鉄滓	不明溶解物	長さ3.0×幅2.3×厚さ2.0cm、重量7.7g	919
	PL24-55	28K8	135号墓	覆土	鉄滓	不明溶解物	長さ1.5×幅1.1×厚さ0.9cm、重量0.4g	917
	PL24-56	28K13		Ⅲ (焼土層)	鉄滓	椀形滓	長さ6.3×幅5.6×厚さ1.7cm、重量80.2g	757
	PL24-57	28K13	135号墓	覆土	鉄滓	椀形滓	長さ9.0×幅8.1×厚さ2.1cm、重量235.8g	842
	PL24-58	28K13	140号墓	覆土上面	鉄滓	椀形滓	長さ11.8×幅7.7×厚さ2.7cm、重量387.9g	768・956
20 図-1	PL21-1	28J	整地盛土	Ⅲ d2 整地層(セクション面)	青磁	碗	B-IV群、口径11.9cm、外面-線描蓮弁	1018
20 図-2	PL21-2	28J14	沢2	Ⅲ e	青磁	碗	B-IV群、外面-線描蓮弁	614
	PL21-3	28J14	沢2	Ⅲ e	青磁	碗	E群、口径12.7cm	138
	PL21-4	27J19	整地盛土	Ⅲ d 整地層	青磁	碗	D-II群、口径13.2cm、2次被熱	484
20 図-3	PL21-5	28J16	沢1	Ⅲ (暗灰色)木質層	青磁	碗	底径5.2cm、高台裏釉剥ぎ、見込印花・研磨	235
20 図-4	PL21-6	28J15	沢2	Ⅲ e	青磁	碗	底径4.3cm、高台裏釉剥ぎ、2次被熱	252
	PL21-7	28J13	沢2	Ⅲ e	青磁	碗	D-II群?、底径5.6cm、高台裏釉剥ぎ	587
20 図-5	PL21-8	28J13	沢2	Ⅲ e	青磁	碗	D-II群?、底径5.8cm、高台裏釉剥ぎ	584・656 ~ 659
20 図-6	PL21-9	28J16	沢1	Ⅲ (暗灰色)	青磁	皿	稜花皿、口径11.2cm	42・50
20 図-7	PL21-10	28K		排土	青磁	皿	稜花皿、口径11.6cm	1034
	PL21-11	28J13	沢2	Ⅲ e	青磁	皿	稜花皿、内面-口縁部劃花文	582
	PL21-12	28J16	沢1	Ⅲ (暗灰色)	青磁	皿	稜花皿、口径11.0cm、内面-胴部劃花文	58
	PL21-13	28J		排土	青磁	皿	稜花皿	1032
	PL21-14	27J22		I	青磁	皿	稜花皿、口径11.8cm、外面-口縁部劃花文	1010
	PL21-15	28J13	沢2	Ⅲ e	青磁	皿	稜花皿、口径11.8cm、外面-口縁部圓線	117
	PL21-16	28J13	沢2	Ⅲ e	青磁	皿	稜花皿、口径10.8cm、2次被熱	589
	PL21-17	28J14	沢2	Ⅲ e	青磁	皿	稜花皿、内面-胴部劃花文	530
	PL21-18	28J14	沢2	Ⅲ e	青磁	皿	稜花皿	198・212・214・215
20 図-8	PL21-19	28J13	沢2	Ⅲ e	青磁	皿	底径5.3cm、高台裏釉剥ぎ、見込露胎	189
20 図-9	PL21-20	28J16	沢1	Ⅲ (暗灰色)	青磁	皿	底径6.6cm、高台裏釉剥ぎ、2次被熱	45
20 図-10	PL21-21	28J・28J14	沢2	Ⅲ e	白磁	皿	D群、丸皿、口径9.4cm、内面-胴部又ス状付着物、2次被熱	532・1023
20 図-11	PL21-22	28J9	整地盛土	Ⅲ d 整地層	白磁	皿	D群、底径4.6cm、切高台	423・424
20 図-12	PL21-23	28K23		Ⅲ	白磁	皿	E群、端反皿、口径12.3cm	777
	PL21-24	27J24	整地盛土	Ⅲ d 整地層	白磁	皿	E群、端反皿、底径6.2cm	401 ~ 405
	PL21-25	28J10	沢2	Ⅲ e	白磁	皿	E群、端反皿、底径6.0cm、2次被熱	366
	PL21-26	28J9	整地盛土	Ⅲ d 整地層	白磁	皿	E群、端反皿、底径5.8cm	422
20 図-13	PL21-27	28J16・28J4	沢1・沢2	Ⅲ (暗灰色)	染付	碗	C群、口径14.8cm、外面-口縁部波頭文・胴部芭蕉葉文、内面-口縁部圓線、2次被熱	41・393
20 図-14	PL21-28	28J14	沢2	Ⅲ e	染付	碗	底径4.4cm、外面-腰部圓線2条、見込十字花文	543
20 図-15	PL21-29	27J22		Ⅱ	染付	皿	B群、口径9.8×底径4.5cm、外面-口縁部圓線2条・胴部牡丹唐草、内面-口縁部圓線、見込十字花文	1001
20 図-16	PL7-5・6(右)	27K1・28L7		表探	染付	皿	端反皿、口径14.8×器高3.6×底径8.2cm、外面-口縁部圓線2条・胴部牡丹唐草・腰部圓線2条、内面-口縁部四方禰、見込人馬	8127K1 IE598-245・8127K1E107-3・1127 ~ 1136・1140
20 図-17	PL21-30	28J16	沢1	Ⅲ (暗灰色)	染付	皿	C群、底径8.2cm、外面-胴部○文・腰部圓線3条、内面-口縁部圓線2条、見込団花文	59
	PL21-31	27J24	整地盛土	Ⅲ d 整地層	染付	皿	B1群、端反皿、外面-胴部牡丹唐草・腰部圓線2条、見込玉取獅子	399
	PL21-32	28J14	沢2	Ⅲ e	染付	皿	B1群、端反皿、口径10.8cm、外面-口縁部圓線・胴部唐草、内面-口縁部圓線、見込圓線2条	631

表16 出土遺物観察表

図版No.	PL No.	グリット	遺構	層位	種類	器種	備考	整理No.
	PL21-33	28K		排土	染付	皿	B1群、端反皿、口径12.6cm、外面-口縁部圏線・胴部牡丹唐草、内面-口縁部圏線	1014
	PL21-34	28J15	沢2	Ⅲ e	染付	皿	B1群、端反皿、外面-口縁部圏線・胴部牡丹唐草、内面-口縁部圏線	250
	PL21-35	28J4	整地盛土	Ⅲ a 整地層	染付	皿	B1群、端反皿、口径12.8cm、外面-口縁部圏線・胴部牡丹唐草、内面-口縁部圏線、見込圏線2条	325
	PL21-36	28J4	沢2	Ⅲ e	染付	皿	B1群、端反皿、口径11.8×器高2.7×底径7.8cm、外面-口縁部圏線・胴部牡丹唐草・腰部圏線2条、内面-口縁部圏線、見込玉取獅子	394
20 図-18	PL7-5・6 (左)	28L7		表採	染付	皿	端反皿、口径15.0×器高3.7×底径8.0cm、外面-口縁部圏線2条、胴部牡丹唐草・腰部圏線2条、内面-口縁部圏線2条、見込人馬	1117~1119
20 図-19	PL21-37	28J		排土	赤絵	碗	端反碗、口径15.6cm、外面-口縁部圏線・胴部○文、内面-口縁部圏線2条	1005
20 図-20	PL21-38	28J		排土	赤絵	皿	口径15.4cm、2次被熱	1009
20 図-21	PL21-39	28L7		表採	鉄釉	碗	大窯第3段階、口径12.3×器高6.0×底径4.8cm	1114・1115・1142~1144
20 図-22	PL21-40	28J16	沢1	Ⅲ (暗灰色)木質層	鉄釉	平碗	大窯第1段階、口径16.0cm、2次被熱	156・1201
	PL21-41	28J14	沢2	Ⅲ e	鉄釉	碗		661
	PL21-42	28J14	沢2	Ⅲ e	鉄釉	碗		578
	PL21-43	28K7		Ⅲ	鉄釉	碗		971
	PL21-44	28J15	溝1	覆土	灰釉	丸碗	大窯第1段階、口径10.2cm	347
20 図-23	PL21-47	28J4	沢2	Ⅲ e	灰釉	丸碗A	大窯第1段階、口径12.4cm、外面-略線描蓮弁	385~390
20 図-24	PL21-46	28J11	沢1	灰色粘土層	灰釉	丸碗A	大窯第1段階、口径12.9×器高6.1×底径5.2cm、外面-線描蓮弁	12~16
20 図-25	PL21-45	28J9	沢2	Ⅲ e	灰釉	丸碗	大窯第1段階、口径12.2×器高6.1×底径5.9cm、外面-線描蓮弁	637・650・651・672・673
20 図-26	PL21-48	28J9・13	沢2	Ⅲ e	灰釉	腰折皿	古瀬戸後IV新段階、底径4.2cm、外面胴部以下露胎	599・634
20 図-27	PL21-50	28J16	沢1	Ⅲ (暗灰色)木質層黄下④	灰釉	端反皿	大窯第1段階、底径6.2cm、見込印花?	442
20 図-28	PL22-7	28J5、18M14・19	沢2	Ⅲ e	灰釉	端反皿	大窯第1段階、口径11.4×器高2.6~2.8×底径5.8cm	9218M19 Ⅲ-5、9218M14 II ベルト-20、740
20 図-29	PL21-49	28J16	沢1	Ⅲ (暗灰色)木質層	灰釉	端反皿	大窯第1段階、口径11.1×器高2.4×底径6.0cm、見込印花	106
20 図-30	PL21-51	28J15	沢2	Ⅲ e	灰釉	端反皿	大窯第1段階、口径12.7×器高2.4×底径5.6cm	988
20 図-31	PL21-52	28J15	溝1	底面	灰釉	端反皿	大窯第1段階、口径8.6×器高2.0×底径4.5cm	991
	PL22-1	28J16	沢1	Ⅲ (暗灰色)木質層	灰釉	端反皿	大窯第1段階、口径11.2cm	176・177
	PL22-2	28J16	沢1	Ⅲ (暗灰色)木質層	灰釉	端反皿	大窯第1段階、口径11.2×器高2.6×底径6.0cm	178・179
	PL22-3	28J14	整地盛土	Ⅲ (黒褐色)整地層	灰釉	端反皿	大窯第1段階、口径11.0×器高2.3×底径5.5cm	246
	PL22-4	28J16	沢1	Ⅲ木質層黄色下③	灰釉	端反皿	大窯第1段階、底径6.8cm	54~57・269
	PL22-5	28J14	沢2	Ⅲ e	灰釉	端反皿	大窯第1段階、底径6.3cm	554~557
	PL22-6	28K19		Ⅲ	灰釉	端反皿	大窯第1段階、見込印花	970
	PL22-7	28J15	沢2	Ⅲ e	灰釉	端反皿	大窯第1段階、底径6.0cm、高台裏露胎	740
	PL22-8	28J		排土	灰釉	端反皿	大窯第1段階、底径6.0cm	1004
21 図-1	PL22-13	29K・29K6		Ⅲ	越前	播鉢	IV群c、口径33.4cm、卸目9条	983・984・1016
21 図-2	PL22-14	28J16	沢1	Ⅲ (暗灰色)木質層	越前	播鉢	IV群a、口径32.5cm、卸目10条	88
21 図-3	PL22-9	28J14	沢2	Ⅲ e	越前	播鉢	IV群a、口径33.0cm	134
21 図-4	PL22-10	28J4	沢2	Ⅲ e	越前	播鉢	Ⅲ群b、口径30.0cm	384
21 図-5	PL22-16	28J9	整地盛土	Ⅲ d 整地層	越前	播鉢	底径19.5cm	428
21 図-6	PL22-11	27J19		排土	越前	播鉢	IV群b、口径31.5cm	1021
21 図-7	PL22-15	28J9	溝1	覆土	越前	播鉢	IV群b、口径32.0cm	635
	PL22-12	28J4	整地盛土	Ⅲ a 整地層	越前	播鉢	Ⅲ群b	323
	PL22-17	28J15	沢2	Ⅲ e	越前	播鉢	卸目9条	990
	PL22-18	28J15	沢2	Ⅲ e	土師器	皿	かわらけ	283
	PL22-19	29K6		Ⅲ	土師器	皿	かわらけ	982
21 図-8	PL22-20	28J16	沢1	Ⅲ (暗灰色)木質層	木製品	串状	長さ27.8×幅0.8×厚さ0.9cm	109
21 図-9	PL22-21	28J16	沢1	Ⅲ (暗灰色)木質層黄下⑤	木製品	箸状	長さ23.2×幅0.5×厚さ0.5cm	523
21 図-10	PL22-22	28J16	沢1	Ⅲ (暗灰色)木質層黄下③	木製品	箸状	長さ22.7×幅0.6×厚さ0.4cm	452・528
21 図-11	PL22-23	28J16	沢1	Ⅲ (暗灰色)木質層黄下⑤	木製品	箸状	長さ16.8×幅0.5×厚さ0.5cm	520
21 図-12	PL22-24	28J16	沢1	Ⅲ (暗灰色)木質層黄下⑥	木製品	箸状	長さ14.3×幅0.7×厚さ0.6cm	610
21 図-13	PL22-25	28J16	沢1	Ⅲ (暗灰色)木質層黄下⑤	木製品	棒状	長さ19.2×幅0.9×厚さ0.6cm	514
21 図-14	PL22-26	28J16	沢1	Ⅲ (暗灰色)木質層	木製品	棒状	長さ(17.6)×幅1.6×厚さ0.4cm	229
21 図-15	PL22-27	28J16	沢1	Ⅲ (暗灰色)木質層	木製品	棒状	長さ17.5×幅1.0×厚さ0.5cm	148
21 図-16	PL22-28	28J16	沢1	Ⅲ (暗灰色)木質層黄下⑥	木製品	棒状	長さ16.2×幅1.0×厚さ0.5cm	294
21 図-17	PL22-29	28J16	沢1	Ⅲ (暗灰色)木質層黄下⑤	木製品	棒状	長さ15.9×幅1.2×厚さ0.4cm	517
21 図-18	PL22-30	28J16	沢1	Ⅲ (暗灰色)木質層黄下⑤	木製品	不明	径4.8×幅0.6×厚さ0.2cm	511
21 図-19	PL22-31	28J16	沢1	Ⅲ (暗灰色)木質層黄下④	木製品	折敷	長さ(22.8)×幅(7.0)×厚さ0.2cm	439
21 図-20	PL23-3	28J16	沢1	Ⅲ (暗灰色)木質層	木製品	折敷	長さ16.7×幅(7.2)×厚さ0.2cm	111
21 図-21	PL23-5	28J16	沢1	Ⅲ (暗灰色)木質層黄下③	木製品	柱目材	長さ34.5×幅5.3×厚さ0.4cm	504
22 図-1	PL23-1	28J16	沢1	Ⅲ (暗灰色)木質層	木製品	柱目材	長さ22.8×幅7.0×厚さ0.2cm	155
22 図-2	PL23-2	28J16	沢1	Ⅲ (暗灰色)木質層	木製品	へら	長さ23.3×幅5.8×厚さ0.75cm	164
22 図-3	PL23-6	28J16	沢1	Ⅲ (暗灰色)木質層	木製品	折敷	長さ37.1×幅6.7×厚さ0.9cm	107
22 図-4	PL23-4	28J16	沢1	Ⅲ (暗灰色)木質層	木製品	板状	長さ(73.8)×幅10.7×厚さ2.3cm	80
22 図-5	PL23-7	28J16	沢1	Ⅲ (暗灰色)木質層	木製品	板状	長さ(41.9)×幅6.9×厚さ2.0cm	174

釉を輪状に削り取るものがほとんどである。

皿は、すべて稜花皿で構成され、劃花文や圏線を施すものが出土している。

白磁 (20図-10~12、P L21-21~26)

白磁はすべて皿で構成され、D群丸皿・E群端反皿が出土している。破片数は、E群端反皿が、全体の82%を占め、個体数ではD群丸皿が、全体の67%を占める。

染付 (20図-13~18、P L21-27~36)

碗・皿が出土し、C群の直縁碗、皿はB1群の端反皿である。端反皿は、外面胴部に牡丹唐草、見込に玉取獅子、十字花文、団花文などを施すものが見られる。20図-16・18の端反皿は、勝山館跡ではあまり見られない文様を施す。

赤絵 (20図-19・20、P L21-37・38)

碗・皿が出土している。20図-19の碗は、勝山館跡では、よく見られる文様を施す。

瀬戸 (20図-21~30、P L21-39~22-8)

碗・皿が出土し、大窯第1段階と思われる製品がほとんどであるが、古瀬戸後IV新段階の製品も少量であるが出土している。古瀬戸段階のものでは、腰折皿が出土している。

碗は、鉄釉と灰釉が出土している。鉄釉の碗は、出土点数は少ないが、ほとんどが大窯第1段階相当の製品と思われ、他に大窯第3段階相当のものも見られる。

灰釉の碗は、すべて丸碗で構成され、外面に蓮弁を持つものと無文のものがある。皿は、すべて灰釉の製品で腰折皿と端反皿で構成され、端反皿が97%と圧倒的な割合を占めている。

越前 (21図-1~7、P L22-9~17)

器種は挿鉢で構成され、Ⅲ・Ⅳ群に分類される形態のものが見られる。

b. 木製品 (21図-8~21、P L22-20~31)

約150点出土している。ほとんどが沢1から出土している。箸・串、へら、折敷、漆碗などが見られるが、用途不明品が多数を占める。棒状製品としたものは、長さ15~20cm、幅1~2cm、厚さ0.3~0.5cmでまとまりが見られる。棒状木製品は、

その形状から籌木としての用途を考えたが、トイレ跡と想定される遺構(遺構の性格は現在調査中)からの出土を確認してから結論を出したい。

c. 鉄製品 (10~18図、P L24-1~47)

約124点出土している。小柄、釘、鍋、ヤス、縫針、毛抜き、用途不明品などが出土している。釘は、ほとんどが土葬墓からの出土で、棺材と思われる木質が付着している。鍋は、吊耳鉄鍋である。

d. 銅製品 (10~18図、P L45)

銅銭は、最古銭を開元通寶(唐621年)、最新銭を永樂通寶(明1408年)の約20種76枚が出土し、その他寛永通寶(1636~1659)4点が見つかった。その銭種は、北宋銭を主体として唐・明銭が出土している。寛永通寶は、表採・Ⅰ・Ⅱ層からの出土である。

出土銭は、ほとんどが墓からの出土である。144号墓の盛土の裾部分から銭が見つかったが、それ以外は埋葬時に納めた銭と考えられる。沢1から仏具と思われるものが出土している。

e. その他

かわらけ、鍛冶関連遺物の鉄滓や鍛造剥片、人骨、獣骨、魚骨、種子などが出土している。鍛冶関連遺物では、鉄滓や発泡状の不明溶解物が出土している。鉄滓は、椀形や塊状を呈するものが見られる。獣骨では、イヌと想定される下顎骨などが出土している。種子は、ほとんどが沢1から出土したものである。(塚田)

表17 中世土器・陶磁器 種類・器種別組成表 (全体)

種類	器種	破片数	個体数	
青磁	碗	27	0.31	
	皿	29	1.27	
	小計	56 [13.9%]	1.58 [14.3%]	
白磁 染付	皿	28 [6.9%]	0.6 [5.4%]	
	碗	14	0.16	
	皿	51	1.87	
	小計	65 [16.1%]	2.03 [18.3%]	
赤絵	碗	1	0.08	
	皿	1	0.06	
	小計	2 [0.5%]	0.14 [1.3%]	
瀬戸美濃 鉄釉(大窯)	碗	11	0.13	
	瀬戸美濃 灰釉(宍窯)	皿	5	0.08
	瀬戸美濃 灰釉(大窯)	碗	47	0.91
	皿	164	5.24	
	不明	1	0	
小計	228 [56.4%]	6.36 [57.4%]		
越前	播鉢	23 [5.7%]	0.37 [3.3%]	
土師器	皿	2 [0.5%]	0 [*%]	
総計		404 [100%]	11.08 [100%]	

表18 中世土器・陶磁器 種類・器種別組成表 (整地盛土)

種類	器種	破片数	個体数
青磁	碗	6	0.13
	皿	4	0.00
	小計	10 [18.2%]	0.13 [16.3%]
白磁 染付	皿	15 [10.9%]	0.07 [8.8%]
	碗	5	0.03
	皿	6	0.16
	小計	11 [16.4%]	0.19 [23.8%]
瀬戸美濃 灰釉(大窯)	碗	1	
	皿	26	
	小計	27 [49.1%]	0.38 [47.5%]
越前	播鉢	3 [5.5%]	0.03 [3.8%]
総計		64 [100%]	0.80 [100%]

表19 中世土器・陶磁器 種類・器種別組成表 (沢1)

種類	器種	破片数	個体数	
青磁	碗	4	0	
	皿	4	0.26	
	小計	8 [16.7%]	0.26 [12.6%]	
白磁 染付	皿	1 [2.1%]	0 [*%]	
	碗	5	0.08	
	皿	5	0.03	
	小計	10 [20.8%]	0.11 [5.3%]	
瀬戸美濃 鉄釉(大窯)	碗	2	0.13	
	瀬戸美濃 灰釉(大窯)	碗	6	0.31
	皿	19	1.19	
小計	27 [56.3%]	1.63 [79.1%]		
越前	播鉢	2 [4.2%]	0.06 [2.9%]	
総計		48 [100%]	2.06 [100%]	

表20 中世土器・陶磁器 種類・器種別組成表 (沢2)

種類	器種	破片数	個体数	
青磁	碗	13	0.14	
	皿	17	0.63	
	小計	30 [15.5%]	0.77 [18.1%]	
白磁 染付	皿	6 [3.1%]	0.19 [4.5%]	
	碗	5	0.03	
	皿	6	0.16	
	小計	11 [5.7%]	0.19 [4.5%]	
瀬戸美濃 鉄釉(大窯)	碗	2	0	
	瀬戸美濃 灰釉(宍窯)	皿	5	0.08
	瀬戸美濃 灰釉(大窯)	碗	31	0.46
	皿	94	2.48	
	不明	1	0	
小計	133 [68.9%]	3.02 [71.1%]		
越前	播鉢	12 [6.2%]	0.08 [1.9%]	
土師器	皿	1 [0.5%]	0 [*%]	
総計		193 [100%]	4.25 [100%]	

*は存在するが、個体数の比率が数値として表れないものを示す。

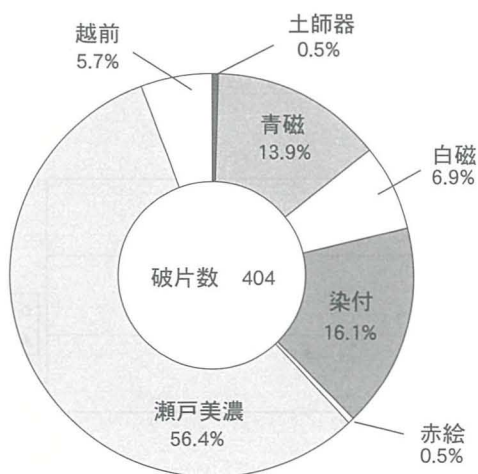


図1 中世土器・陶磁器 種類別組成比 (破片数)

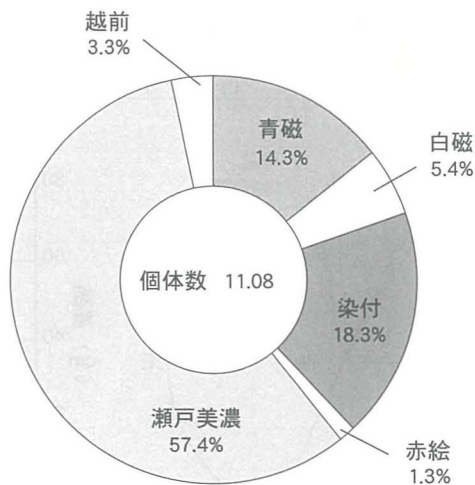


図2 中世土器・陶磁器 種類別組成比 (個体数)

表21 フローテーション出土種子集計表

種類 2	沢 1		沢 2	132 号墓		134 号墓		138 号墓		焼土 1	焼土 2	焼土 3	焼土 6	土壌 2
	点数	ブロック	点数	点数	点数	点数	ブロック	点数	点数	点数	点数	点数	点数	点数
アサ	16500		10		3									
タデ属	16076					3 (3)		1 (1)				1 (1)		1
キハダ	5424		48											
ヤマブドウ	2722		7			3 (3)			10	3 (3)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	
ナス科	1045		1											
アカザ	779		24		1									
オモダカ科	679													
タラノキ属	673													
イネ科	659		6						60	4 (4)	1 (1)			
エゾニワトコ	573													
ミズキ	531													
ヤマグワ	508													
マタタビ属	357													
ハウノキ	313		1											
キイチゴ	205		1											
ナデシコ	195													
キンポウゲ科	153													
クスノキ科	152					1 (1)								
クサギ	93													
スマレ科	66							1 (1)	1	1 (1)				
コブシ	51													
ガマズミ属	42													
エゾコブシ	27													
マメ科	24		1			1 (1)								
ユウガオ	23													
コメ	19		2	2 (2)	4 (4)			8 (8)						
シソ属	17													
クルミ	16												1 (1)	
瓜類	11													
イチイ	8													
キカラスウリ	7													
サクラ属	6													
サンショウ	4													
ソバ	4								1					
ヒエ属	4													
ベニバナ	4													
カヤツリグサ科	3													
バラ科	3													
マツ属	3													
ウルシ属	2													
トチ	2													
カキ	1													
キビ	1	8 (8)							30	9 (9)	1 (1)			
セリ科	1													
ヒルガオ科	1													
冬芽	1													
不明	1128	3 (3)	10	2 (2)	10 (10)				23	9 (9)		15 (15)	200(200)	
合計	49116	11	111	8 (4)	18 (18)	2 (2)	8 (8)		125	26 (26)	4 (4)	17 (17)	202(201)	

() は被熱の点数を表す。



図 3 推定頭位

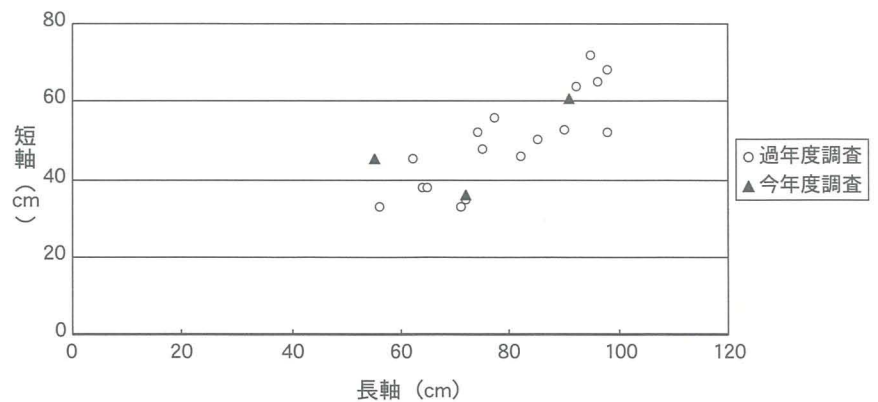


図 4 第 I 地区棺推定規模



Ⅲ. 小 括

本調査では、寺ノ沢用水施設跡や華ノ沢倉庫群といった遺構を囲む空壕や勝山館跡と夷王山墳墓群を結ぶ道路跡の検出を目的に行った。結果としては、いずれの遺構も検出できなかったが、過年度の調査で検出された遺構に続くものが見つかったことや出土遺物から、いくつかの新しい知見を得ることができた。そのため、ここでは過年度の調査結果も踏まえて小括を行いたい。

なお本項では、トレンチ1の「整地盛土」「沢跡」「墓域」といった3つのエリアごとに述べていく。また、トレンチ3～8については、とくに新しい知見がなかったため、ここでは割愛させていただく。

【整地盛土】

整地盛土は、新しい順からⅢ a、Ⅲ b、Ⅲ c、Ⅲ dといった層位に分層され、人為堆積を呈する。本調査では沢2と溝1といった遺構と切り合い関係が見られ、整地盛土のⅢ d層が沢2の上層に堆積して、またⅢ d層を掘り込んで溝1が構築される。

溝1は、位置関係から昭和55・56年に検出された溝に接続し、さらに空壕Bの覆土を壊して空壕Aと重複する。勝山館跡後方には、切り合い関係を持つ空壕が3本確認されている。それらは、空壕A・B・Cと呼称され、空壕Aが一番新しく、次に空壕B、空壕Cといった時期差がある。

そして、溝1は整地盛土によって埋め戻され、その上面にⅢ c、Ⅲ b、Ⅲ a層が順に堆積していく。

本調査で確認されたKo-d火山灰下に堆積する整地盛土は、空壕Aでは見られず、空壕Bを埋めて堆積しているため、空壕B・C廃絶後の遺構である。このことから整地盛土は、空壕Aの時期に伴う遺構であり、そのほとんどが空壕Aを掘削した際の土を利用しているのではないかと想定される。また溝1と空壕Aの関係は、溝1が空壕Bより新しく、整地盛土Ⅲ a～Ⅲ c層より古いため、空壕Aより古いと考えられる。

出土遺物は、整地盛土の下部に位置する沢2から、勝山館跡の中でも古い年代を示す瀬戸製品の古瀬戸後Ⅳ新段階相当の灰釉腰折皿が出土している。整地盛土は、瀬戸製品では大窯第1段階相当の遺物しか出土しないため、沢2よりやや新しい傾向を示す。沢2は、陶磁器・魚骨・焼土粒・炭化物などの遺物や出土状況から、館内部のゴミを廃棄した捨て場と

しての利用を考えられ、またそれを裏付けるように、館内部の直線距離で約200m離れた18M14・19グリッド地点の遺物と沢2の遺物が接合するなど、館内外部の人の往来が想定される。

【沢跡】

沢1は、整地盛土と墓域の間に位置し、沢1の西側に墓域が形成されるのに対して、東側に墓が構築されない。調査区北側の昭和56年度に調査した土葬墓群も沢1の西側に構築される。また調査区南側の等高線から想定される沢1の東側においても同じ様相を示す。そのため、沢1ではゴミ捨て場として認識されていただけでなく、居住域と墓域を区別するような境界としても認識されていたと考えられる。

堆積土は、土層番号30を境に上層では粘土層、下層では木質層を呈する。ほとんどが自然堆積であるが、西側上層部分で削平された土と思われるロームブロックなどが多く混入した堆積土が見られる。

出土遺物は、木質層から木製品などの遺物が多く見られるが、上層の粘土層ではあまり遺物が見られない。

沢2と沢1の下層に堆積する木質層の染付碗が接合したり、整地盛土のⅢ a層と沢1の上層に堆積する粘土層の白磁皿が接合している。この接合関係から、沢1は整地盛土が構築される以前に、すでにゴミ捨て場として利用されていたと考えられ、また整地盛土のⅢ a層が堆積する頃には、沢1の木質層のレベルまでは少なくとも埋没していた可能性が高い。

【墓域】

本調査区で検出された土葬墓は、夷王山墳墓群第Ⅰ地区に含まれ、標高110～113mの沢1の西側に分布している。

葬法は墓壇から出土する鉄釘に、棺材と思われる木質が付着するため、木棺を用いていることがわかる。墓壇や鉄釘の出土位置から想定される棺の規模より、屈葬土葬墓という埋葬方法であると考えられる。

墓壇の規模は、棺の約1.5倍の大きさを呈する。平面形態は135号墓の円形を除いて、他は隅丸長方形である。過去に行われた表面観察による調査で、墓を確認できていないことが示すように、盛土や墓壇が削平を受けているものがほとんどであった。

棺推定規模は、出土する鉄釘の位置からそれを求めた。計測には、盛土が棺内に崩落した際に移動が少ない、底板や側板の底部に打ち付けた釘を使用した。また、今回の調査で検出した墓だけではデータが乏しいため、過去に第Ⅱ地区で発掘調査を行った墓のデータについても用いた。

第Ⅰ地区の棺推定規模は、長軸90～100cm・短軸60～80cm前後、長軸70～90・短軸40～60cm前後、長軸50～70cm・短軸30～50cm前後の数値をとる大中小3つの法量に大きく分かれる(46ページ、図4)。

第Ⅱ地区の棺推定規模は、長軸80～100cm・短軸60～70cm前後、長軸60～80cm、短軸40～60cm前後の大小2法量に分かれている(概報XXV)。

今回の調査で、棺の推定規模が計測できた墓は、133・134・138号墓である。そのうち134号墓は大型、133・138号墓は小型の法量を示す。また137号墓は、削平のため棺の長軸が不明であるが、棺の短軸や墓壙の規模から推測すると小型の法量を呈すと思われる。

推定頭位は、歯や頭蓋骨などの遺物から頭部の位置を推測し、棺の長軸方向によりそれを算出した(46ページ、図3)。135号墓が南頭位を示し、他の墓と大きく方角が異なる。そのほかの墓は、132・134・138号墓がやや西の方角に寄るものの、北の方角を指向して埋葬していることを窺うことができる。堆積土は完掘した土葬墓では、蓋板の腐植により棺内に盛土が崩落する自然堆積層が見られる。

135号墓は、覆土中からの鉄滓や不明溶解物などの鍛冶関連遺物が出土している。調査区で鍛冶関連遺物は、135号墓付近の142号墓上面で羽口、鉄滓、不明溶解物、焼土粒などが見られ、昭和57年度の調査で、本調査区の北側、27Kグリッドから大量の鉄滓などの廃棄が報告されている(概報IV)。本調査区でも炉跡と考えられる遺構も検出されてないので、135号墓の鍛冶関連遺物は廃棄された遺物を含む層を掘り込んだために、埋め戻しの過程で混入したと考えられる。

切り合い関係では、盛土が重複するものは見られなかったが、墓壙が直接切り合うものは見られなかった。盛土掘上げ溝は、139・141号墓を囲うように位置して新旧関係では139号墓より古いので、139号墓より古い141号墓に伴うものと思われる。

出土遺物は、副葬品として銅銭、毛抜き、縫針などが出土している。本調査で漆碗が出土していないが、遺存状態の悪さのためと思われる。

銅銭は、明銭では永楽通寶が137・138号墓で確認されている。明銭は、第Ⅰ地区では永楽通寶が多く出土し、第Ⅱ地区では洪武通寶が多く出土するという傾向が見られる。

毛抜きが135号墓、縫針は133・134号墓から出土しているが、これらはおもに女性の使用品であるため、女性を埋葬した墓と想定される。この133・134号墓を女性の墓、小型を呈する137・138号墓を子どもの墓とするならば、今回完掘した土葬墓6基のうち5基は、女性や子どもを埋葬した墓になる。

墓域と沢跡との関係では、沢1の西側上層部分で、削平によって生じたと思われる土が堆積することから、削平を行なった頃には沢1は粘土層まで埋没していたと考えられる。また逆に、墓域が形成されていた頃には、沢1はゴミ捨て場や境界として認識できる深さを保って機能し、ある程度埋没した時点で、削平をして建物や整地盛土を構築するといったことを行ったのではないかと想定される。

以上のことから、勝山館跡後方では、空壕B・C、沢1・2、墓域が機能している時期と、空壕A、整地盛土や削平を行なう時期の大きく分けた2時期の存在を窺うことができる。

本年度調査では、沢2から見つかった古瀬戸後IV新段階の灰釉腰折皿や大窯第1段階の灰釉端反皿といった瀬戸製品の年代観から、勝山館跡の初期もしくは前半期に本年度調査の沢1・2、墓域といったものが機能していて、その後整地盛土や削平を行なったのではないかと想定しているが、本調査では面積や遺物量ともに少なく、この勝山館跡後方のエリアを述べるには、推測の域を出ない状況にある。

そのため、過年度の調査で見つかった空壕出土の陶磁器と合わせて、どの時期に空壕が構築されて廃絶したのか、また整地盛土が行われたのかといったことを考えていく必要がある。(塚田)

Ⅳ. 上ノ国町内の遺跡（勝山館跡ほか）出土ガラス玉の非破壊分析

水上正勝¹⁾・中村和之²⁾・竹内 孝³⁾・工藤大介¹⁾

函館工業高等専門学校 物質工学科¹⁾，一般科目(人文系)²⁾，機械工学科³⁾

Key words : Katsuyamadate ruins (勝山館跡), archeological remains (考古遺物), glass-bead (ガラス玉), nondestructive analysis (非破壊分析), glass composition (ガラス組成)

1. はじめに

北海道・東北の各地では、アイヌ文化に係わる遺跡から数多くのガラス玉が出土する。これらのガラス玉の形状や組成は多岐にわたり、その製造や流通の過程を知ることは興味深い。近年、考古学試料の非破壊分析法が発達するとともに、遺跡から出土したガラス玉を化学的に分析して考古学的な検討を加える試みがなされるようになった（例：二ノ宮・他、1995；小林、2000；斎藤ら、2001；加藤ら、2002）。先に著者らは、試料を損傷なしに観察・分析できる低真空走査型電子顕微鏡（LV-SEM）と高分解能のエネルギー分散型電子線分析器（EPMA）をガラス玉の分析に応用することを試みた（水上ら、2005）。本報は、勝山館跡を中心とする上ノ国町内の遺跡から出土した33個のガラス玉について、同様の非破壊分析を行った結果の詳細を報告するものである。

2. 勝山館跡及びその周辺の遺跡とガラス玉の出土状況

分析の対象としたガラス玉は、勝山館跡出土の試料が21点（No.1～21）、比石館跡出土の試料が4点（No.22～25）、重要文化財旧笹浪家住宅およびその周辺（勝山館跡宮ノ沢右岸地点）の試料が8点（No.26～33）である。

勝山館跡は、北海道渡島半島の南西部、上ノ国町夷王山東方の丘陵に位置する。1457年にアイヌと和人の間に起きたコシャマインの戦いの後に武田信広が築いた山城で、その後慶長年間初めまで続いたとされることから、1470年代から1590年代にかけての約120～30年ほどの年代幅が与えられている（石井進、2001；松崎水穂、2001）。しかし、出土した21点のガラス玉については、今のところこの年代幅以上の精密な年代を与えるには至っていない。ガラス玉のほとんどは館跡の各所から出土しているが、その出土状況の傾向については検討中である。

比石館跡は、勝山館跡の南方約15kmに位置する。北海道に残る最も古い記録である『新羅之記録』

（1646）には、道南十二館として比石館の名が見える。この地域で道南十二館に数えられているのは、これ以外には花沢館だけである。花沢館は、当時上ノ国を治めていた蠣崎季繁の居館であり、のちに松前氏の祖となる武田信広が客将として滞在していたとされている。武田信広はコシャマインの戦いに勝利を収めた功績が認められて蠣崎氏に婿入りしたとされているが、『新羅之記録』によれば、コシャマインの戦いでは花沢館と上磯町の茂別館だけが陥落を免れたことになっている。従って、文献史料の記載からは、比石館跡は15世紀の半ばまでには築かれていたものと推測される。しかし、近年の発掘により確認された遺物は、いずれも15末～17世紀と考えられるものであった。そのため、出土したガラス玉の年代についても明確なことはいえない状態である。また、出土状況についても、とくに傾向のようなものは見いだされていない。

笹浪家は、幕末期から明治にかけて上ノ国でニシン漁の網元として漁業を中心に繁栄した家であり、同住宅は勝山館の直下（史跡指定地内）に位置する。ガラス玉はこの住宅の敷地内から出土しているが、発掘された状況や層位から考えてガラス玉と旧笹浪家との間には直接的関係は無く、中世末か近世のものであろうと考えられる。このため、これらのガラス玉の出土地点は、発掘場所である「勝山館跡宮ノ沢右岸地点」として登録されている。出土状況についての傾向は、とくに見いだされていない。

以上のように、上ノ国町内の遺跡から出土したガラス玉については、勝山館跡の試料が15世紀後半から16世紀末という年代が与えられているほかは、現時点で年代の確定がなされていない状況である。

3. 試料の観察と分析方法

本研究におけるガラス玉試料の分析には低真空走査型電子顕微鏡（LV-SEM）およびこれに付属するエネルギー分散型電子線微量分析器（EPMA）を使用した。これまで、遺跡から発掘されたガラス玉の

表1 上ノ国遺跡（勝山館跡・比石館跡・宮ノ沢右岸）出土のガラス玉試料

No.	色	外径(mm)	内径(mm)	重さ(g)	特 徴	出土地点
1	透明淡青色	3	1.5	0.044	腐食度大	勝山館跡
2	透明淡青色	4.15	1.2	0.043	気泡混入	勝山館跡
3	半透明青色	3.2	1.5	0.045		勝山館跡
4	半透明紅色	4	1.3	0.093	気泡混入	勝山館跡
5	半透明青色	2.9	0.7	0.03	腐食度大	勝山館跡
6	半透明青色	4.4	1.6	0.098		勝山館跡
7	透明青緑色	8.1	3	0.431		勝山館跡
8	茶の模様入り白	10.1	2.2	1.851	マーブル	勝山館跡
9	透明緑色	9.45	3.6	0.63		勝山館跡
10	透明青緑色	7.65	2.9	0.399		勝山館跡
11	透明青緑色	7.9	3	0.447		勝山館跡
12	不透明水色	4.1	1.8	0.079	不透明ガラス	勝山館跡
13	透明淡青色	4.1	1.7	0.069		勝山館跡
14	不透明褐色	5.0	1.8	0.161	不透明ガラス	勝山館跡
15	透明緑青色	8.6	3.6	0.451		勝山館跡
16	透明緑青色	8.4	4.1	0.413		勝山館跡
17	透明青色	8.8	3.8	0.46		勝山館跡
18	透明青紫色	3.4	1.2	0.057		勝山館跡
19	不透明水色	9.2	2.5	0.818	不透明ガラス	勝山館跡
20	半透明緑色	7.2	2.9	0.54	表面模様彫刻	勝山館跡
21	半透明赤褐色	16.0	2.3	6.234	球状	勝山館跡
22	透明青色	10.4(推定)	2.4(推定)	0.752	破片3個	比石館跡
23	不透明玉虫色	4.2	1.4	0.068	金属光沢(一部欠損)	比石館跡
24	不透明青紫色	4.5	1.5	0.135		比石館跡
25	透明緑色	測定不能	測定不能	0.012	(破片)	比石館跡
26	不透明茶褐色	12.6(推定)	4.8(推定)	0.425	腐食度大(破片)	宮ノ沢右岸*
27	透明白色	5.9	1.8	0.305	球状	宮ノ沢右岸
28	透明白色	6.0	1.6	0.271	球状	宮ノ沢右岸
29	半透明淡緑色	1.6	0.8	0.009	微小	宮ノ沢右岸
30	半透明青色	4.2	1.8	0.091		宮ノ沢右岸
31	透明青緑色	9.2	3.2	0.621		宮ノ沢右岸
32	不透明茶褐色	10.3	3.4	0.63	内部白色(破片)	宮ノ沢右岸
33	半透明青色	7.8	2.2	0.44	球状	宮ノ沢右岸

* 宮ノ沢右岸：旧笹浪家跡地

分析には蛍光X線法や電子線分析法が多く用いられてきた。蛍光X線法は、試料にX線を照射して発生する蛍光X線を測定する方法であるが、試料成分の酸化状態がX線で変化して着色する場合があることや、試料表面が平坦でない場合に精度の良い測定ができない。電子線分析法は、試料に電子線を照射したとき発生する特性X線を分析する方法であるが、ガラス試料からの電子線反射を防ぐためにあらかじめ試料に炭素を蒸着して電気伝導性を良くする必要がある。炭素蒸着は試料を汚す結果になるので、任意の部位を分析しにくい欠点がある。

本実験で使用されたLV-SEM-EPMAは、低真空条件下で電子線を照射できることからガラスのような電気伝導性が低い試料でも炭素蒸着なしに分析可能であり、電子顕微鏡により観察しながら任意の極微小部分を分析できる利点がある。分析には、高分解エネルギー検出器 (JED-2300 ハイパーミニカップ、分解能 <133eV) を装着した日本電子製 JSM-6360LV 走査電子顕微鏡を用いた。ガラス玉の試料表面をあらかじめエタノールおよび超音波で洗浄し、加速電圧15.0kVで電子線照射し、試料表面を観察しながら試料の非腐食微小部をエネルギー分散型EPMAで分析した。また、試料の状態は分析前にあらかじめ実体顕微鏡で観察し、デジタルカメラで写真撮影した。

4. 結果と考察

4-1 ガラス玉試料の外見的特徴

今回分析したガラス玉試料の外見(色・外寸・重さ・特徴)および出土地点を表1に、実体顕微鏡による観察写真をカラー頁(PL8)に示す。これらの図表に示されるように、上ノ国町内の遺跡のガラス玉はその形や色が多岐にわたっている。勝山館跡出土のガラス玉(No.1~21)だけを見ても、外径約3mmの小球から16mmに達する大球まであり、色もアルカリガラス特有の透明淡青色のものから不透明な水色や赤褐色、さらには茶色と白のマーブル色のものなど様々である。そのうち淡青色~緑色の透明ガラスが最も多く、21点のうち約半数を占める。

比石館跡出土のガラス玉(No.22~25)は4点と少なく、そのうち3点は破損状態で出土している。透明青色と緑色が各1点、他の2点は不透明な玉虫色または青紫色である。宮ノ沢右岸(旧笹浪家跡)出土のガラス玉(No.26~33)は8点であるが、勝山館出土の試料同様に形状は様々である。直径1.6mm

程のガラス玉から10mm程度のものであり、色も透明緑青色のものから不透明茶褐色や白色のものまで変化に富んでいる。全体的に、透明な青~緑色のガラス玉は小球が多く、不透明な彩色ガラス玉には大球が多い傾向にある。

写真(カラー頁PL8)では不明瞭であるが、観察されたガラス玉の多くは表面処理が粗雑であって、側面にスパイラル痕が見られる。これは、鉄の芯棒に珪酸塩(粘土粉末)を塗布して熔融状態のガラスを細く引き伸ばして巻きつける方法、いわゆる「芯巻法」または「巻き上げ法」(小林1988)と呼ばれる手法によってガラス玉が作られたことを示している。しかしながら、ほとんど線状痕の見られない表面の平滑に磨かれたもの(No.8、21)や、精細な文様が施されているもの(No.20)なども見られ、ガラス玉によってその製作技術に大きな差異のあることがわかる。

4-2 元素分析の結果

上ノ国町内の遺跡から出土したガラス玉試料(33点)の低真空SEM-EPMAによる化学分析データを表2に、データから計算された主要成分の比率を表3に示す。

ガラスは、一般に珪素(Si)、アルミニウム(Al)などの岩石成分元素、カリウム(K)・ナトリウム(Na)などのアルカリ元素、カルシウム(Ca)・マグネシウム(Mg)などのアルカリ土類元素、および鉛(Pb)、鉄(Fe)などの重金属元素を主成分とし、これらの元素が酸素と結びついた形で結合している。したがって、各成分の組成は酸素との化合物(酸化物)の形で示される。

発掘された全てのガラス玉に共通する主成分はSiO₂(珪酸)とAl₂O₃(酸化アルミニウム)であるが、そのうちSiO₂は、鉛含有量の著しく多い一部の高鉛ガラス試料(No.26、28)を除いて、ほとんどの試料の主成分となっている。表3では、ガラス玉の全重量に対するこれらSiO₂とAl₂O₃の占める割合を「珪酸塩系成分」比率として表し、これらの成分量が著しく多いガラス(SiO₂+Al₂O₃>80%)を「珪酸塩系ガラス」と定義した。分析された33個の試料のうち、5個のガラス玉が「珪酸塩系ガラス」に分類される。

アルカリ成分であるNa₂O、K₂Oやアルカリ土類成分のCaO、MgOもほとんどのガラス玉に含まれるが、その総和が全重量の約3%に過ぎない試料(No.1、5、30、32)から30%に達する試料(No.10、22)

表2 ガラス玉試料のEPMAによる化学成分分析値(単位%)

No.	出土地点	Na ₂ O	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	P ₂ O ₅	K ₂ O	CaO	TiO ₂	FeO*	CuO	PbO
1	勝山館跡	0.58		5.97	84.76	0.91	1.17	0.80		0.67		3.46
2	勝山館跡	0.50		0.92	45.38		5.23	0.76			0.61	46.59
3	勝山館跡	0.43		0.96	47.08		6.37		0.51	0.16		44.48
4	勝山館跡	0.39	0.18	1.37	68.90		3.16	0.80	0.59		0.57	24.03
5	勝山館跡		0.12	4.76	68.02	0.75	2.25	0.83	0.40	0.66	2.47	19.74
6	勝山館跡	0.46	0.12	2.00	49.40	0.56	8.23	1.41		0.68	0.30	35.07
7	勝山館跡	2.10	4.95	6.21	60.78		8.52	15.44	0.56	0.80		
8	勝山館跡	1.48	0.29	1.64	63.57		7.71	2.99		1.15	0.25	20.91
9	勝山館跡	1.46	1.46	10.37	72.23	2.08	3.16	3.82	1.71	2.60		
10	勝山館跡	4.24	4.08	7.04	59.16		9.30	14.68		0.74		
11	勝山館跡	2.36	3.02	9.77	68.14	0.47	5.65	7.02		1.61	0.68	
12	勝山館跡	2.42	0.53	1.81	65.75		4.27	3.91	0.38	0.64	1.34	18.94
13	勝山館跡	0.82	0.28	7.68	50.00	1.86	6.68	1.11		3.26		28.31
14	勝山館跡	0.51		0.48	43.17	2.75	5.81	2.36		0.38		42.22
15	勝山館跡	6.11	5.09	7.89	62.33		6.63	9.27	0.79	0.77		
16	勝山館跡	2.54	3.46	6.26	68.30		6.44	10.86	0.45	0.82		
17	勝山館跡	1.35	2.52	3.54	68.38	0.35	10.77	10.55	0.51	1.16		
18	勝山館跡	0.32	0.11	1.91	58.11		6.72	1.11		1.00		30.72
19	勝山館跡	1.97	0.94	9.14	77.48	0.52	4.58	2.74	0.30	1.31		
20	勝山館跡		0.16	1.06	53.27		7.57	1.28		1.53	1.74	33.40
21	勝山館跡	11.91	0.15	4.63	53.46		2.84	3.32		0.51		23.18
22	比石館跡	6.25	1.72	6.92	58.03		13.06	8.85		0.24	3.95	
23	比石館跡	1.18	0.09	1.30	53.96		4.78	0.89		0.52	1.68	35.62
24	比石館跡	1.82	0.30	3.44	59.99		4.76	1.04		1.13		26.01
25	比石館跡	1.14		0.59	44.57		8.26	1.03		0.59	2.48	41.36
26	宮ノ沢右岸			1.18	9.24	15.77		4.37		1.40		63.91
27	宮ノ沢右岸	0.57	0.12	0.56	54.83		2.60	0.91		0.19	0.62	39.59
28	宮ノ沢右岸	0.49		0.90	24.45	12.03	2.90	2.89		0.80	0.61	54.93
29	宮ノ沢右岸	5.09	0.52	2.10	51.90		2.39	2.90		0.83	1.95	32.33
30	宮ノ沢右岸	0.91	0.26	3.12	91.59	0.33	1.03	0.69		0.46	0.59	1.02
31	宮ノ沢右岸	0.95	0.72	9.58	82.70	0.24	3.26	1.27	0.35	0.54		
32	宮ノ沢右岸	0.67	0.30	0.06	64.78	1.29	2.33	0.08	(Sb ₂ O ₃ 3.52)			26.98
33	宮ノ沢右岸	6.11	0.47	9.81	62.52		9.90	8.31	0.28	0.60	1.36	

* 鉄酸化物は2価の鉄酸化物(FeO)に換算。

表3 ガラス玉試料の成分比率（単位％）と化学的分類によるガラス種別

No.	珪酸系成分				アルカリ系成分						鉛系成分			ガラス種別
	Al ₂ O ₃	SiO ₂	計	比率	Na ₂ O	MgO	K ₂ O	CaO	計	比率	PbO	比率	合計	
1	5.97	84.76	90.73	93.79	0.58		1.17	0.80	2.55	2.64	3.46	3.58	96.74	a 珪酸塩系ガラス
2	0.92	45.38	46.30	46.59	0.50		5.23	0.76	6.49	6.53	46.59	46.88	99.38	c 鉛系ガラス
3	0.96	47.08	48.04	48.37	0.43		6.37		6.80	6.85	44.48	44.78	99.32	c 鉛系ガラス
4	1.37	68.90	70.27	71.10	0.39	0.18	3.16	0.80	4.53	4.58	24.03	24.31	98.83	c 鉛系ガラス
5	4.76	68.02	72.78	76.03		0.12	2.25	0.83	3.20	3.34	19.74	20.62	95.72	c 鉛系ガラス
6	2.00	49.40	51.40	53.16	0.46	0.12	8.23	1.41	10.22	10.57	35.07	36.27	96.69	c 鉛系ガラス
7	6.21	60.78	66.99	74.87	2.10	4.95		15.44	22.49	25.13		0.00	89.48	b アルカリ系ガラス
8	1.64	63.57	65.21	66.14	1.48	0.29	7.71	2.99	12.47	12.65	20.91	21.21	98.59	c 鉛系ガラス
9	10.37	72.23	82.60	89.30	1.46	1.46	3.16	3.82	9.90	10.70		0.00	92.50	a 珪酸塩系ガラス
10	7.04	59.16	66.20	67.21	4.24	4.08	9.30	14.68	32.30	32.79		0.00	98.50	b アルカリ系ガラス
11	9.77	68.14	77.91	81.19	2.36	3.02	5.65	7.02	18.05	18.81		0.00	95.96	b アルカリ系ガラス
12	1.81	65.75	67.56	69.20	2.42	0.53	4.27	3.91	11.13	11.40	18.94	19.40	97.63	c 鉛系ガラス
13	7.68	50.00	57.68	60.80	0.82	0.28	6.68	1.10	8.88	9.36	28.31	29.84	94.87	c 鉛系ガラス
14	0.48	43.17	43.65	46.17	0.51		5.81	2.36	8.68	9.18	42.22	44.65	94.55	c 鉛系ガラス
15	7.89	62.33	70.22	72.15	6.11	5.09	6.63	9.27	27.10	27.85		0.00	97.32	b アルカリ系ガラス
16	6.26	68.30	74.56	76.19	2.54	3.46	6.44	10.86	23.30	23.81		0.00	97.86	b アルカリ系ガラス
17	3.54	68.38	71.92	74.06	1.35	2.52	10.77	10.55	25.19	25.94		0.00	97.11	b アルカリ系ガラス
18	1.91	58.11	60.02	60.63	0.32	0.11	6.72	1.11	8.26	8.34	30.72	31.03	99.00	c 鉛系ガラス
19	9.14	77.48	86.62	89.44	1.97	0.94	4.58	2.74	10.23	10.56		0.00	96.85	a 珪酸塩系ガラス
20	1.06	53.27	54.33	56.16		0.16	7.57	1.28	9.01	9.31	33.40	34.53	96.74	c 鉛系ガラス
21	4.63	53.46	58.09	58.39	11.91	0.15	2.84	3.32	18.22	18.31	23.18	23.30	99.49	c 鉛系ガラス
22	6.92	58.03	64.95	68.49	6.25	1.72	13.06	8.85	29.88	31.51		0.00	94.83	b アルカリ系ガラス
23	1.30	53.96	55.26	56.49	1.18	0.09	4.78	0.89	6.94	7.09	35.62	36.41	97.82	c 鉛系ガラス
24	3.44	59.99	63.43	65.15	1.82	0.30	4.76	1.04	7.92	8.13	26.01	26.72	97.36	c 鉛系ガラス
25	0.59	44.57	45.16	46.58	1.14		8.26	1.03	10.43	10.76	41.36	42.66	96.95	c 鉛系ガラス
26	1.18	9.24	10.42	14.02					0.00	0.00	63.91	85.98	74.33	d 高鉛ガラス
27	0.56	54.83	55.39	55.85	0.57	0.12	2.60	0.91	4.20	4.23	39.59	39.92	99.18	c 鉛系ガラス
28	0.90	24.45	25.35	29.29	0.49		2.90	2.89	6.28	7.26	54.93	63.46	86.56	d 高鉛ガラス
29	2.10	51.90	54.00	55.54	5.09	0.52	2.39	2.90	10.90	11.21	32.33	33.25	97.23	c 鉛系ガラス
30	3.12	91.59	94.71	96.04	0.91	0.26	1.03	0.69	2.89	2.93	1.02	1.03	98.62	b 珪酸塩系ガラス
31	9.58	82.70	92.28	93.70	0.95	0.72	3.26	1.27	6.20	6.30		0.00	98.48	b 珪酸塩系ガラス
32	0.06	64.78	64.84	68.11	0.67	0.30	2.33	0.08	3.38	3.55	26.98	28.34	95.20	c 鉛系ガラス
33	9.81	62.52	72.33	74.47	6.11	0.47	9.90	8.31	24.79	25.53		0.00	97.12	b アルカリ系ガラス

まで様々である。また、ガラス玉によってはCaOの割合が著しく高い試料（No.7）やK₂Oの割合が高い試料（No.22）などがあり、アルカリ／アルカリ土類の比もガラス玉によって異なる。一般にNa₂O成分に富むガラスは「ソーダガラス」、K₂O成分に富むガラスは「カリガラス」、これらに加えてCaO成分に富むガラスは「アルカリ石灰ガラス」と呼ばれるが、表3では、これらアルカリ・アルカリ土類成分

に富むガラス（Na₂O + K₂O + CaO + MgO > 20%）を総称して「アルカリ系ガラス」と定義した。「アルカリ系ガラス」に分類されるガラス玉試料は8個である。

表2、3に示されるように、分析されたガラス玉試料には多量の鉛（Pb）を含むものが多い。鉛はガラスの屈折率を高めてその輝きを増すことやガラスの融点を下げて加工しやすくなることから、古代か

らガラスに添加されていたことが知られている。通常クリスタル用鉛ガラスは鉛含有量25%以上とされるが、表3では、岡部・小笠原(1995)の報告にあるように、ガラス玉中のPbO₂が10%以上のガラスを「鉛ガラス」として分類した。「鉛ガラス」とされるガラス玉試料は20個と最も多く、そのうちPbO₂含有量が50%以上と著しい2個の試料(No.26, 28)を、特に「高鉛ガラス」として分類した。

その他、鉛以外でガラス玉に含まれる主な重金属は鉄(Fe)および銅(Cu)である。鉄はほとんどのガラス玉試料に0.5~3%含まれ、鉄含有量の多い試料については2価および3価の酸化鉄(FeO, Fe₂O₃)として色調の調整のために加えられたと思われるが、1%以下の低濃度の酸化鉄についてはガラス原料中に不純物として含まれていた可能性もある。銅(Cu)は2価の氧化物(CuO:酸化銅)として主に鉛ガラス中に多く含まれ、青色の着色のために人為的に加えられたと考えられる。試料No.32には、酸化アンチモン(Sb₂O₃)が特異的に含まれる。不純物としてアンチモンがこのように多量に含まれることは考えにくいので、白濁または着色のために加えられたものであろう。

4-3 化学組成からみた勝山館跡およびその周辺に出土するガラス玉の特徴

初期のガラス玉の製作は、紀元前16世紀のメソポタミアやミケーネですすでに行われていたことが知ら

れている。これら西方のガラス成分はナトリウムやマグネシウム、カルシウムなどの氧化物とシリカ(珪酸)から成るアルカリ石灰系で、製法には鑄型による「鑄造法」と剥離財を塗った金属棒にガラスを巻きつけて珠を成型する「芯巻法」が併用されている。一方、中国では戦国時代(紀元前5世紀末頃)に鑄造ガラスが出現するが、その成分は西方のガラスとは異なっていて、酸化鉛や酸化バリウム、シリカが主成分の鉛バリウムガラスと呼ばれるものである。その後、漢代にはカリウムを含むカリガラスが、隋唐期には鉛成分が70%に達する高鉛ガラスが主流となる(谷一、1999)。

日本における最初のガラス玉の出現は勾玉に始まるとされ、奈良県の唐古遺跡や福岡県の須玖遺跡、三雲遺跡など各所からガラス製勾玉が出現している(藤田、1989)。谷一(1999)によれば、弥生時代のガラス勾玉の多くは鉛バリウム系で、中国から伝来したガラス製品を砕いて鑄型で成型したものと考えられる。また、飛鳥時代のガラス玉鑄型からは、インドから渡ったとみられる高アルミナソーダ石灰ガラスが検出されている。

岡部・小笠原(1995)のまとめによれば、弥生時代の遺跡からは鉛ガラス、鉛バリウムガラスや東方系のカリガラスが出土するが、鉛ガラスやカリガラスはその後衰退し、古墳時代に入るとアルカリ石灰ガラスが多くなる。北海道のガラス玉で年代の古い4世紀頃のもの(例えば松前トノマ遺跡のガラス玉)

年 代	5世紀	6世紀	7世紀	8世紀	9世紀	10世紀	11世紀	12世紀	13世紀以後
時期区分	----- (オホーツク文化期) ----- (続縄文文化期) ----- (擦文文化期) ----- (中世) -----								
北海道	カリガラス	→	カリ石灰ガラス	-----→	アルカリ石灰ガラス	-----→	鉛ガラス		
サハリン			アルカリ石灰ガラス	-----→	鉛ガラス				
本 州	カリガラス	→	鉛ガラス	→	国産鉛ガラス	--- (一時衰退) -----→	国産鉛ガラス		
			アルカリ石灰ガラス	----- (衰退)					

図1 北海道および本州に出土するガラス玉の材質の変遷 (岡部・小笠原, 1995; 小林, 2000; 水上ら2005参照)

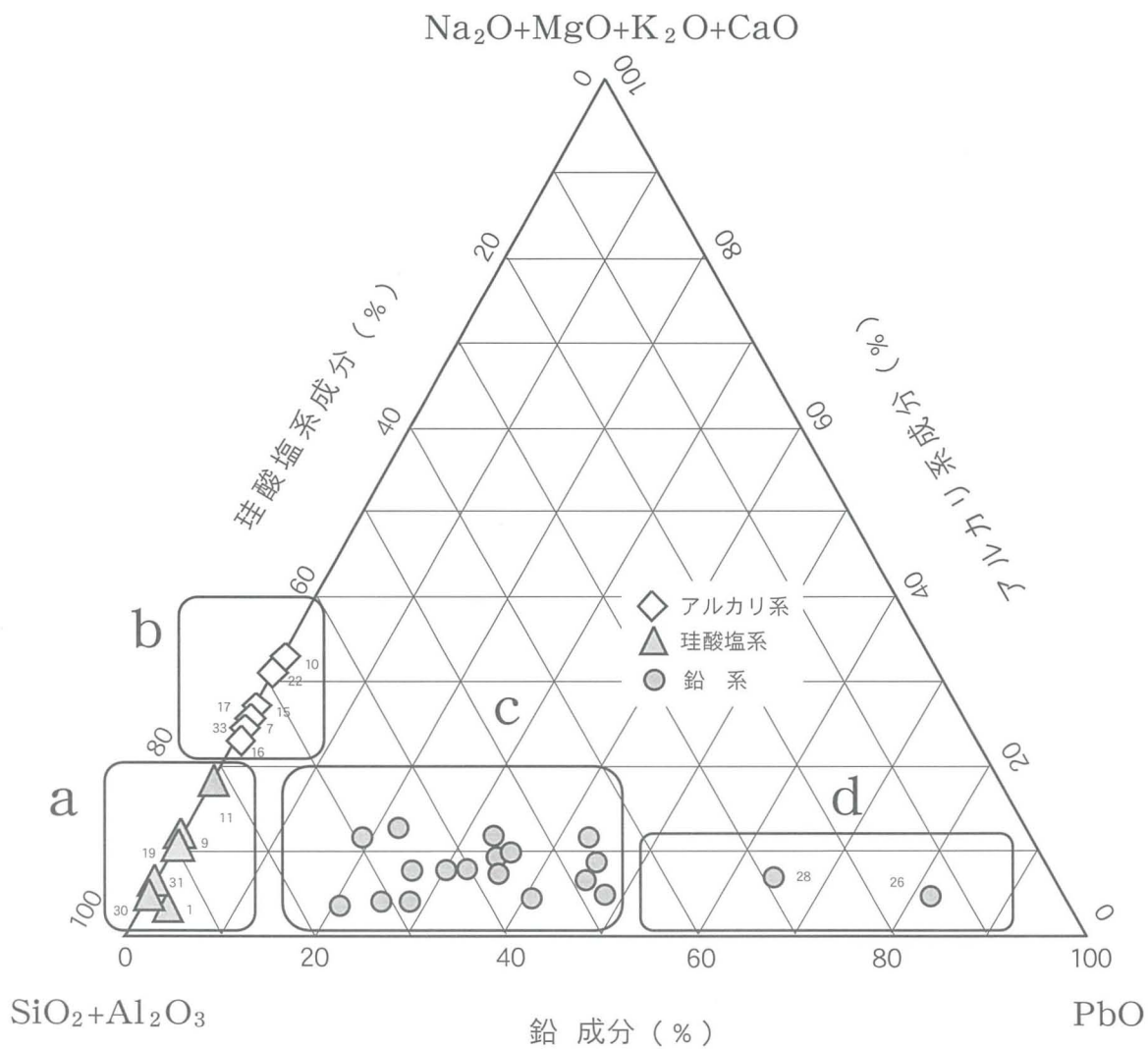


図2 上ノ国遺跡から出土したガラス玉組成の三角相関図（小林：2000，水上ら：2005参照）

- (1) 鉛成分：PbO
- (2) アルカリ系成分：Na₂O + K₂O + CaO + MgO
- (3) 珪酸塩系質成分：SiO₂ + Al₂O₃

- a：珪酸塩系ガラス：鉛成分をほとんど含まない，アルカリ系成分<20%，珪酸塩系質成分>80%のガラス
- b：アルカリ系ガラス：鉛成分をほとんど含まない，アルカリ系成分>20%，珪酸塩系質成分<80%のガラス
- c：鉛ガラス：鉛成分を10~50%含むガラス。
- d：高鉛ガラス：鉛成分を多量に含み（PbO >50%），アルカリ成分，珪酸塩成分の少ないガラス。

もカリガラス系とされる。これ以後のガラスについては北海道と本州の出土品で成分の違いが見られ、本州では、7世紀末に国産の鉛ガラスが現れて、カリガラスやアルカリ石灰ガラスは衰退する。これに対して、北海道では、続縄文期のカリガラスから擦文・オホーツク文化期にはアルカリ石灰ガラスに代わる。鉛ガラスが大量に出現するのは近世になってからである。また、沿海州、サハリンを経由する北方ルートガラスは、擦文・オホーツク文化期にはアルカリ石灰ガラスが主であったが、後世に中国からサハリン経由の交易品として渡ってきたものには鉛ガラスが多い。国産のガラス作りは9～11世紀にかけて衰退するが、12～13世紀頃になると再び国産や中国産のカリウムに富む鉛ガラスが流通するようになる(肥塚, 1996; cf. 斎藤, 2003)。このような日本の中世に至るガラス玉の材質の変遷は、図1のようにまとめられる。

勝山館跡およびその周辺の遺跡から出土したガラス玉は、成分的に見て鉛系ガラスの多いことが特徴である。分析された33試料のうち約60%が鉛系ガラスである。勝山館跡直下の宮ノ沢右岸(旧笹浪家跡)からは、PbO含有率86%の高鉛ガラスも出土している。比石館跡出土のガラス玉にも鉛系ガラスが多い。全体として、アルカリ系ガラスの占める割合は25%程度であり、珪酸塩系ガラスの割合は約15%と少ない。このような特徴は、図1における中世以後のガラス玉の組成に対応するものである。

小林(2000)は、勝山館跡や夷王山からの出土ガラス玉に加えて、北海道の中世遺跡を代表する余市町大川遺跡から出土した多数のガラス玉試料を分析しているが、その結果も中世のガラス玉に鉛を含有するものが多いことを示している。図2は、小林(2000)に倣ってガラス玉の主成分を(A)珪酸系成分($\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3$)、(B)アルカリ系成分($\text{Na}_2\text{O} + \text{MgO} + \text{K}_2\text{O} + \text{CaO}$)、(C)鉛成分(PbO)の三角相関図にプロットしたものである。図における主成分の分布から、勝山館跡周辺出土のガラス玉はa)珪酸塩系ガラス、b)アルカリ系ガラス、c)鉛ガラス、d)高鉛ガラスの4グループに分類され、その分布は小林の示した大川遺跡を中心とするガラス玉の分布に良く一致している。

北海道に出土する中世ガラス玉の生産地と流通経路については、それぞれのガラス玉の形状や組成に差異が大きいことから、一概に論ずることは難しい。岡部・小笠原(1995)は、大川遺跡のガラス玉につい

て成分比の異なるものが多いことや遺跡の性格から、いろいろな地域の年代の異なるガラス玉が集まったものであることを示唆している。勝山館跡とその周辺から出土したガラス玉についても同様のことが言えるが、北海道中世の主要な遺跡である大川遺跡と勝山館跡から出土するガラス玉が組成的に近似した分布を示すことは興味深い。青森県十三湊遺跡から出土したガラス玉(4試料)も比較的PbO含有率の低い鉛ガラスであり(水上ら, 2005)、北海道出土ガラス玉との関連がうかがわれる。

5. おわりに

本報告では、勝山館跡とその周辺の宮ノ沢右岸(旧笹浪家跡)および比石館跡から出土したガラス玉の非破壊分析結果を示した。LV-SEM-EPMAによるガラス玉分析は、試料に損傷を与えないことや電子顕微鏡で観察しながら未風化部分の局所分析が可能であるなどの利点がある。分析の結果、33個の試料のうち約60%が鉛ガラス($\text{PbO} > 10 \sim 50\%$)あるいは高鉛ガラス($\text{PbO} > 50\%$)であること、25%がアルカリ系ガラス($\text{Na}_2\text{O} + \text{K}_2\text{O} + \text{CaO} + \text{MgO} > 20\%$)、残り15%が珪酸塩系ガラス($\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3 > 80\%$)であることが明らかとなった。類似の組成分布は大川遺跡出土のガラス玉にも見られ、北海道中央部から南部地域に出土する中世ガラス玉に共通する可能性がある。

本報告ではデータを示すにとどめたが、ガラス玉の形態や化学組成の解析からその起源や移動経路について検討することは興味深い。ガラス玉の大きさや色と組成の関係については斎藤(2003)の詳細な研究があり、大玉はカリウムの多いアルカリ珪酸塩ガラスが多く、中玉は鉛ガラス、小玉は大玉に比べてナトリウムに富むアルカリ珪酸塩ガラスが多いことなどが報告されている。また、ナトリウム含有率の低い鉛ガラスの鉛同位体比は、肥塚(1996)によって報告された平安・鎌倉時代のガラスの組成に近似していて、日本産の原料が用いられていた可能性を示唆している。今後、このようなガラス玉についての自然科学的な研究が、勝山館跡をはじめとする北海道各地の遺跡のみならず、本州やオホーツクなどの遺跡についても広く行われることにより、詳細な考古学的検証の可能性が高まるものと期待される。

謝辞：本研究のために貴重な試料を提供された、上ノ国町教育委員会の松崎水穂・塚田直哉両氏に謝意

を表します。また、北海道埋蔵文化財センター主任の中田裕香氏には多くの参考資料を頂いたことに感謝いたします。

引用文献

石井進 (2001) 勝山館への招待ー北の世界から日本史を見直すー、『北から見直す日本史』、大和書房、13-26.

岡部雅憲・小笠原正 (1995) 北海道の遺跡から出土したガラス玉の化学組成、『北海道考古学の諸問題』、No.31、北海道考古学会、291-305.

加藤晃一・干谷洋平・小笠原正明 (2002) 北海道の擦文時代後期の穂香堅穴群から出土したガラス製玉の非破壊分析と産地分析、『日本文化財化学会第19回大会研究発表要旨集』、日本文化財学会、82-83.

小林幸雄 (1988) 北海道における伝世ガラス玉の材質・技法について、『北海道開拓記念館研究年報』、第16号、北海道開拓記念館、39-50.

小林幸雄 (2000) 北海道中世のガラス玉の材質検討、『北の文化交流史研究事業、研究報告』、北海道開拓記念館、83-97.

斎藤亜三子 (2003) 『アイヌ民族のガラス玉に関する考古化学的研究』、財団法人アイヌ民族博物館、pp.129.

斎藤亜三子・榎本順子・平尾良光 (2001) 香深井遺跡から出土したガラスビーズの自然科学的研究、『香深井6遺跡発掘調査報告書』、礼文町教育委員会、126-134.

咲山まどか・赤沼英男 (1998) 美々8遺跡出土ガラス玉の蛍光X線分析法による分析、『調査年報10』、北海道埋蔵文化財センター、99-104.

谷一 尚 (1999) 『ガラスの考古学』、同成社、pp.203.
田村美智子 (1985) アイヌ玉について、『南川2遺跡』、瀬棚町教育委員会、107-109.

二宮修治・鈴木和博・山路進・大沢真澄 (1980) 出土ガラス玉の組成について、『ライトコロ川口遺跡』、東京大学文学部考古学研究室 常呂研究室、138-151.

肥塚隆保 (1993) 有珠オヤコツ遺跡出土のガラス小玉の材質調査、『伊達市有珠オヤコツ遺跡・ポンマ遺跡』、伊達市教育委員会、103-106.

肥塚隆保 (1996) 日本に出土した古代ガラスの歴史の変遷に関する科学的研究、『博士学位論文』、1996 cf. 斎藤 (2003).

藤田富士夫 (1989) 『玉』考古学ライブラリー、ニューサイエンス社、pp.119.

松崎水穂 (2001) 勝山館遺跡とその城下の謎ー発掘調査二〇年の成果と展望ー、『北から見直す日本史』、大和書房、181-290.

水上正勝・中村和之・竹内 孝・榊原滋高 (2005) 十三湊遺跡から出土したガラス玉の非破壊分析、『十三湊遺跡』、青森県教育委員会 (印刷中)

Nondestructive analysis of the glass beads collected at the ruins in Kaminokuni-town (Katsuyamadate and other ruins)

Masakatsu Mizukami, Kazuyuki Nakamura, Takashi Takeuchi and Daisuke Kudo

Hakodate National College of Technology, Hakodate, Hokkaido 042-8501, Japan

The glass beads (33 samples) collected at the Katsuyamadate and some other ruins in Kaminokuni-town of Hokkaido were chemically analyzed by using low-vacuum scanning electron microscope (LV-SEM) equipped with energy-diffraction type electron probe micro-analyzer (EPMA). The results of analysis showed that about 60% of the glass beads are composed of Pb-type glass ($\text{PbO} = 10\sim 80\%$), 25% are alkaline-type glass ($\text{Na}_2\text{O} + \text{K}_2\text{O} + \text{CaO} + \text{MgO} > 20\%$) and 15% are silicate-type glass ($\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3 > 80\%$). The proportion of these three-type glasses may be common to the glass beads collected at the ruins in the central to south area of Hokkaido.

V. 上之国勝山館跡から出土した花粉・孢子、種子、寄生虫卵について

山田 悟郎

1. 試料について

上之国勝山館の平成16年度の発掘調査では28K20、28J11・12・16・17グリッドに位置した沢1と、27J18・19・23・24、28J3・4・9・10・13・14・15・20グリッドに位置した沢2、28K24グリッドの132号墓、28K18グリッドの134号墓、28K25グリッドの138号墓などが発掘された。ここで取り扱った花粉分析用土壌試料は、沢1の28J16グリッドから採取された暗灰色な亜角礫を含む泥質堆積物で、堆積物中からは木製品が中心となって陶磁器、鉄・銅製品、獣骨が出土している。

種子等の同定は沢1の28J16、28K20、28K24、沢2の28J4と132号墓、134号墓、138号墓の堆積物をフローテーション(浮遊選別)作業して採取された、105パックの試料を対象として行った。

2. 試料の処理方法

花粉分析にあたっては、堆積断面に塩化ビニール管を打ち込んで採取した6点の試料を用いた。堆積物50gを500cc ビーカーにとり、下記の順に化学・物理処理を行いプレパラートを作成した。

アルカリ処理(24時間)ー水洗(1日に2回上澄み液の交換を12日間)ー砂礫の除去ー比重分離(試料を50cc 遠沈管にとり脱水後、比重を2.1の塩化亜鉛液を加えて攪拌後、1000r.p.m.で60分間遠心分離)ー水洗(比重液に浮いた部分をとりだし、遠心分離で3回)ーアセトリシス処理(試料に氷酢酸を加えて脱水後、濃硫酸：無水酢酸の1：9液を加えて2分間湯煎、遠心分離で混合液を除去後、氷酢酸で洗浄)ー水洗(遠心分離で3回)ーフッ化水素酸処理(試料をプラスチック製遠沈管に移して水分を除去し、フッ化水素酸を加えて24時間放置)ー水洗(遠心分離で3回)

検鏡にあたっては生物顕微鏡を使用し、通常は接眼×10、対物×40のレンズを用いて同定を行い、必要に応じて×100の油浸レンズを使用した。検鏡にあたっては樹木花粉を200個以上数えるまでにレンズ下に出現した花粉・孢子を無作為に同定・計数するように努めたが、樹木花粉を200個以上数えることができた試料はなかった。したがって、表示にあたっては各試料から検出された花粉・孢子の数を試

料ごとに表示した(第1表)。表示にあたり、形態が類似し区分が難しいものについては、－(ハイフォン)で結んで表示した。プレパラートの観察で確認できた寄生虫卵の数についても、試料ごとに表示した(第2表)。また、種子等の同定には実体顕微鏡を使用した。

3. 花粉分析結果について

1) 検出された花粉・孢子

6点の試料から第1表に示したように、樹木花粉23属、草本花粉4属17科、孢子3科と、形態分類孢子2種類が検出された。その内訳は下記のとおりである。

樹木花粉：針葉樹のモミ属、トウヒ属、マツ属、スギ、落葉広葉樹のヤナギーハコヤナギ属、クルミ属、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属、ハシバミ属、ブナ属、コナラ亜属、クリ属、ニレ属、モクレン属、キハダ、サクラーナナカマド属、カエデ属、シナノキ属、トチノキ、ウルシ属、イボタノキ属、ニワトコ属

草本花粉：クワイラクサ科、ソバ、タデ科、ナデシコ科、キンポウゲ科、アブラナ科、バラ科、マメ科、タラノキ属、セリ科、オミナエシ科、キキョウ科、アリノトウグサ科、ヨモギ属、キク亜科、タンポポ科、イネ科、カヤツリグサ科、ユリ科、ミズバショウ属

孢子：トクサ科、ゼンマイ科、ヒカゲノカズラ科
形態分類孢子：単溝型孢子、三溝型孢子

2) 花粉・孢子の出現傾向

最下位の試料 No.106からは僅かの花粉・孢子が検出されただけであったが、上位の試料からは比較的多く検出された。全般に樹木花粉では針葉樹のモミ属、トウヒ属、マツ属と落葉広葉樹のハンノキ属、コナラ亜属、ニレ属、カエデ属が多く、草本花粉ではタデ科、アカザ科、ナデシコ科、アブラナ科、セリ科、ヨモギ属、イネ科と孢子の単溝型孢子が多い構成を示し、下位から上位に向けて出現傾向に大きな変化はみられない。

このほかに僅かではあるが、栽培種のソバと赤道径が45ミクロンを越える栽培種と推定されるイネ科花粉がほぼ連続して検出された。また、比較的多く

産出している草本のタデ科、アカザ科、ナデシコ科、アブラナ科は、畑地雑草の可能性が高い。

4. 寄生虫卵について

6点の各試料から第2表に示したように、回虫卵(PL26-23~24)、鞭虫卵(PL26-27~28)、広節裂頭条虫卵(PL26-25~26)、吸虫卵が検出された。上位のNo.101とNo.102からは回虫卵は検出されないが、No.103から下位のNo.106までの試料中から10個に満たないが回虫卵が連続して検出された。鞭虫卵と広節裂頭条虫卵は各試料から連続して検出され、吸虫卵は上位で僅かに検出されるだけであった。広節裂頭条虫卵については日本海裂頭条虫卵の可能性が高い。

5. 種子について

105パックの試料には菌核、ミミズ類の卵、スギナの根粒、クチン質な昆虫の卵・器官の一部・サナギ、植物の器官の一部・冬芽・刺針と種子や穎果が含まれていた。種子の中には摩耗したものや破片のため同定できなかったもの、筆者の知識不足で同定できなかったものもあった。科・属・種の同定ができたものは39種類の穎果・種子で、その内訳は下記のように栽培種7種、野生種32種で、野生種のうち13種については果実や新芽・根茎が食用できる。

栽培種

カキ (*Diospyros kaki*) : 側面形が半月形で上面観が扁平。28 J 16区 No.112から1粒出土。PL27-5は長さ15.5mm、幅6.75mm。

アサ (*Canabis sativa*) : 卵形もしくは扁平で、縦に2条の稜角があり、臍がある。保存状態がよいものでは種子の表面に網目状の脈網がみられる。28 J 16区 No.1から多数、No.2~3とNo.77から各1粒出土。PL27-4はNo.1出土で、長さ3.7mm、直径3.1mm。

ベニバナ (*Carthamnus tinctorius*) : 摩耗しているが扁平な倒卵形で、側面に4本の稜角があり、他の面よりは短い面に臍がある。28 J 16区 No.23から1粒出土。PL27-6は長さ5.3mm、幅3.4mm。

ユウガオ (*Lagenaria siceraria* var. *hispida*) : 上面観は先端が細まった縦長の五角形で、周辺が隆起し中央部がくぼみ、角は丸い。側面観は扁平。28 J 16区 No.45とNo.108から各1粒出土。PL27-9はNo.45出土で、長さ13.8mm、幅7.5mm。

ソバ (*Fagopyrum esculentum*) : 側面観が三角形で3稜をもつ。28 J 16区 No.107から3粒出土。PL

27-3は長さ3.7mm、幅3.3mm。

キビ穎果 (*Panicum miliaceum*) : 広卵形で背面に果長の1/2ほどの胚があり、反対側の面にはへら状の臍がある。28 J 16区 No.5から1粒出土。PL27-1は長さ1.5mm、幅1.2mm。

コメ穎果 (*Oryza sativa*) : 側面観は楕円形で上面観は扁平。穎の背面に縦溝があり、腹面下部胚がある。28 J 16区 No.80から1粒出土。長さ4.0mm、幅3.0mm。

野生種

ハウノキ (*Magnolia obovata*) : 側面観が卵形、上面観が腎臓形で幾分偏圧され、一方の面に縦に広い溝をもち、基部近くに臍がある。28 J 16区 No.10から2粒、No.11から1粒出土。PL27-14はNo.10出土で、長さ9.4mm、幅8.2mm。

コブシ (*Magnolia kobus*) : 側面観は広卵形、上面観は腎臓形で基部に大きな臍がある。ハウノキに比べ臍の位置が基部近くにあり、核の形状もハウノキよりも大きい。28 J 16区 No.12から2粒出土。長さ7.7mm、幅9.4mm。

ガマズミ属 (*Viburnum* sp.) : 28 J 16区 No.18から2粒、No.19から1粒出土。PL28-6はNo.18出土で、長さ5.6mm、幅4.1mm。

マタタビ属 (*Actinidia arguta*) : 側面観は楕円形、上面観はレンズ状。表面には規則的に配列した穴が分布。28 J 16区 No.28から4粒、No.75から2粒出土。PL28-8はNo.28出土で、長さ2.3mm、幅1.4mm。

ヤマグワ (*Morus bombycis*) : 三角形で一端が尖り、他端は丸い。28 J 16区 No.40から3粒、No.63から2粒、No.69から1粒出土。PL28-13はNo.40出土で、長さ1.6mm、幅2.1mm。

タラノキ属 (*Aralia* sp.) : 側面観は一端が尖った半月形で、上面観は扁平な楕円。背軸に浅い溝がある。表面はざらつく。28 J 16区 No.42とNo.53から各3粒出土。PL28-10はNo.42出土で、長さ1.5mm、幅2.1mm。

サクラ属 (*Prunus* sp.) : 側面観は先端がわずかに尖った楕円形、上面観は楕円形。側面には縫合線が発達する。28 J 16区 No.65とNo.68から各1粒出土。PL28-2はNo.65出土で、長さ5.6mm、幅4.8mm。

ブドウ属 (*Vitis* sp.) : 側面観は卵形、上面観は楕円形。腹面には二つの穴があき、背面には臍がある。28 J 16区 No.87から3粒出土。PL27-15は長さ5.1mm、幅4.2mm。

キハダ (*Phellodendron amurense*) : 半月形で一

第1表 沢1堆積物から検出された花粉・孢子

試料名	No.101	No.102	No.103	No.104	No.105	No.106
モミ属	9	9	1	7	1	3
トウヒ属	6	15	4	2	1	1
マツ属	11	14	4	10	3	2
スギ属	-	-	1	-	-	-
ヤナギ-ハコヤナギ属	3	2	4	1	1	-
クルミ属	5	2	1	1	1	-
ハンノキ属	33	17	6	4	4	3
カバノキ属	2	4	2	1	1	1
クマシデ属	1	-	-	1	1	-
ハシバミ属	2	1	-	-	-	-
ブナ属	5	1	-	-	-	-
コナラ亜属	27	9	13	11	16	2
クリ	2	3	1	1	1	-
ニレ属	11	3	4	3	2	2
モクレン属	1	1	-	-	-	-
キハダ属	1	3	1	1	1	-
サクラ-ナナカマド属	1	1	1	1	1	-
カエデ属	8	9	3	5	2	2
シナノキ属	4	2	1	2	1	1
トチノキ	1	-	-	-	-	-
ウルシ属	5	2	1	1	1	-
イボタノキ属	1	-	-	-	-	-
ニワトコ属	1	-	-	-	-	-
クワ-イラクサ科	-	1	-	1	-	-
タデ科	9	7	5	2	5	2
ソバ属	3	1	2	1	-	-
アカザ科	43	63	39	24	29	5
ナデシコ科	15	20	22	21	3	2
キンポウゲ科	3	1	2	1	2	1
アブラナ科	22	27	11	12	7	8
バラ科	2	1	1	1	1	1
マメ科	1	-	-	-	-	-
タラノキ属	8	3	4	5	1	1
セリ科	11	6	9	5	6	1
オミナエシ科	1	-	-	-	-	-
キキョウ科	1	-	-	-	-	-
アリノトウグサ科	1	1	-	-	-	-
ヨモギ属	34	26	34	23	34	6
キク亜科	7	3	2	2	3	2
タンポポ亜科	1	2	-	-	-	-
イネ科	143	138	61	44	73	33
イネ科 (>48 ミクロン)	13	21	15	12	23	4
カヤツリグサ科	2	-	-	1	1	-
ユリ科	1	-	-	-	-	-
ミズバショウ属	1	-	-	-	-	-
トクサ科	1	1	-	-	1	-
ゼンマイ科	3	1	1	1	1	-
ヒカゲノカズラ科	5	1	2	5	1	1
単溝型孢子	109	87	32	45	24	11
三溝型孢子	2	1	1	1	1	2
合計(個)	582	510	291	259	254	97

第2表 沢1堆積物から検出された寄生虫卵

試料名	No.101	No.102	No.103	No.104	No.105	No.106
回虫	-	-	1	2	5	8
鞭虫	17	19	16	22	17	48
日本海裂頭条虫	13	11	8	9	5	13
吸虫	1	2	-	-	-	-

側面にいくぶん細長い臍があり、全体に微細な網目が発達している。28 J 16区 No.88から 3 粒出土。PL27-10は長さ4.9mm、幅2.8mm。

キイチゴ属 (Rubus sp.) : 腎臓形で表面に深い網目がある。28 J 16区 No.89から 1 粒、No.90から 3 粒出土。PL27-11は No.89出土で、長さ1.8mm、幅2.5mm。

サンショウ (Zanthoxylum piperitum) : 側面観は楕円形、上面観は卵形。表面に小さな網目模様があり、一端の側面に臍がある。28 J 16区 No.95から 1 粒出土。PL27-7は長さ4.5mm、幅3.3mm。

ミズキ (Cornus controversa) : 側面観が横長の楕円形、上面観は楕円形。上端がいくぶん尖り下端に臍があり、表面に溝がある。28 J 16区 No.93から 2 粒出土。PL27-12は長さ5.1mm、幅5.1mm。

イチイ (Taxus cuspidata) : 卵円形で先が尖り、わずかに角があつて、基部に臍がある。28 J 16区 No.64から 1 粒出土。PL27-16は長さ5.4mm、幅4.9mm。

クサギ (Clerodendron trichotomum) : 側面観は楕円形、上面観は三日月型。背軸面に網目状の模様があり、向軸面は平滑。28 J 16区 No.85から 1 粒出土。PL28-13は長さ5.4mm、幅4.3mm。

クスノキ科 (Lauraceae) : ほぼ球形で、一端に短い稜が発達する。28 J 16区 No.16から 3 粒、No.31から 2 粒と28K20区 No.15から 1 粒出土。PL28-12は No.15出土で、長さ6.85mm、幅5.3mm。なお、クスノキ科は北海道には自生しない樹木である。

ウルシ属 (Rhus sp.) : 側面観は腎臓形で、上端にこぶがあり、下端には溝がある。上面観は扁平。28J16区 No.59から 1 粒出土。PL28-5は長さ2.8mm、幅3.7mm。

エゾニワトコ (Sambucus sieboldiana) : 側面観は楕円形、上面観は扁平な楕円。全体にしわ状模様が発達。28 J 16区 No.13から 6 粒出土。PL28-3は長さ2.4mm、幅1.4mm。

タデ属 (Polygonum sp.) : 側面観は狭卵形、上面観が鈍い三角形で基部に臍がある。28 J 16区 No.7から 7 粒、No.44から 3 粒、No.94から 4 粒と、28 K20区 No.6から 2 粒と No.8から 5 粒出土。PL28-4は No.6出土で、長さ3.8mm、幅2.2mm。

アカザ属 (Chenopodium sp.) : 側面観は円形で、上面観は両凸レンズ。色は黒色で光沢がある。28 J 16区 No.92から 4 粒出土。径 1 ~ 1.3mm。

ナデシコ科 (Caryophyllaceae) : 側面観は腎臓形、

上面観は扁平。腹面がくぼむ臍があり、全体にイボ状突起がある。28 J 16区 No.46から 5 粒出土。径1.1 ~ 1.3mm。

スミレ科 (Violaceae) : 側面観は先端が細く尖った卵形、上面観は円形で、表面に細かなくぼみが配列。28 J 16区 No.5から 1 粒、28K24区 No.24から 1 粒出土。長さ1.4mm、幅1.1mm。

マメ科 (Leguminosae) : 側面観は楕円形、上面観は扁平。腹面の中央にくぼんだ臍がある。臍はほぼ円形で臍条がある。28 J 16区 No.17から 2 粒出土。長さ2.0mm、幅3.0mm。

ナス科 (Solanaceae) : 側面観はほぼ円形で、一端がわずかにくぼむ臍があり、上面観は扁平。表面には絡み合った網目状の模様がある。28 J 16区 No.27から 1 粒、No.29から 4 粒、No.33から 1 粒、No.91から 4 粒出土。PL28-7は No.27出土で、長さ2.1mm、幅2.6mm。

バラ科 (Rosaceae) : 半月形で背が丸く腹面は平らで、しわが発達している。28 J 16区 No.38から 1 粒出土。長さ2.4mm、幅4.3mm。

キカラスウリ (Trichosanthes kirilowii var. japonica) : 側面観は長楕円形で、縁辺部が隆起し中央部がくぼむ。上面観は扁平。28K20区 No.41から 1 粒出土。PL28-1は長さ12.6mm、幅8.4mm。

キンポウゲ科 (Ranunculaceae) : 側面観は扁平広卵形で先端が尖る。縁辺部がわずかに肥厚し基部は細くなっている。28 J 16区 No.52から 3 粒出土。長さ1.8mm、幅0.9mm。

セリ科 (Umbelliferae) : 側面観は楕円形で一端が尖り、上面観は扁平な楕円。中央に状がある。28 J 16区 No.62から 1 粒出土。PL28-8は長さ3.9mm、幅2.0mm。

ヒルガオ科 (Convolvulaceae) : 側面観は倒卵形、上面観はほぼ円形。円頭で背面はいくぶん隆起して丸く、下端はくぼみ臍がある。表面にはイボ状突起が分布する。28 J 16区 No.78から 1 粒出土。PL28-9は長さ4.85mm、幅3.3mm。

ヒエ属穎果 (Echinochloa sp.) : 穎果は広楕円形で、背面に果長の2/3を占める楕円形の胚があり、反対側の面にへら状の臍がある。28 J 16区 No.9から 1 粒出土。PL27-2は長さ2.0mm、幅1.3mm。

イネ科 (Gramineae) : 側面観が扁平卵形で、全面に網目状斑紋が分布する。28 J 16区 No.54と No.73から各 1 粒、28K20区 No.35から 2 粒出土。長さ1.9mm、幅1.1mm。

オモダカ科 (Alismataceae)：側面観はゆがんだ倒卵形、上面観は扁平。果皮はやや厚いが軟らかい。周囲は翼状となり広がり、向軸側の上部は針状に尖る。28 J 16区 No.14から6粒、28K20区 No.96から1粒出土。PL28-14は No.14出土で、長さ3.0mm、幅1.9mm。

カヤツリグサ科 (Cyperaceae)：側面観は広倒卵形で、上面観は扁平な両凸レンズ形。28 J 16 区 No. 72から1粒出土。PL28-11は長さ4.0mm、幅2.3mm。

6. 沢1、沢2周辺の古環境について

1) 植生について

沢を埋積した堆積物から検出された花粉・胞子の構成から、沢周辺にはヤナギ類、オニグルミ、ハンノキ、シラカンバ、サワシバ、ハシバミ、ブナ、ミズナラ・コナラ、クリ、ハルニレ、コブシ・ホウノキ、エゾヤマザクラ、ハウチワカエデ・イタヤカエデ、キハダ、シナノキ、トチノキなどからなる落葉広葉樹林が分布していたと推定される。落葉広葉樹林の中で優占していたのはハンノキとミズナラであった。モミ属、トウヒ属、マツ属花粉も多く出現しているが、これら針葉樹花粉については背後の山地もしくは本州から風で運ばれ堆積したものと推定される。

草本花粉が樹木花粉よりも多く検出され、タラノキ属、セリ科、ヨモギ属、イネ科、単溝型胞子などが多いことから、沢周辺には日当たりの良い開けた草地が広がっていたと推定される。

また、ソバと栽培種の可能性が強い大型のイネ科花粉が検出され、タデ科、アカザ科、ナデシコ科、アブラナ科といった畑地雑草が多く検出されていることから、沢周辺にはソバやキビなどを栽培した耕作地が存在した可能性が強い。ソバの花粉は1984年に行われた勝山館跡の発掘調査で、25M24と26Gの2個所で採取された土壤中からも検出されていて、館内でソバ栽培が行われていたものと推定されていた(山田、1985)。

回虫、広節裂頭条虫、鞭虫、吸虫といった寄生虫卵の存在は、周囲から糞便が流れ込んでいた状況を示すもので、耕作地に肥料として撒かれた人糞が、雨水によって洗い出され沢に流れ込んだ結果かもしれない。

なお、上ノ国町内の笹浪屋敷跡の低湿地堆積物中からも回虫卵、鞭虫卵、広節裂頭条虫卵、吸虫卵が検出されており(山田、2000)、17世紀中葉以前に館

内や城下町に居住していた人々が寄生虫に悩まされていたことが明らかとなった。

2) 利用された栽培種および野生種

アサ、ベニバナ、ユウガオ、キビ、ソバ、コメ、カキといった7種類の栽培種の穎果や種子が検出された。キビとソバ、アサについては擦文時代にも道内で栽培されていた作物で、当地で栽培されていた可能性が強い。ベニバナ、ユウガオ、コメ、カキについては本州から持ち込まれていたのであろう。カキについては北海道で初めての出土で、それが生の状態で持ち込まれたのか、干柿の状態で持ち込まれたのか興味深いところである。

このほかに北海道には自生しないクスノキ科種子も出土しており、本州からいろいろな植物も持ち込まれていたことを示している。なお、松谷(1992)では勝山館跡から北海道には自生しないムクロジの種子の出土が報告されていた。

野生種のホウノキ・コブシ、ガマズミ属(オオカメノキ)、マタタビ属(サルナシ・マタタビ)、ヤマグワ、イチイ、サクラ属(エゾヤマザクラ)、ブドウ属(ヤマブドウ)、キハダ、キイチゴ属(ナワシロイチゴ)、ミズキは果実が食用でき、タラノキ属(ウド・タラノキ)は新芽と根茎が食用でき、サンショウについては若葉が汁や和え物に用い、果実を香辛料として、種子を除いたものは健胃薬として利用できる。

その他のタデ属、アカザ属、ナス科、ナデシコ科種子については畑地雑草として分布していたものかもしれない。オモダカ科とカヤツリグサ科については水辺もしくは水面に分布したもので、他の種子は草地に分布した雑草である。なお、キカラスウリは現在も勝山館周囲で見ることができる。

引用・参考文献

松谷暁子(1992)「勝山館跡出土植物遺残の識別(1990、1991年度発掘)」『史跡上之国勝山館跡XⅢ』p.57-58、上ノ国町教育委員会

山田悟郎(1985)「勝山館跡の古環境について」『史跡上之国勝山館跡Ⅵ』p.133-141、上ノ国町教育委員会

山田悟郎(2000)「低湿地性堆積物から検出された花粉・胞子と寄生虫について」『史跡上之国勝山館跡XⅩⅠ』p.72-76、上ノ国町教育委員会

第3表 勝山館跡から出土した植物遺体(1)

No.	グリッド	出土遺構	層位	数量	出土物名
1	28J16	沢1	暗灰色木質層(黄色下⑦)	多数	アサ
2	28J16	沢1	暗灰色木質層(黄色下⑦)	5	1点はアサ、他はミミズの卵
3	28J16	沢1	暗灰色木質層(黄色下⑦)	5	1点はアサ、他は菌核
4	28J16	沢1	暗灰色木質層	3	菌核
5	28J16	沢1	暗灰色木質層(黄色下⑦)	8	キビ、スミレ科、他は菌核
6	28K20	沢1	暗灰色木質層(黄色下⑦)	2	タデ属
7	28J16	沢1	暗灰色木質層(黄色下⑦)	7	タデ属
8	28K20	沢1	暗灰色木質層(黄色下⑦)	5	タデ属
9	28J16	沢1	暗灰色木質層(黄色下⑦)	7	1点がヒエ属、他はミミズの卵
10	28J16	沢1	暗灰色木質層(黄色下⑦)	2	ハウノキ
11	28K20	沢1	暗灰色層	1	ハウノキ
12	28J16	沢1	暗灰色木質層(黄色下⑦)	2	コブシ
13	28J16	沢1	暗灰色木質層(黄色下⑦)	6	エゾニワトコ
14	28J16	沢1	暗灰色木質層(黄色下⑦)	6	オモダカ科
15	28K20	沢1	暗灰色木質層(黄色下⑦)	1	クスノキ科
16	28J16	沢1	暗灰色木質層	3	クスノキ科
17	28J16	沢1	暗灰色木質層	2	マメ科
18	28J16	沢1	暗灰色木質層(黄色下⑦)	2	ガマズミ属
19	28J16	沢1	暗灰色木質層	2	1点はガマズミ属、もう1点は不明
20	28K23・24	132号墓	覆土	1	昆虫の卵
21	28K23・24	132号墓	覆土	1	ミミズの卵
22	28K18	134号墓	覆土	1	菌核
23	28J16	沢1	暗灰色木質層	1	ベニバナ
24	28K24	138号墓	覆土	1	スミレ科
25	28J4	沢2	Ⅲe(焼土1)層	1	スギナの根粒
26	28J4	沢2	Ⅲe(焼土1)層	1	スギナの根粒
27	28J16	沢1	暗灰色	1	ナス科
28	28J16	沢1	暗灰色木質層(黄色下⑦)	4	マタタビ属
29	28J16	沢1	暗灰色木質層(黄色下⑦)	4	ナス科
30	28J16	沢1	暗灰色木質層	1	破片なので同定不能
31	28J16	沢1	暗灰色木質層	2	クスノキ科
32	28J16	沢1	暗灰色	3	破片なので同定不能
33	29K20	沢1	暗灰色	1	ナス科
34	28K24	沢1	暗灰色	2	摩耗しているので同定不能
35	28K20	沢1	暗灰色	2	イネ科
36	28J16	沢1	暗灰色木質層	1	昆虫の卵
37	28J16	沢1	暗灰色木質層(黄色下⑦)	1	昆虫の卵
38	28J16	沢1	暗灰色木質層	1	バラ科
39	28K20	沢1	暗灰色	1	昆虫の卵
40	28J16	沢1	暗灰色木質層	3	ヤマグワ
41	28K20	沢1	暗灰色	1	キカラスウリ
42	28J16	沢1	暗灰色木質層	3	タラノキ属
43	28J16	沢1	暗灰色木質層	2	菌核
44	28J16	沢1	暗灰色木質層	3	タデ属
45	28J16	沢1	暗灰色	1	ユウガオ
46	28J16	沢1	暗灰色木質層	5	ナデシコ科
47	28J16	沢1	暗灰色木質層	3	摩耗しているので同定不能、形態はスイレン科に類似
48	28J16	沢1	暗灰色	1	昆虫の器官
49	28J16	沢1	暗灰色木質層	2	植物の器官
50	28J16	沢1	暗灰色木質層	1	不明
51	28J16	沢1	暗灰色木質層	1	昆虫のサナギ
52	28J16	沢1	暗灰色木質層	3	キンボウゲ科
53	28J16	沢1	暗灰色木質層(黄色下⑦)	3	タラノキ属
54	28J16	沢1	暗灰色木質層	2	1点はイネ科、他は昆虫の卵
55	28J16	沢1	暗灰色木質層	1	菌核
56	28J16	沢1	暗灰色木質層	2	昆虫の卵、もしくはサナギ
57	28J16	沢1	暗灰色木質層	1	植物の器官
58	28J16	沢1	暗灰色木質層(黄色下⑦)	2	昆虫の器官
59	28J16	沢1	暗灰色木質層	1	ウルシ属

第3表 勝山館跡から出土した植物遺体(2)

No.	グリッド	出土遺構	層位	数量	出土物名
60	28J16	沢1	暗灰色木質層	1	動物質
61	28J16	沢1	暗灰色木質層	1	昆虫の器官
62	28J16	沢1	暗灰色木質層(黄色下⑦)	1	セリ科
63	28J16	沢1	暗灰色木質層	2	ヤマグワ
64	28J16	沢1	暗灰色木質層(黄色下⑦)	1	イチイ
65	28J16	沢1	暗灰色木質層(黄色下⑦)	1	サクラ属
66	28J16	沢1	暗灰色木質層(黄色下⑦)	1	炭化材片
67	28J16	沢1	暗灰色木質層(黄色下⑦)	1	摩耗が著しく同定不能
68	28J16	沢1	暗灰色木質層	1	サクラ属
69	28J16	沢1	暗灰色木質層	1	ヤマグワ
70	28J16	沢1	暗灰色木質層	2	昆虫
71	28J16	沢1	暗灰色木質層	1	昆虫
72	28J16	沢1	暗灰色木質層	1	カヤツリグサ科
73	28J16	沢1	暗灰色木質層	1	イネ科
74	28J16	沢1	暗灰色木質層	1	昆虫の糞
75	28J16	沢1	暗灰色木質層	2	マタタビ属
76	28J16	沢1	暗灰色木質層	1	昆虫のサナギ
77	28J16	沢1	暗灰色木質層	1	アサ
78	28J16	沢1	暗灰色木質層	1	ヒルガオ科
79	28J16	沢1	暗灰色木質層	2	1点は菌核、他は不明
80	28J16	沢1	暗灰色木質層	2	コメ、他の一点は不明
81	28J16	沢1	暗灰色木質層	1	不明
82	28J16	沢1	暗灰色木質層	1	植物の器官
83	28J16	沢1	暗灰色木質層	1	不明
84	28J16	沢1	暗灰色木質層	1	種子ではなく、動物質
85	28J16	沢1	暗灰色木質層	1	クサギ
86	28J16	沢1	暗灰色木質層(黄色下⑦)	1	冬芽
87	28J16	沢1	暗灰色木質層	3	ブドウ属
88	28J16	沢1	暗灰色	3	キハダ
89	28J16	沢1	暗灰色	1	キイチゴ属
90	28J16	沢1	暗灰色木質層	3	キイチゴ属
91	28J16	沢1	暗灰色木質層(黄色下⑦)	4	ナス科
92	28J16	沢1	暗灰色	4	アカザ属
93	28J16	沢1	暗灰色	2	ミズキ
94	28J16	沢1	暗灰色木質層	4	タデ属
95	28J16	沢1	暗灰色木質層	1	サンショウ
96	28K20	沢1	暗灰色木質層(黄色下⑦)	1	オモダカ科
97	28J16	沢1	暗灰色木質層	1	刺針
98	28J16	沢1	暗灰色木質層	1	昆虫の卵
99	28J16	沢1	暗灰色木質層	3	昆虫の卵
107	28J16	沢1	暗灰色木質層(黄色下⑦)	3	ソバ
108	28J16	沢1	暗灰色木質層	1	ユウガオ
109	28J16	沢1	暗灰色木質層	1	昆虫のサナギ
110	28J16	沢1	暗灰色木質層	1	昆虫のサナギ
111	28J16	沢1	暗灰色木質層	1	不明
112	28J16	沢1	暗灰色木質層	1	カキ

VI. まとめ

勝山館の後方の防禦が弱いとの指摘が予ねてから指摘されていた。これと表裏するかのように、アイヌとの戦いに備えて築かれた山城勝山館の背後を取り囲むように夷王山の山麓に六地区に跨って分布する墳墓群が、アイヌには墓参などの習慣がなく、むしろ墓地への立ち入りを強く忌避することなどと関係づけて防禦の一端を担ったとの見方が巷間に伝えられてもいた。

また、館主体部の南東部、一段低い華ノ沢地内に倉庫を主体とする遺構が検出されているが、同地内への通路は勝山館跡搦手空壕の外側に位置しており、その防備に若干の懸念を生じていた。

16年度はこれらの確認を行うべく遺構調査を実施した。

調査の結果、既述のとおり旧地形を大きく改変した防禦施設等は存在していなかった。しかしながら、かつての調査で大量の遺物が出土した、ゴミ捨場を形成する西側の斜面は沢地形となって南西に延びているが、夷王山墳墓群第Ⅰ地区北東部に近づくに従い、壕状に深くなっていることが判明した(第3、6図、PL6、9)。この沢地の対岸には墳墓群第Ⅰ地区の北端部が続いてきていることが明らかとなったが、この墳墓を削って作り出した平坦面の一部も確認された。トレンチ調査であり、全体の規模などは明らかでないが、墓壙よりも新しい柱間5.5尺等間、1×4間の柱列が想定された(第9図)。この柱列は、西部で平坦部の作出に伴って形成されたと推される小さな段を跨ぎ、東部は沢Ⅰ西斜面内に達している。又、この西斜面には土壌2、3が半欠状態で検出されている(第6図)。これらのことから、この沢Ⅰ西対岸部では、墳墓の形成、平坦面の造成、柱列の構築、土壌2、3の形成・破壊(崩落?)等が段階的に行われていることが想定される。又、沢地形とした沢Ⅰそのものにも手が加えられているとも推される。本年度の調査ではこれらの明確な経緯、目的を明らかにすることはできなかった。

沢Ⅰ東部で検出の整地盛土層(Ⅲa～Ⅲd)は最大部で80cmの厚さを測るものであった。この整地盛土層の基底をなす凹地地形の上面に堆積する沢ⅡとしたⅢe層中の陶磁器と沢Ⅰ下部堆積層中の陶磁器が接合している。沢Ⅰ下部堆積層は湿潤の木質遺物などを大量に含む遺物廃棄層であり、層中の遺物は瀬戸・美濃大窯Ⅰ期を下限とするものと推されてい

る。沢Ⅰ堆積層、中位に粘土層が見られ、この層中の遺物と整地盛土上部Ⅲa層の遺物が接合する。沢Ⅰ堆積層の中位以上の形成は盛土整地作業と関連しているのであろうか。盛土の形成と沢Ⅰ底部への遺物廃棄時期の間に若干の時間差も想定されるが、瀬戸・美濃編年上の一型式差を明瞭に与え得る程ではないようにも思われる。他方整地盛土層そのものの形成を見ると大きくⅢa～Ⅲdの整地(層)に区分され、掘り込み(形成)面の異なる溝遺構が見られることなど、時間的経緯を伴っていることも窺われるところである。その上限は大窯のⅠ期にあることは既に塚田の述べたところである。勝山館跡地内各地点で珠洲焼Ⅶ期の挿鉢が少数ながら出土していることを、勝山館築城の上限を示唆するものとは想定しているが、沢Ⅰ下部への遺物廃棄の上限については、大窯Ⅰ期前(古瀬戸段階)の遺物組成を把握し切れていないこともあり、今少し留保しておきたい。

整地盛土層には基盤礫細粒などの堆積が縞状に見られる。塚田も述べているが、その成因に搦手の三条の空壕掘り上げ土を想定しておきたい。三条の空壕A、B、Cは時間差を持ち、館主体部に近く規模も大きいAが一番新しい。もとより、これらの掘り上げ土が全てこの整地盛土層に移されていると断定し得るものはないが、整地盛土層最上層のⅢa層中の遺物の下限が大窯Ⅰ期中に求められるとするならば、空壕Aの掘り上げ時期をそこに求められるとも思われる。勝山館跡の主体部は、この搦手の空壕Aと正面(大手)の空壕Aで前後を掘り切って防禦とし、その中央に通路を縦貫し、通路左右に建物敷地を造成、住居等が計画的に配されたと想定してきた。勝山館の館主である蠣崎氏一族は1514年には松前大館に進出し、次子などの一族を城代としている。勝山館の築城者とされる松前氏初代武田信広の没年は1494年である。1473年、館の守護に八幡神を創祀しているのは築城時期を示唆するものであり、勝山館跡の基本的形態は、遅くともこの信広の没年から大館移住までの間には整えられているものと想定してきた。本年度の調査はこうした従来からの想定に大きく矛盾するものではないと言えよう。

今回検出した整地盛土層は、平坦な整地面を形成するものではなく、その東部寄りが高く南北に連なるように作られている。その上半には1640年降灰のKo-d火山灰が堆積し、その上に更に盛り土がされ、

土堤ないしは土塁状を呈している。この土堤の東側に平行して夷王山へ至る道が自然遊歩道として整備されている。この遊歩道は江戸時代、松前藩主や家臣が館神八幡宮や夷王山神社（洲崎館跡内の旧毘沙門天王社一現砂館神社）と併せ、松前氏は上ノ国三社と尊称し、藩主の一代一参や、家臣の正月代参を励行した。）へ祖廟詣に歩んだ旧御代参道路（参道）がその前身になっていると推し、それはそのまま勝山館時代の通路として使用されていたと推測していた。1928年生まれの久末久義氏の記憶によれば、かつてはこの土堤の上が夷王山への通路であったということである。或いは当初の整地盛土自体、通路の造成が目的であったとも考えられるところである。館の前面は細い堀底道で防御を堅めているが、背後の高く細い道もまた一度に多数の通行を防むには有効と言えよう。高い盛土面と平行して走る複数の溝跡も路面が流水等で凹んだもの、通路脇の側溝なども想定されなくもない。しかしながら堆積土層断面に明瞭な路面や路肩を見出すことは出来なかった。又、この自然遊歩道の上には、整備工事中用仮設道路が敷設されているため、遊歩道自体の変遷を確認する調査が出来なかったこともあって、こうした問題点が未解明なままに終わった。

なお土堤状の盛土は八幡牧野に放牧している馬が畑地へ進入するのを防ぐためのものと伝えられており、類似のものが墳墓群第Ⅱ地区から、八幡牧野南東まで1 km 余続いている。

又、沢1に境界の役割を想定する塚田の指摘は重要であるが、それが不要となり、対岸（墳墓）の削平土も併せ、埋められる背景も未解明となった。ほぼ平坦に埋まった現在でも沢の最奥部にあたるため、湧水が流れる湿地であり、土地利用度は高いものとは言い難い。筆者は墳墓参路などをかつて想定したことがあり、その確認も併せて試みたが、不明であった。

この沢1西の小高い丘の西斜面下部で幾つかのまとまった陶磁器が偶然採集された。その一点は、1980・81年に調査した27K 2・7地区のゴミ捨場から出土したものと接合した。小高い丘の上に築かれたいくつかの墳墓への供膳（献）等に伴う遺物類と想定したが、故意に割って、放り投げでもしない限り生じないような接合関係である。また一つ勝山館の人たちの分からない行為に遭遇することとなった。

本書には二編の自然科学的な分析、論考を頂戴しIV、Vとすることができた。

分析、ご執筆を賜った山田、水上両先生にはお忙しい中、多大のご尽力を頂戴し、大変なご迷惑をおかけした。深く感謝申し上げたい。山田さんにはこれでもう何度目のお願いであろうか。古くからの友人とはいえ、誠に有難いことである。

一つぶの柿のタネは、勝山館の食生活にとっても大きな広がりをもたらした。「干し柿」にしろ、「生柿」にしろ、柿の実一個が一人歩きた筈はない。寄生虫の検出も初めてのことである。

近くの研究機関が惜し気なく門戸を開き、その高い専門的技術と蓄積された学問の成果を私共に頒ち与えて下さることは誠に有難いことである。

ガラス玉の分析は近年諸機関、各氏が積極的に取り組んでいることの一つである。その由来や背景は勝山館の立脚基盤と大きく関わるものである。各種の分析（データ）の積み重ねによって、共通の認識が確立されていくものと思われる。

いずれにしても、もっと積極的にこうした分野に目を向けるべきであったことを今更ながら深く反省するところである。

史跡等活用事業としての採択をみ、館跡内の整備工事も年々進展を見るところとなっている。墳墓群第Ⅱ地区には、直下の遺構をそのままに型取りし、建物内に再現したガイダンス施設がつけられ、館跡直下、国道脇にある重要文化財笹浪家住宅付属の嘉永元年建設の米・文庫蔵が歴史的建造物として再現され、内部では町単独費用でささやかながら出土品の展示公開も4月から行われる予定である。

旧御代参道路を夷王山へと至る「歴史の道」を辿る、勝山館跡史跡整備のバックボーンが、今少しで形になるところにようやく近づいて来たように思われる。勿論整備の前提となる遺構や遺物の検討は未だに中途半端な状態にあり、整備の一つ一つには大きなためらいがつきまとい、将来の訂正が大いに危惧される所であり、山積する課題の解決には更なる努力が必要である。

そうした課題とは別次元の大きな障害が眼前にたちはだかり、文化財行政そのものが小さな町の中で崩壊してしまいそうな惧れを拭いさることができない。取り敢えずは明年度に事業を繋ぐことで、回生を期することとしたい。（松崎）

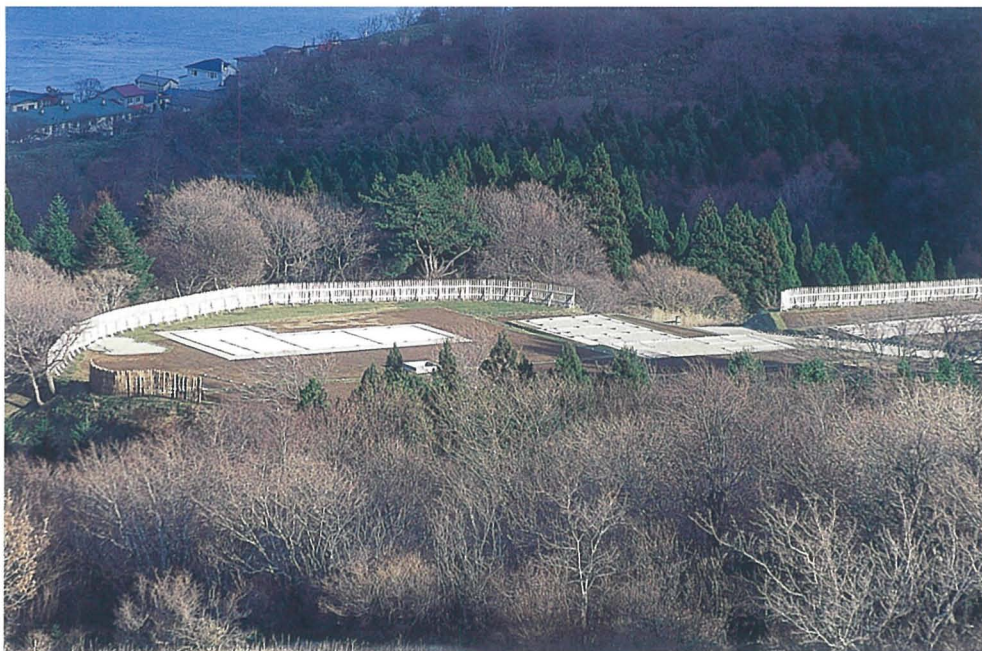
圖 版



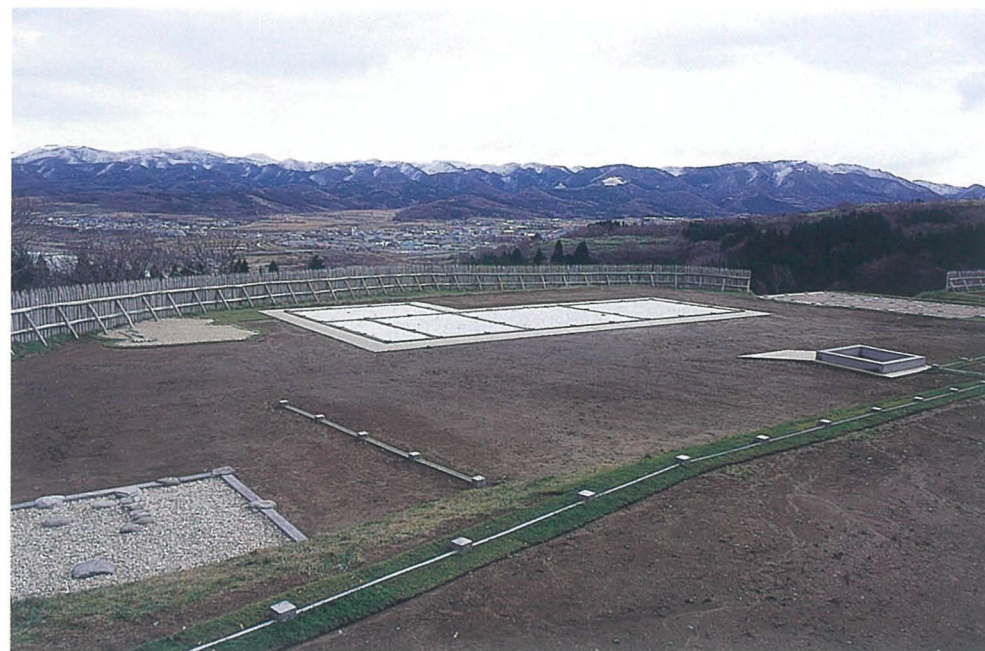
1. 主体部遠景（西、夷王山々頂から）



2. 主体部近景（東から）



1. 客殿跡周辺 (西、夷王山々頂から)



2. 客殿跡周辺近景 (手前 板塀跡、左 銅細作業場跡、客殿跡、他)



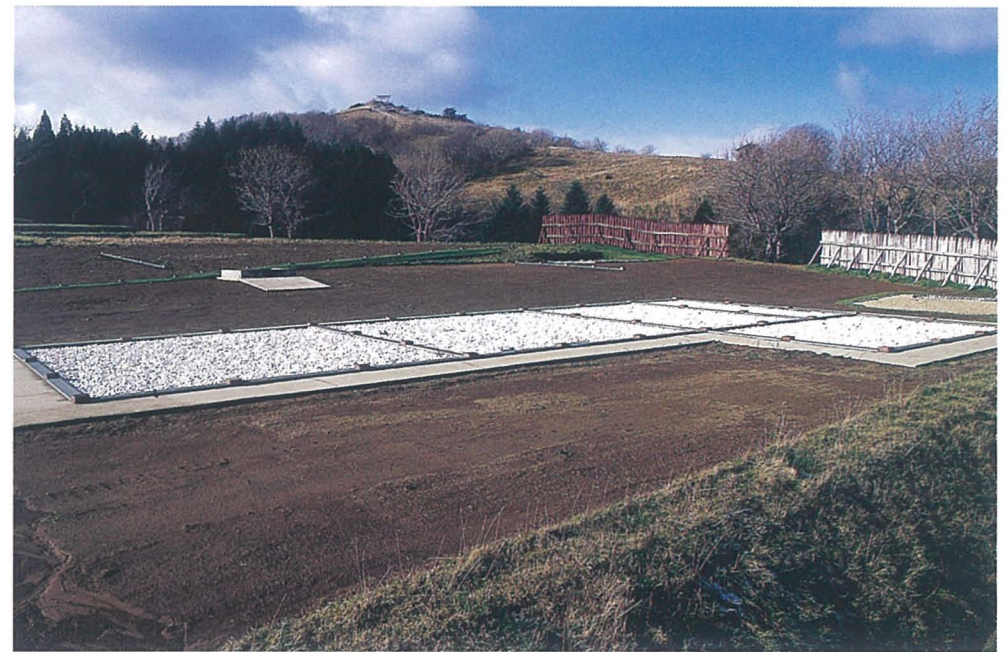
3. 客殿跡周辺 (手前 中央通路、左 厩、右 重臣の住居跡 南から)



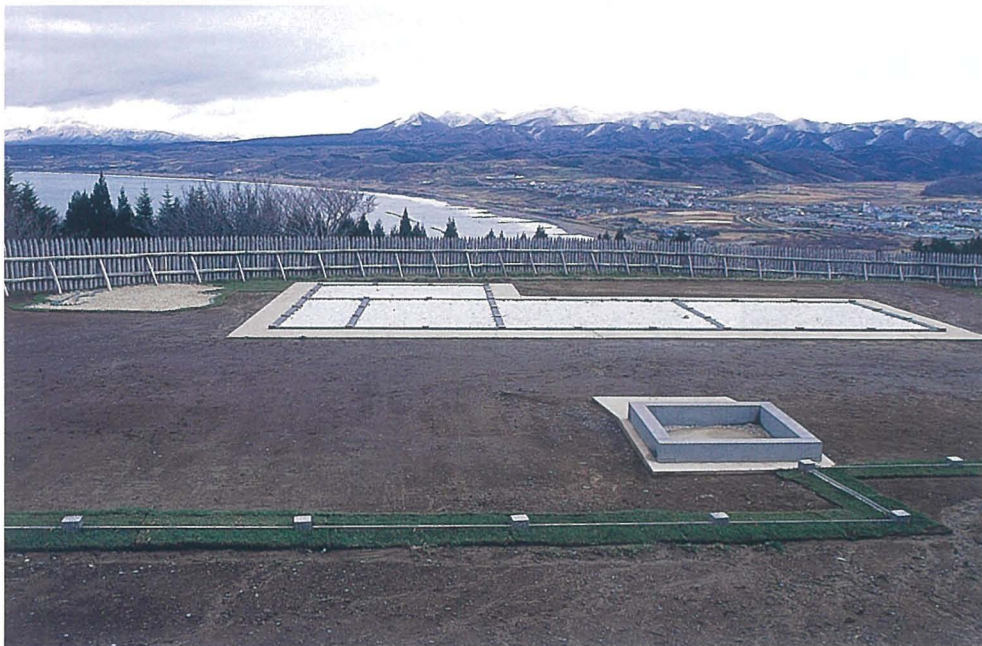
4. 遺構平面表示全景 (手前 中央通路南住居跡、他)



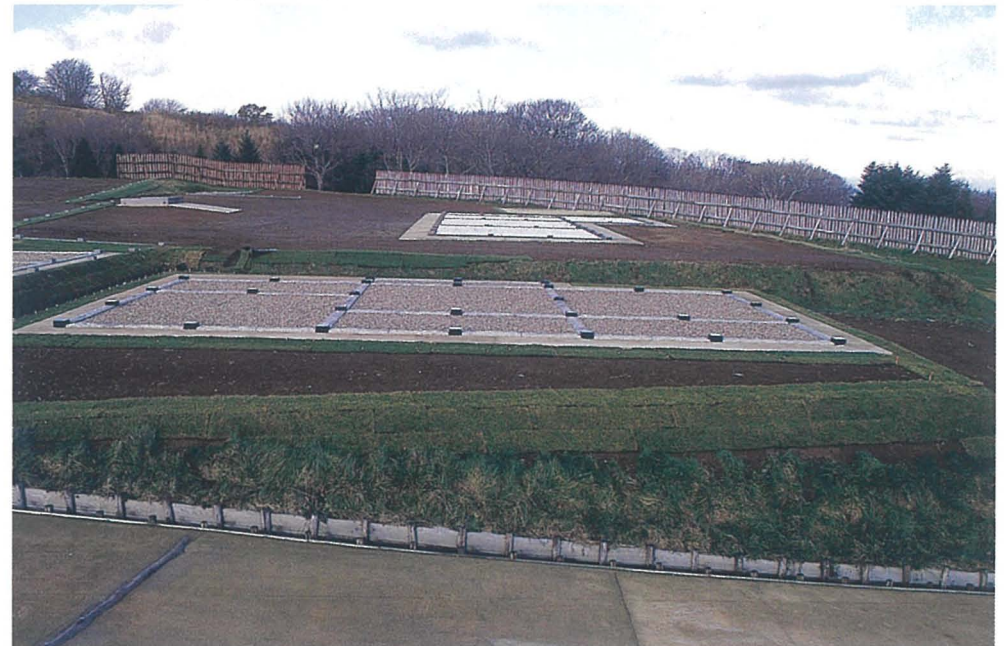
1. 中央通路北遺構平面表示 (左 廐、右 重臣の住居跡)



2. 客殿跡全景 (東から)



3. 客殿跡 (手前 板塀・井戸、左 庭? 跡 南西から)



4. 重臣の住居跡全景 (南東から)



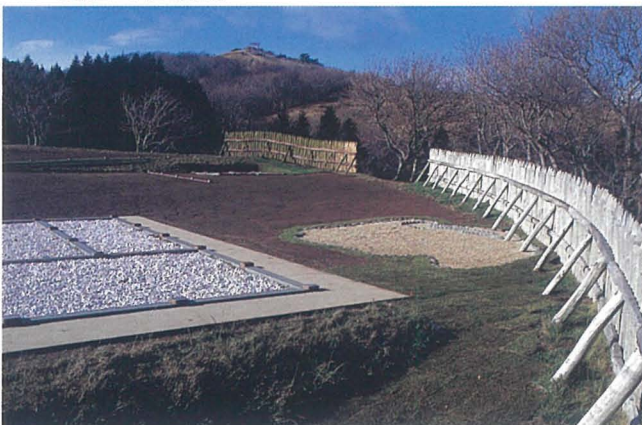
1. 重臣の住居跡



2. 厩跡 (奥 重臣の住居跡)



3. 中央通路南住居跡



4. 客殿跡 (北西部)



5. 銅細作業場跡 (手前 板塀跡)



6. 銅細作業場跡



7. 庭?跡



8. 井戸跡



9. 井戸跡内部



1. 中央通路跡 (北東から)



2. 中央通路跡 (南西から)



3. 正面 (大手) 橋



4. 板塀跡 1



5. 板塀跡 2



6. 中央通路南建物敷地、帯郭跡



7. 園路木橋



8. 後方 (搦手) 橋、ゴミ捨場跡



9. 主体部中景 (南西から)



1. 沢1 完掘 (南西から)



2. 沢1 セクション (南から)



4. 沢1 (西側斜面) 完掘 (南東から)



3. 調査区遠景 (西から)



5. 沢1 木製品出土状況 (北から)



6. 沢1 漆椀出土状況 (西から)



1. 沢1 漆碗出土状況（北から）



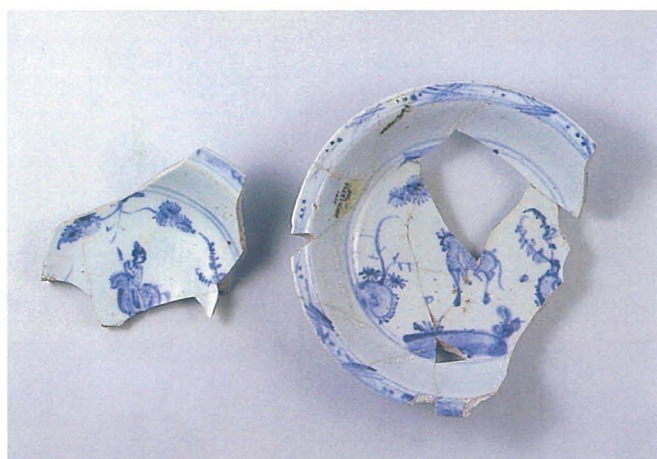
2. 沢2 焼土検出状況（西から）



3. 染付皿・鉄釉碗表採地点（星印斜面下）



4. 出土陶磁器



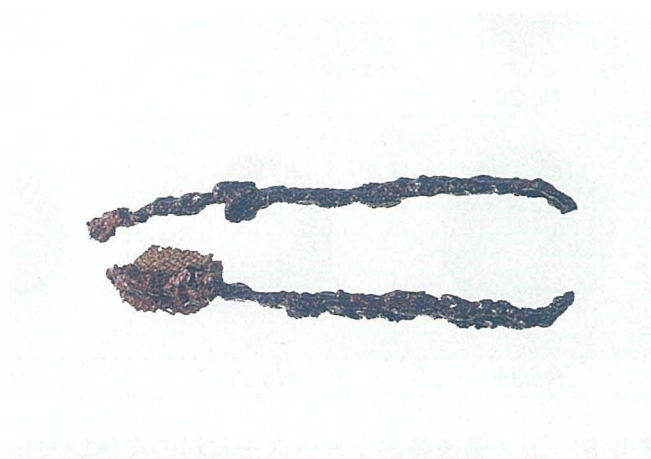
5. 染付皿（表採）







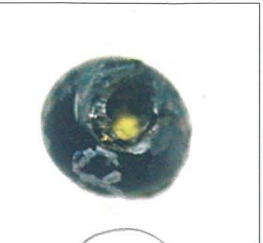
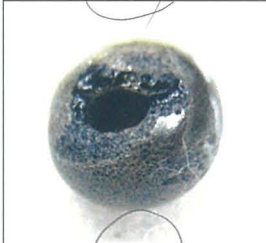











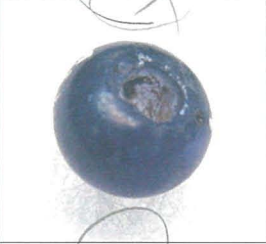















6. 染付皿（表採）



7. 134号墓 銅銭・指節骨？



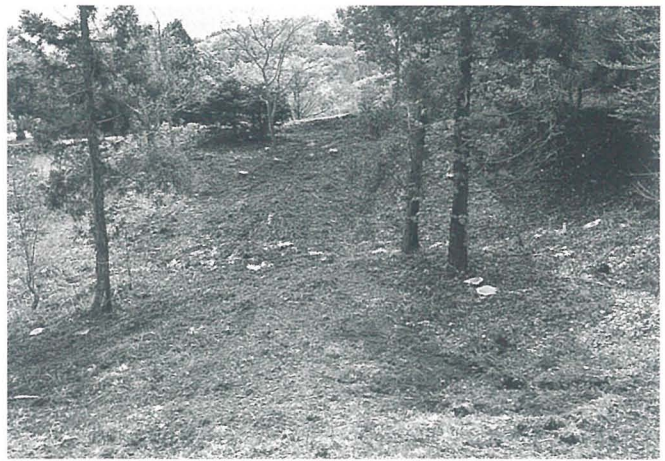
8. 135号墓 毛抜き

				
No.1	No.2	No.3	No.4	No.5
				
No.6	No.7	No.8	No.9	No.10
				
No.11	No.12	No.13	No.14	No.15
				
No.16	No.17	No.18	No.19	No.20
				
No.21	No.22	No.23	No.24	No.25
				
No.26	No.27	No.28	No.29	No.30
				
No.31	No.32	No.33		

PL 8 上ノ国遺跡出土ガラス玉試料の実体顕微鏡写真 (No. は本文『IV. 上ノ国町内の遺跡 (勝山館跡ほか) 出土ガラス玉の非破壊分析』表 1 に同じ)



1. 調査前風景（南西から）



2. 調査前風景（西から）



3. 沢1 調査風景（南から）



4. 沢1 完掘（西から）



5. 沢1 木質層セクション（南から）



6. 沢1 遺物出土状況（北から）



7. 沢1 遺物出土状況（北から）



8. 沢1 へら出土状況（西から）



1. 沢1 木製品出土状況（東から）



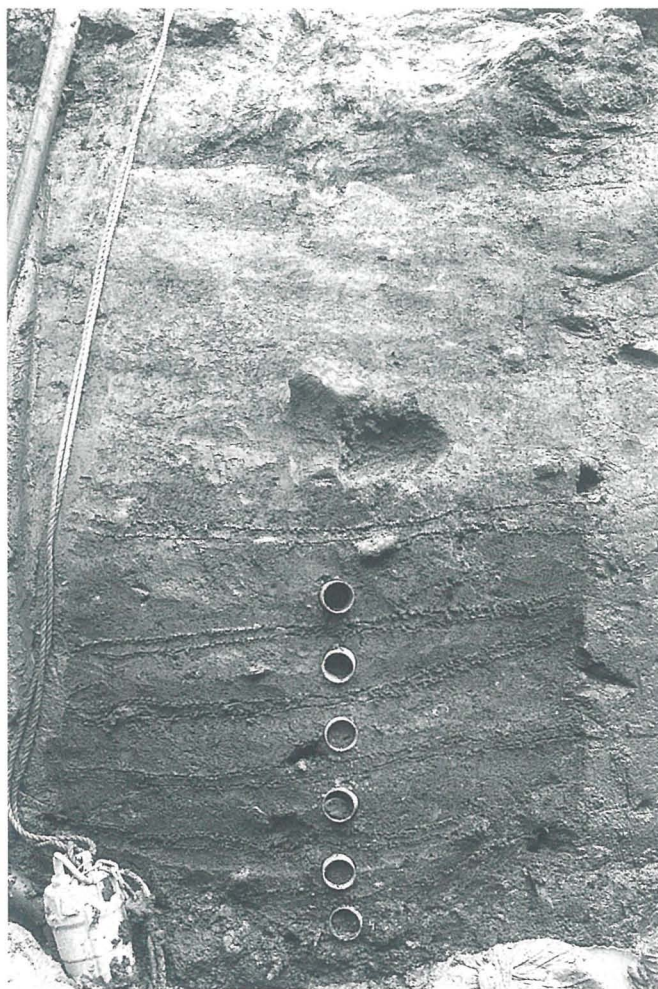
2. 沢1 瀬戸美濃灰釉皿出土状況（北から）



3. 沢1 銅製品出土状況（西から）



4. 沢1 獣骨出土状況（北から）



5. 沢1 土壌サンプル採取状況（南から）



6. 沢1 獣骨出土状況（北から）



7. 整地盛土・溝3 検出（北から）



1. 沢2 遺物出土状況（北から）



2. 溝3 セクション（北から）



3. 沢2 遺物出土状況（西から）



4. 溝3 完掘（北から）



5. 整地盛土・沢2 セクション（北から）



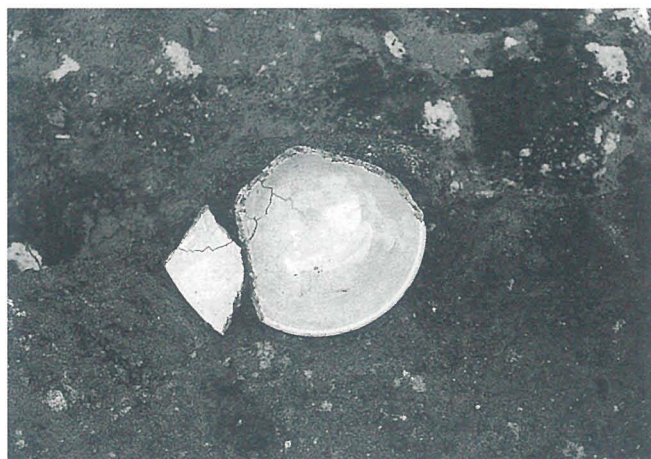
6. 溝1 セクション（南から）



7. 溝1 瀬戸美濃灰釉皿出土状況（北から）



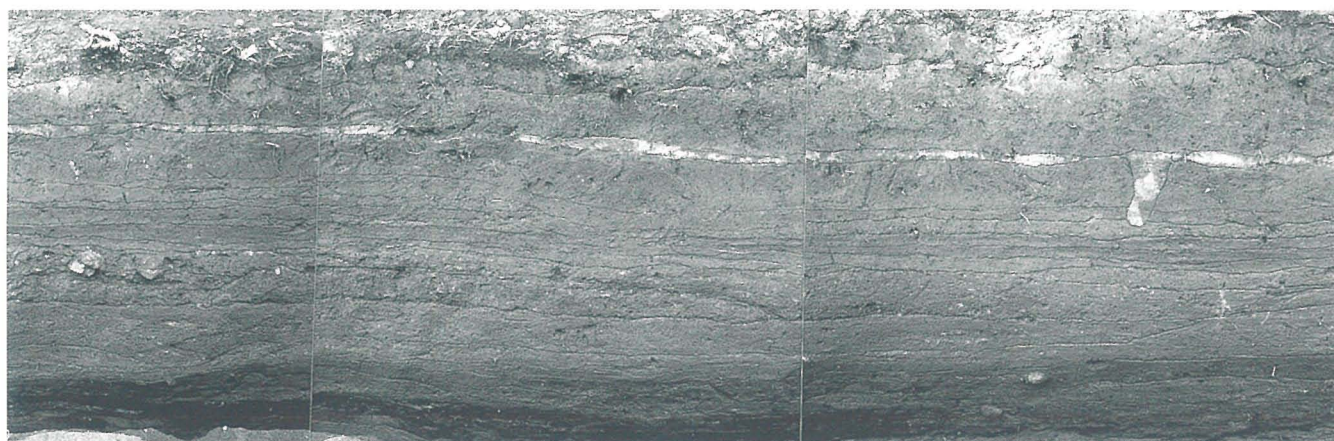
1. 溝1 完掘 (南から)



2. 沢2 瀬戸美濃灰釉碗出土状況 (西から)



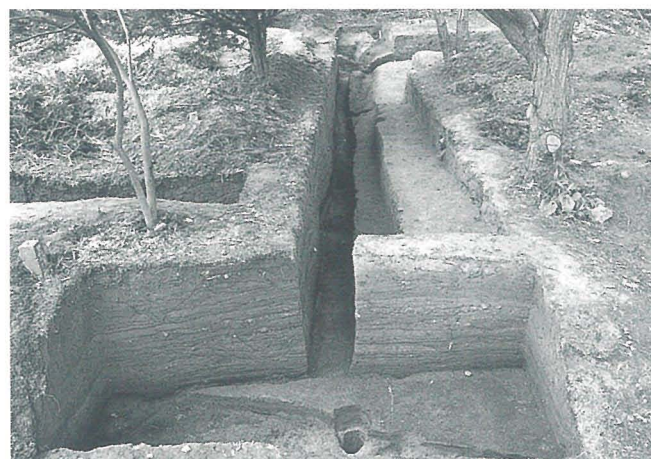
3. 沢2 瀬戸美濃灰釉皿出土状況 (西から)



4. 整地盛土 東壁セクション (西から)



5. トレンチ1 Pit15検出 (西から)



6. トレンチ1 完掘 (北から)



1. 整地盛土 セクション (北から)



2. トレンチ1 Pit16・17 (北から)



3. トレンチ2 土堤セクション (北から)



4. 132号墓 検出 (東から)



5. 132号墓 セクション (東から)



6. 132号墓 遺物出土状況 (東から)



7. 132号墓 銅銭出土状況 (東から)



8. 132号墓 完掘 (東から)



1. 133号墓 検出状況 (西から)



2. 133号墓 セクション (東から)



3. 133号墓 遺物出土状況 (東から)



4. 133号墓 銅銭出土状況 (南から)



5. 133号墓 完掘 (東から)



6. 134号墓 検出 (西から)



7. 134号墓 セクション (西から)



8. 134号墓 遺物出土状況 (北東から)



1. 134号墓 銅銭・指節骨？



2. 134号墓 完掘（西から）



3. 135号墓 セクション（北から）



4. 135号墓 遺物出土状況（北から）



5. 135号墓 銅銭・頭蓋骨・出土状況（北東から）



6. 135号墓 頭蓋骨・歯出土状況（北から）



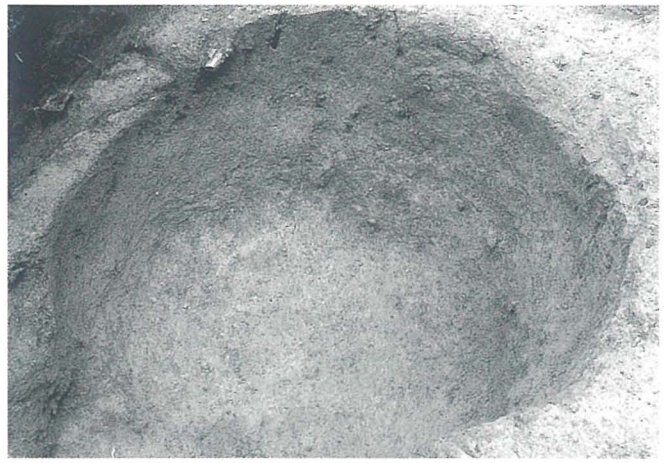
7. 135号墓 歯出土状況（北から）



8. 135号墓 銅銭（わら状遺物付着）



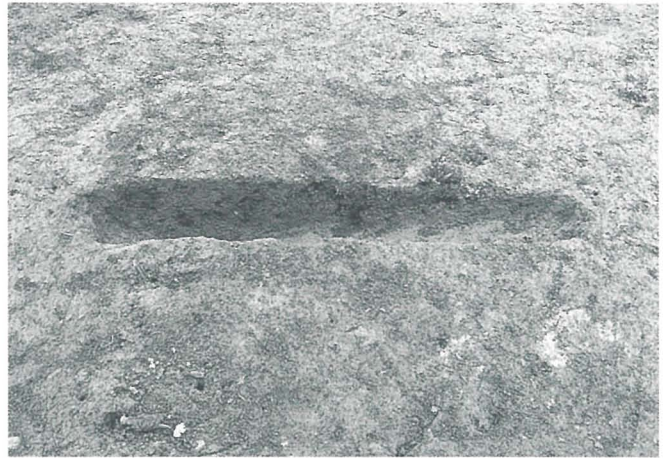
1. 135号墓 銅銭 (わら状遺物除去後)



2. 135号墓 完掘 (北から)



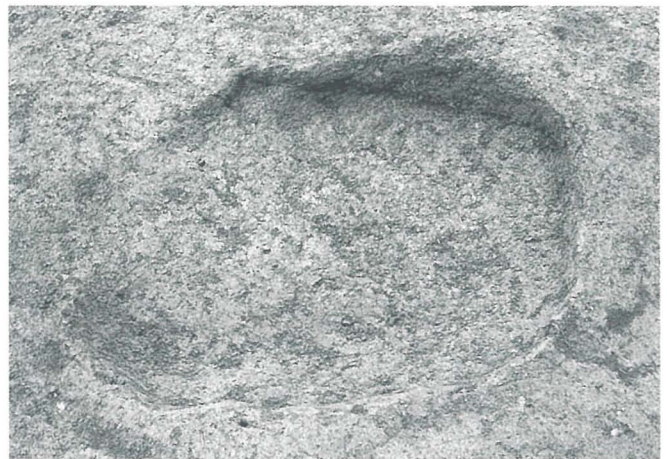
3. 137号墓 検出 (西から)



4. 137号墓 セクション (南から)



5. 137号墓 遺物出土状況 (西から)



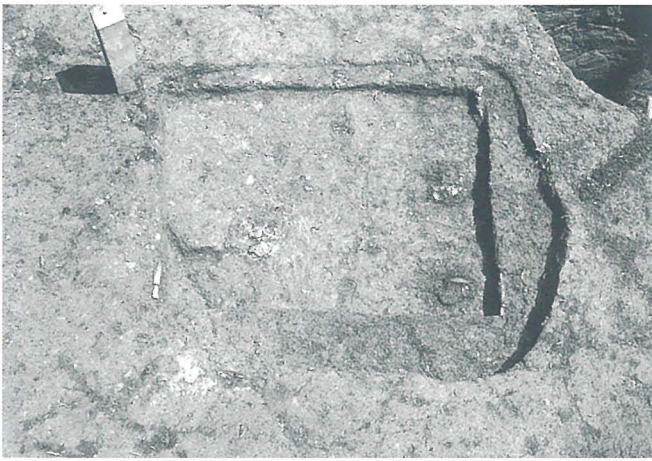
6. 137号墓 完掘 (西から)



7. 138号墓 検出 (西から)



8. 138号墓 セクション (西から)



1. 138号墓 遺物出土状況 (西から)



2. 138号墓 完掘 (西から)



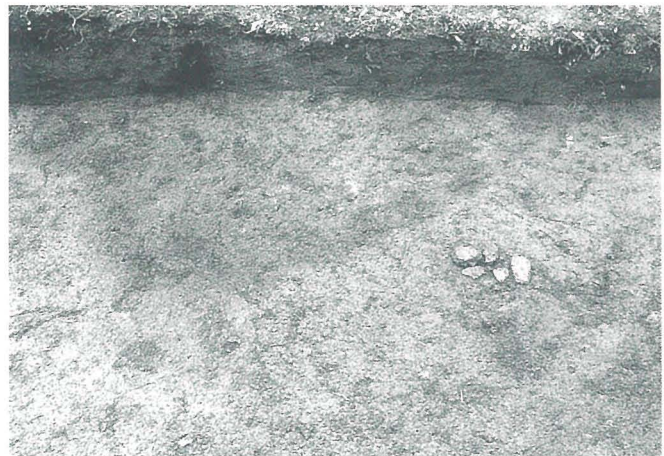
3. 139・141号墓、溝2 検出 (西から)



4. 139・141号墓 セクション (西から)



5. 140号墓 セクション (東から)



6. 143号墓 検出 (西から)



7. 144号墓 セクション (南西から)



8. 144号墓 銅銭 (盛土より出土)



1. 土壌1 セクション (北から)



2. 土壌1 完掘 (北から)



3. 土壌2 セクション (東から)



4. 土壌3 セクション (南から)



5. 土壌3 完掘 (東から)



6. トレンチ3 調査前風景 (東から)



7. トレンチ3 セクション (南から)



8. トレンチ4~8 遠景 (北東から)



1. トレンチ4 セクション (南から)



2. トレンチ5 完掘 (南から)



3. トレンチ6 完掘 (南から)



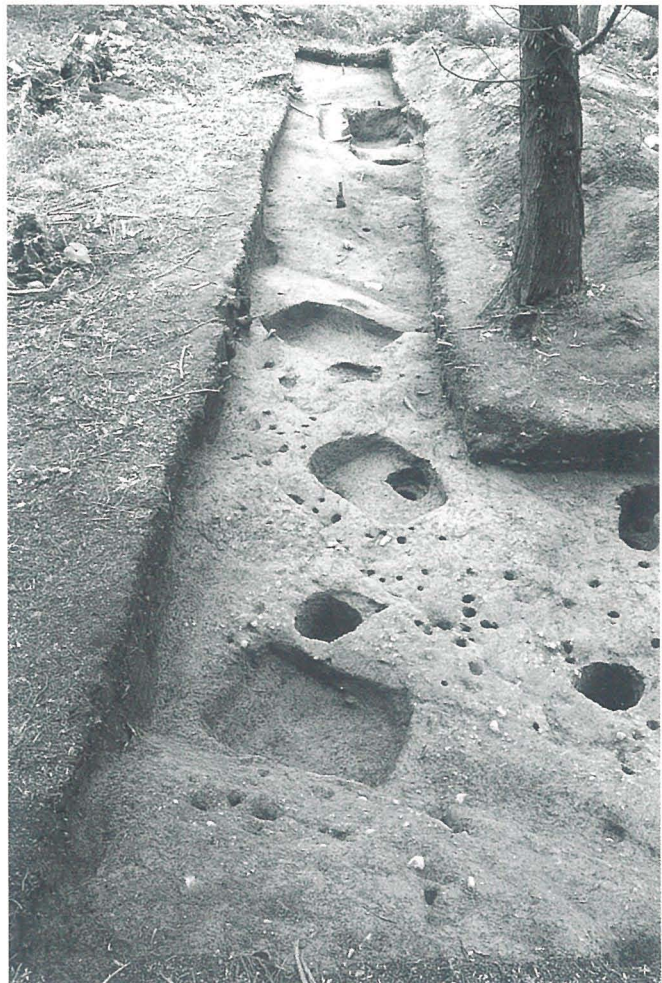
4. トレンチ7 完掘 (南から)



5. トレンチ8 完掘 (南から)



6. トレンチ1 完掘 (西から)



7. トレンチ1 完掘 (南から)



1. トレンチ1 完掘 (北から)



2. トレンチ1 柱列 完掘 (西から)



3. トレンチ1 調査風景 (西から)



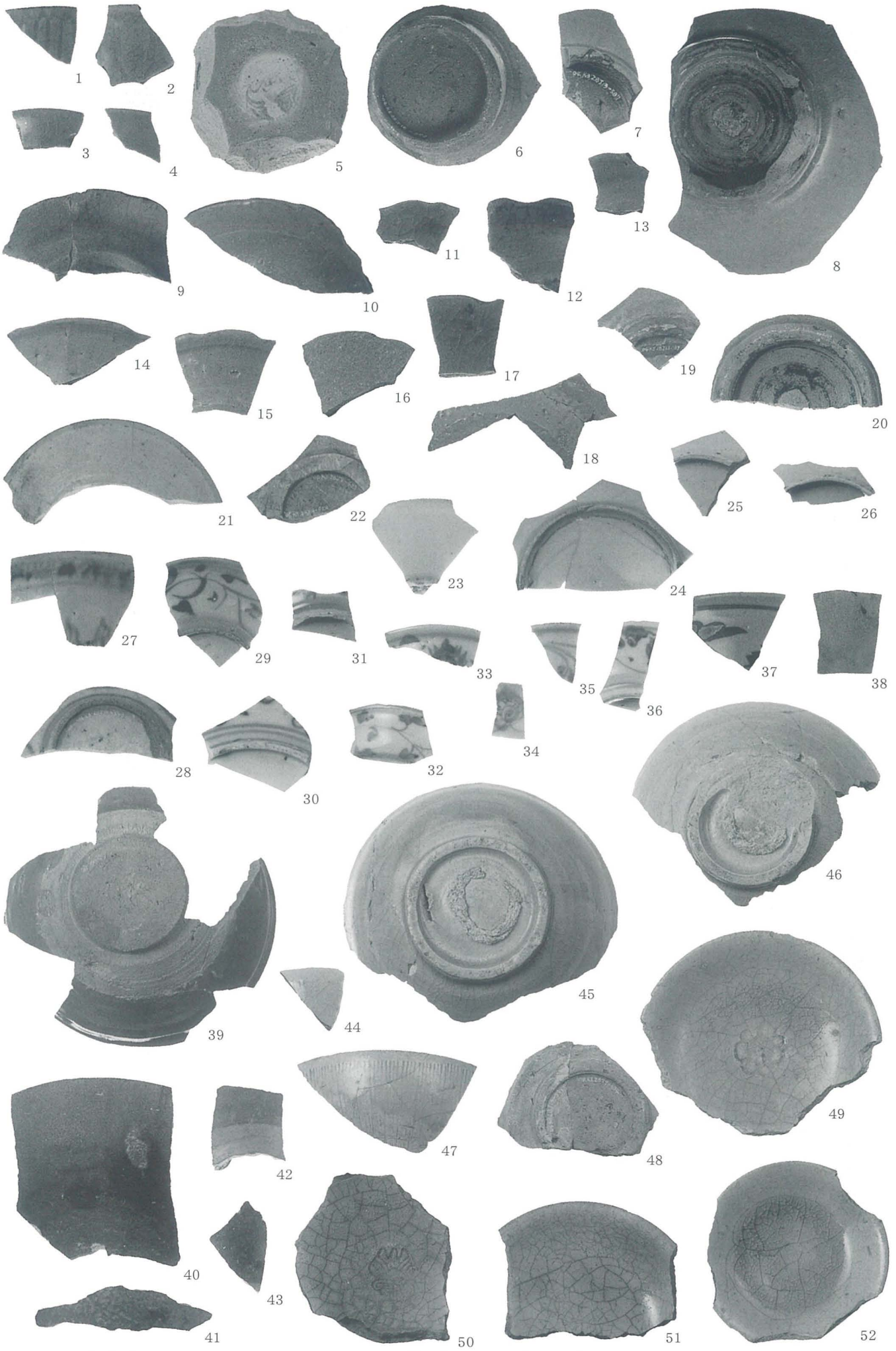
4. トレンチ1 段 検出 (北から)

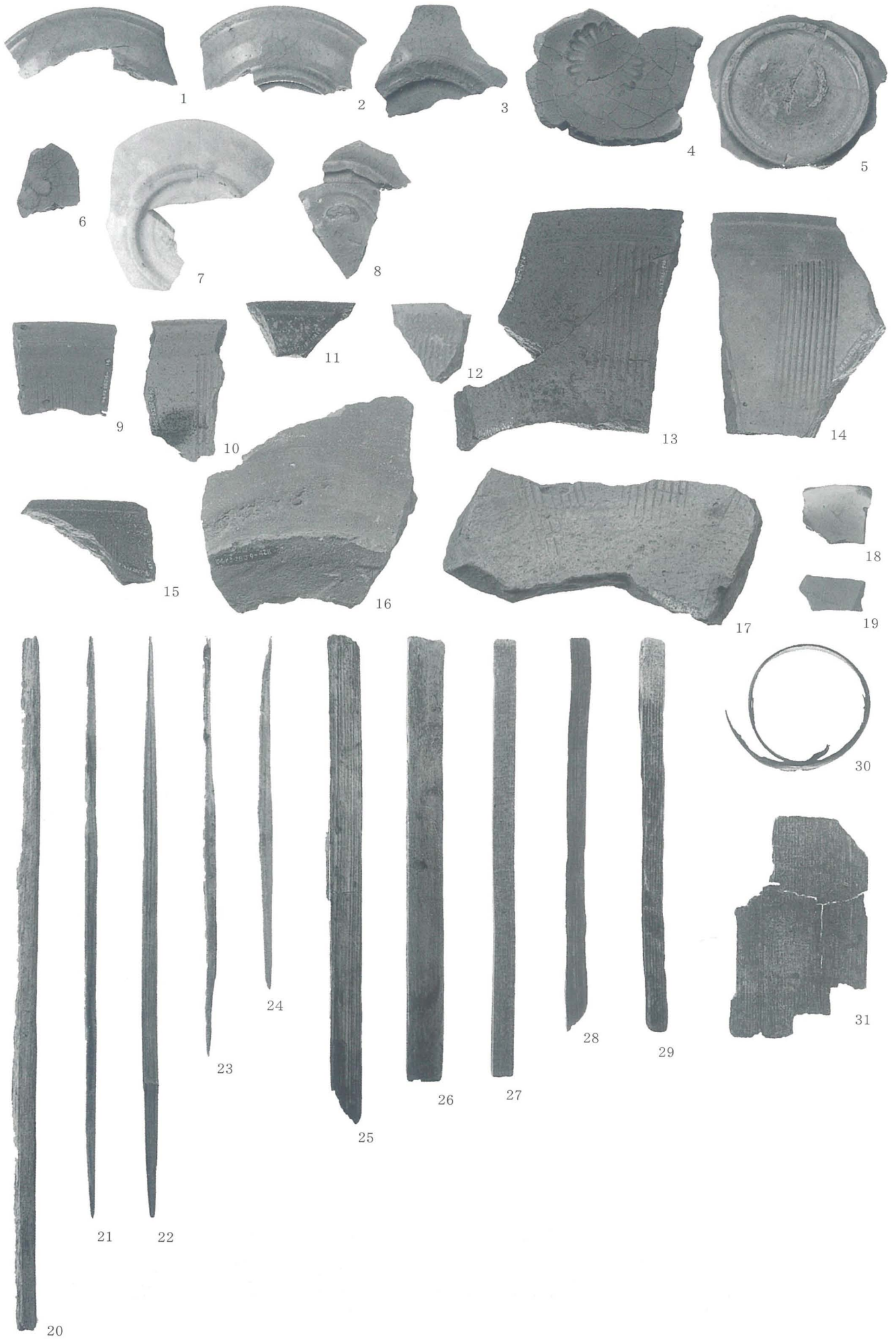


5. トレンチ1 完掘 (南から)



6. トレンチ1 完掘 (東から)







1



2



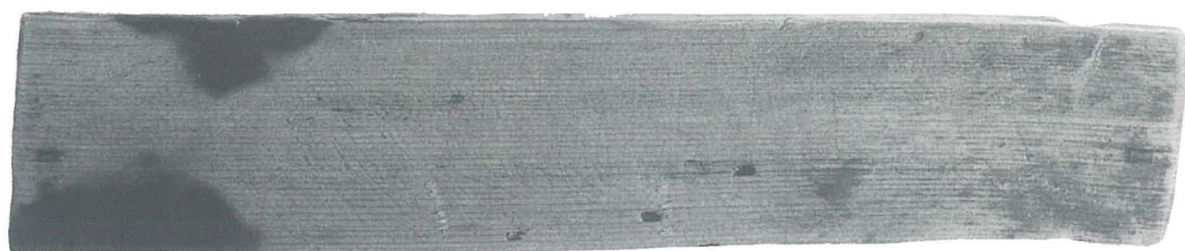
4



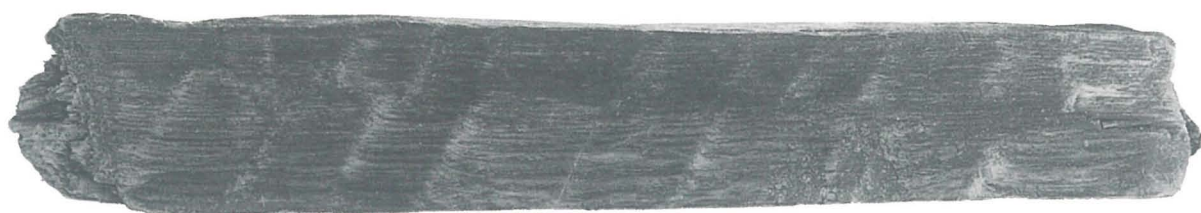
5



3

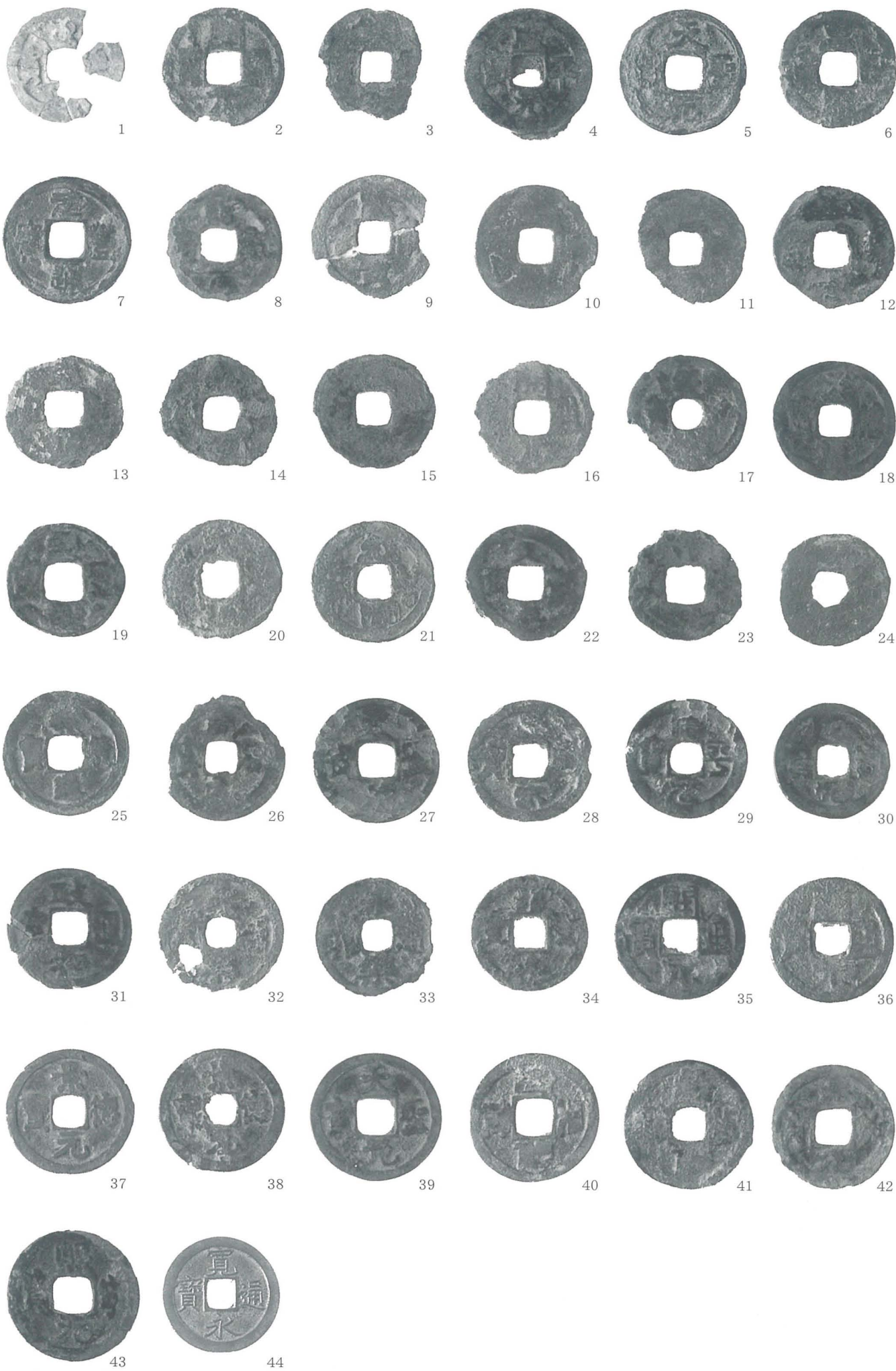


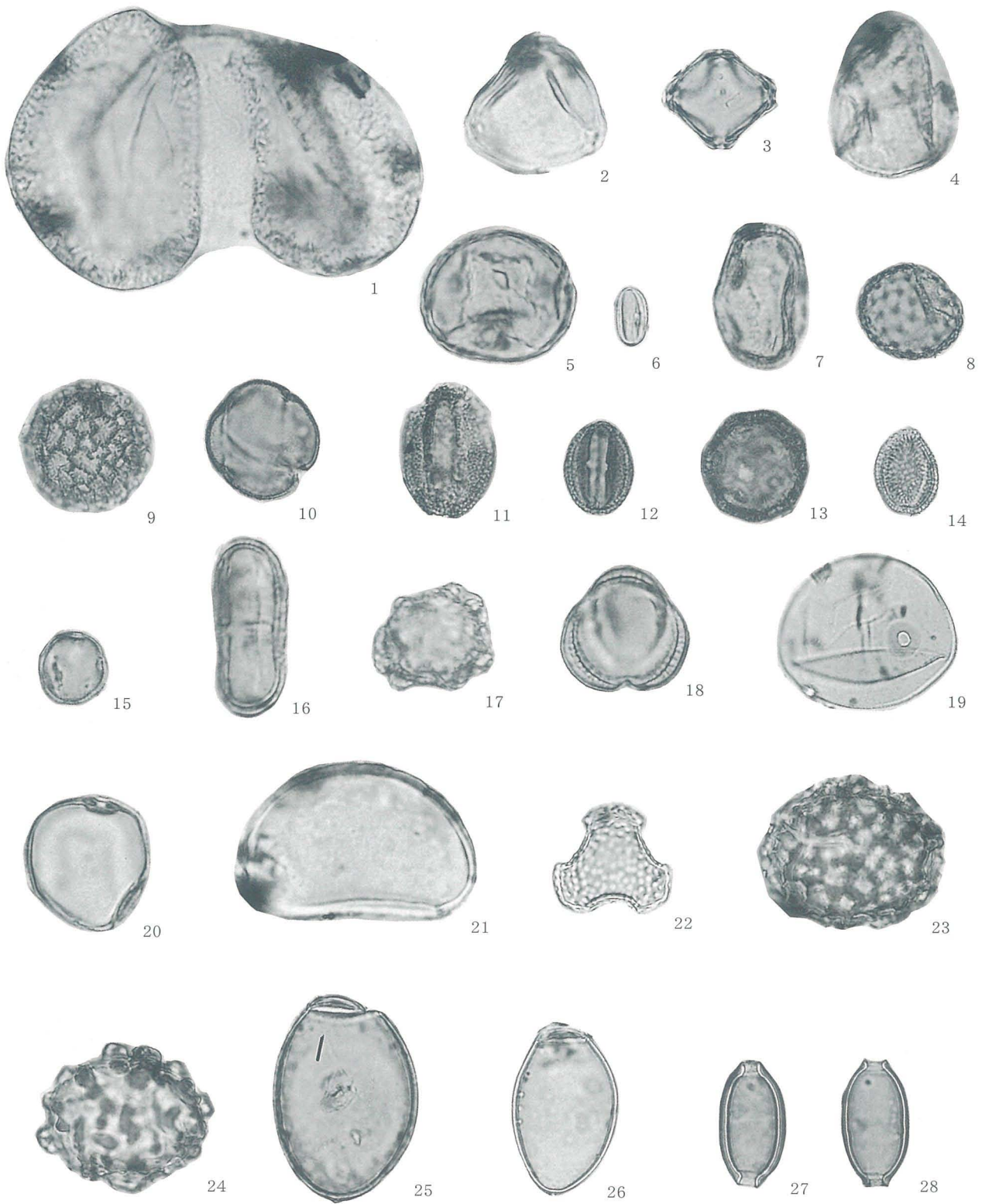
6



7







P.L. 26 検出された花粉・孢子

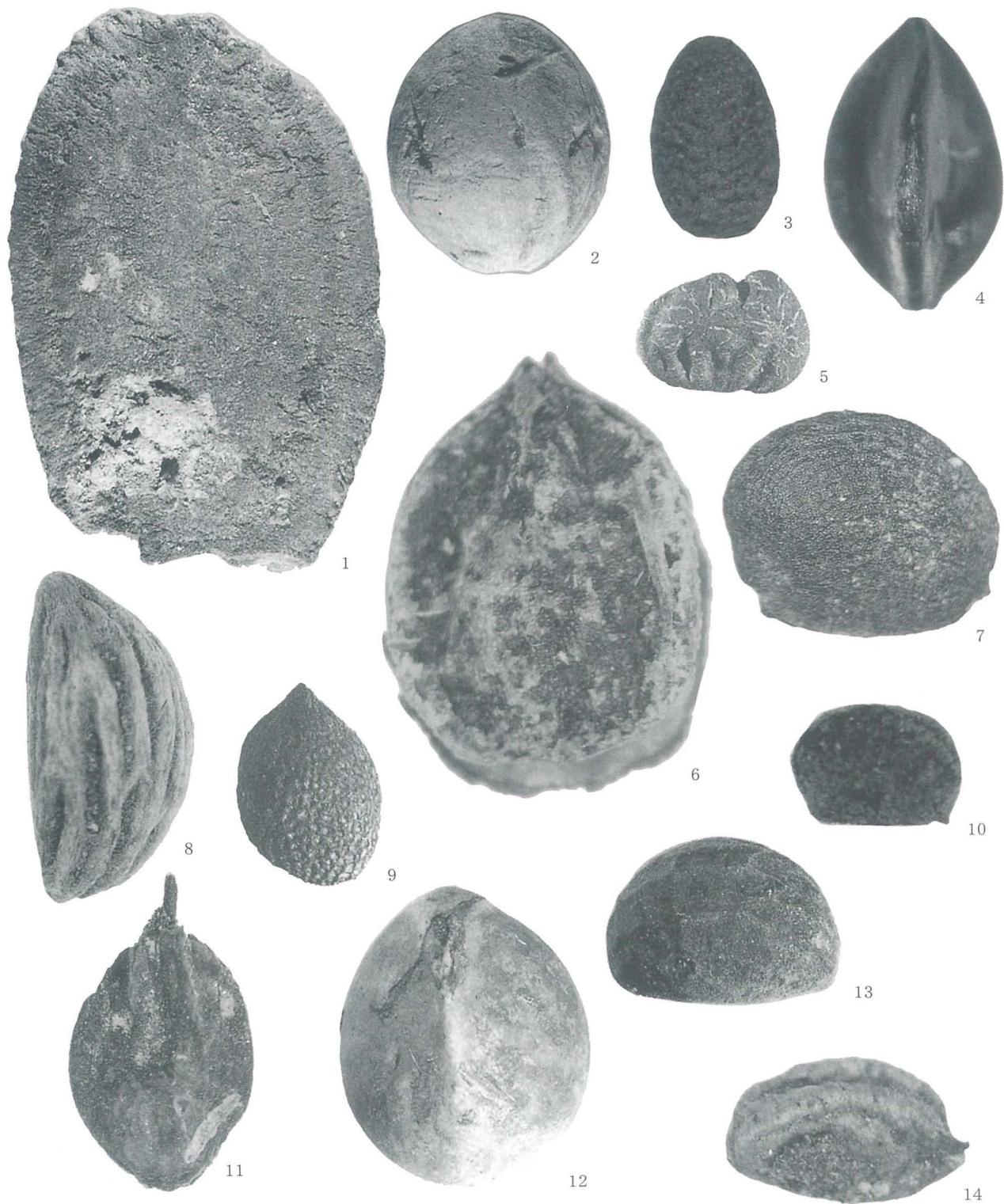
1. マツ属(No.102)、 2. カバノキ属(No.101)、 3. ハンノキ属(No.101)、 4. コナラ亜属(No.103)、
 5. ニレ属(No.103)、 6. クリ属(No.102)、 7. タラノキ属(No.101)、 8. アカザ科(No.105)、 9. タデ科(No.101)、
 10. タデ科(No.103)、 11. ソバ属(No.101)、 12. ソバ属(No.103)、 13. ナデシコ科(No.103)、 14. アブラナ科(No.102)、
 15. キンポウゲ科(No.101)、 16. セリ科(No.103)、 17. アリノトウグサ科(No.101)、 18. ヨモギ属(No.105)、
 19. イネ科(No.105、 $>48\mu$)、 20. イネ科(No.101)、 21. 単溝型孢子(No.102)、 22. ヒカゲノカズラ科(No.104)、
 23. 回虫卵(No.106)、 24. 回虫卵(No.104)、 25. 日本海裂頭条虫卵(No.106)、 26. 日本海裂頭条虫卵(No.101)、
 27. 鞭虫卵(No.106)、 28. 鞭虫卵(No.102)、

(3、6、8、11~14、19、22~28が $\times 625$ 、1、2、4、5、7、10、15~18、20~21が $\times 800$)



PL27 出土した植物種子 1

1. キビ (No.5)、2. ヒエ属 (No.9)、3. ソバ (No.107)、4. アサ (No.1)、5. カキ (No.112)、6. ベニバナ (No.23)、7. サンショウ (No.95)、8. マタタビ属 (No.28)、9. ユウガオ (No.45)、10. キハダ (No.88)、11. キイチゴ属 (No.89)、12. ミズキ (No.93)、13. ヤマダマ (No.40)、14. ホウノキ (No.10)、15. ブドウ属 (No.87)、16. イチイ (No.64)



PL 28 出土した植物種子 2

1. キカラスウリ (No.41)、2. サクラ属 (No.65)、3. エゾニワトコ (No.13)、4. タデ属 (No.6)、
5. ウルシ属 (No.59)、6. ガマズミ属 (No.18)、7. ナス科 (No.27)、8. セリ科 (No.62)、9. ヒルガオ科 (No.78)、
10. タラノキ属 (No.42)、11. カヤツリグサ科 (No.72)、12. クスノキ科 (No.15)、13. クサギ (No.85)、
14. オモダカ科 (No.14)

報 告 書 抄 録

ふりがな	しせきかみのくにかつやまだてあと							
書名	史跡上之国勝山館跡XXVI							
副書名	平成16年度発掘調査環境整備事業概要							
巻次	26							
シリーズ名								
シリーズ								
編著者名	松崎 水穂 塚田 直哉							
編集機関	上ノ国町教育委員会							
所在地	〒049-0611 北海道檜山郡上ノ国町字大留100 TEL. 01395-5-2230							
発行年月日	2005年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かつやまだてあと 勝山館跡	かみのくにちよう 上ノ国町 あざかつやま 字勝山	013625	C-02-3	41° 8′	140° 6′	平成16年5月12日 ～ 平成16年7月30日	171.7㎡	史跡整備事業（史跡等総合整備活用推進事業）
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
勝山館跡	城館	中世	整地盛土、沢跡、土葬墓、土壙、溝、柱穴他	陶磁器（青磁、白磁、染付、赤絵、瀬戸・美濃、越前）、かわらけ、木製品（箸・串、折敷他）、鉄製品（釘、鍋、小柄、ヤス他）、銅製品（銭他）、石製品（硯、砥石）、鍛冶関連遺物（羽口、鉄滓、不明溶解物）、骨角器、自然遺物他		昭和55・56年度に検出した沢跡や昭和58年度に検出した整地盛土の延長が確認された。夷王山墳墓群第。地区で土葬墓が検出された。		

史跡 上之国勝山館跡 XXVI

平成16年度 発掘調査環境整備事業概要

発 行：上ノ国町教育委員会

北海道松山郡上ノ国町字大留100

印 刷：平成17年 3 月29日

発 行：平成17年 3 月31日

印刷所：(有) 三 和 印 刷

